

計	現金			計
	何々	額何公債証券面	金庫へ預金	

右及報告候也

明治何年 月 日

宮司氏 名印

知事宛

備考

一前年度現金越高ハ前年度保存蓄積金ノ内現金ニテ本年度ニ繰越シタルモノヲ掲ク
 一本年度蓄積金ハ本年配付ヲ受ケタル永遠資本トシテ蓄積スヘキ金額ヲ掲ク

○號外達 明治二十四年三月十二日

官幣中社 鎌倉宮 官幣小社 大國魂神社

今般官國幣社保存金取扱規則相定候ニ付テハ明治二十年以降既ニ各社ニ於テ積立タル保存資金ハ永遠資本金ノ部へ差加ヘ積立ツヘシ

國幣中社 鶴岡八幡宮 國幣中社 寒川神社

○訓令甲第五十八號 明治二十四年六月十八日

郡役所 市役所

社寺官有境内地ヲ他人ニ使用セシムルトキハ其社寺ヨリ縣廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ
 但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺限承諾スルコトヲ得
 社寺官有境内地ノ竹木ヲ伐採シ及枯損障礙木處分ニ關スルモノモ尙前項ニ依ラシムヘシ
 社寺官有境内地ノ使用料并竹木其他ノ收益ハ其社寺ノ收入ニ屬スヘシ
 但其收入財産ハ明治十四年甲第百三十六號布達ニ依リ整理セシムヘシ
 明治十九年八月乙第百八十號達ハ廢止ス

○訓令甲第五十九號 明治二十四年六月十八日

郡役所 市役所

社寺總代人ノ儀ハ滿三年毎ニ改選シ若其期限中犯罪其他不長ノ所爲アルトキハ臨時改選シ之ヲ市役所若シハ町村役場へ届出シムヘシ尤臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ

明治十四年八月本縣甲第百三十六號布達ニ依リ選定セラレタル總代人ハ此際一般改選セシムヘシ
同上布達中共有トアルハ社寺有ノ儀ト心得シムヘシ

○訓令甲第六十九號

明治二十四年七月廿三日

郡役所 市役所

府縣鄉村社神官奉務規則左ノ通改正相成候條此旨神官ニ達スヘシ

府縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖トモ苟クモ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○號外達

明治二十四年八月二十四日

官國幣社

官國幣社神職奉務規則左ノ通定メラル此旨心得ヘシ

官國幣社神職奉務規則

第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スヘシ

第二條 官國幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スベカラス

第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ地方廳及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

- 第五條 人民ノ請求ニ應シ神符像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス悠久ノ保存ヲ要ス
- 第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ樣監護シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ
- 第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ官國幣社ト雖モ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上地方廳ノ許可ヲ得ヘシ
- 第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○神奈川縣訓令第五號

明治二十四年十月廿日

郡役所 市役所

- 本年七月訓令甲第六十九號府縣鄉村社神官奉務規則ノ趣意ニ基キ左ノ手續ニ據リ縣鄉村社ノ祠官祠掌ヲシテ神官取締規約ヲ設ケ當廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ
- 一 神官取締規約ハ縣鄉村社ノ祠官掌ヲシテ之ヲ締結セシムルモノトス
 - 一 各祠官掌ヲシテ委員ヲ選舉シ規約締結ノ事項ヲ委任セシムルモノトス
 - 一 前項委員ノ選舉ハ各郡市ヲ以テ一區(大住郡國後郡ハ特ニ之レヲ一區トス)トシ每區一名ヲ互選セシムルモノトス
 - 一 選舉ニ關スル事務ハ郡役所ニ於テ之レヲ管理スルモノトス

- 一 選舉會ハ本年十一月十五日以前ニ於テ日限ヲ定メ各郡市役所ニ於テ之レヲ開クモノトス
- 一 投票ハ互選人各自會場ニ於テ之レヲ行フヘシ事故アリ參會シ得サルモノハ封上ニ住所職名氏名ヲ記シ他人ニ托シテ差出スコトヲ得
- 一 選舉ハ記名投票ヲ用井投票總數ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス
- 但當選者ハ正當ノ事故ナクシテ其當選ヲ辭スルコトヲ得サルモノトス
- 一 當選者ニシテ正當ノ事故アリ其當選ヲ辭シタルトキハ次點者ヲ以テ當選者トス
- 一 當選人定マリタルトキハ各郡市役所ハ其當選者ノ住所職名氏名ヲ縣廳ニ即報スルモノトス
- 一 縣廳ハ前項ノ報告ヲ受ケ之レヲ取纏メ各郡市役所ヲ經テ之レヲ各祠官掌ニ告知スルモノトス
- 一 委員ハ縣廳ヨリ指定スル期日及場所ニ會同シテ規約書ヲ調製シ之レヲ知事ニ提出スルモノトス
- 一 規約書ニ知事ノ認可ヲ得タルトキハ委員ハ其全文ヲ謄寫シ之レヲ各自選舉區内ノ祠官掌ニ配付スルモノトス
- 一 委員ノ職務執行ニ要スル一切ノ費用ハ各祠官掌ノ負擔トシ其出金割合ハ委員ニ於テ之レヲ定ムルモノトス

○訓令第二十七號

明治二十四年十二月二十八日

郡役所 市役所

社寺總代人ノ儀ニ付テハ明治十四年八月本縣甲第百三十六號布達及同二十四年六月訓令甲第五十九號

等訓達ノ次第モ有之候處該總代人ニ關シ尙左之通心得ヘシ
 社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之カ爲メ事務ヲ滯滞セシム
 ル等ノ弊害アリト見認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總
 代人ノ員數ヲ指定スヘキニ付此場合ニ於テハ其事情等ヲ當廳ヘ詳具スヘシ
 社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡カスヘキハ勿論
 ナレトモ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干涉シ社寺ノ實務ヲ妨ク社寺收
 入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス
 右訓令ス

○達第五十六號 明治二十六年九月二十九日

官 國 幣 社

神社ハ祭典祝日等ニ付闕ク可ラサル儀式モ有之且社頭管理上ニ就テモ亦夫々ノ要務有之神職ハ一切内
 外ノ社務ヲ併セ司ル等ニ付官司ハ勿論禰宜主典ト雖モ官祭ヲ始メ月次祭典等謂ハレナク闕席不相成ノ
 ミナラス日々社頭又ハ社務所ニ於テ各其職務ニ從事ス可キモノニ有之候條神職一同此趣旨ヲ體シ怠慢
 ノ所爲無之様致スヘシ

○達第十八號 明治二十七年五月十八日

官幣中社 鎌 倉 宮
 國幣中社 寒川神社 鶴岡八幡宮

官幣社及國幣社ノ大祭并公式ノ祭祀左ノ通之ヲ定ム

- 大 祭
- 一 祈年祭
 - 二 新嘗祭
 - 三 例祭
 - 四 臨時奉幣式
 - 五 本殿遷座
- 公 式 ノ 祭 祀
- 一 元始祭
 - 二 紀元節
 - 三 大祓
 - 四 遙拜式
 - 五 假殿遷座
 - 六 神社ニ由緒アル祭祀

○神奈川縣訓令第四十一號 明治二十七年五月二十一日

郡 役 所 市 役 所

官幣社及國幣社ノ大祭并公式ノ祭祀左ノ通相定メタルニ付縣社以下ノ神社ノ大祭并公式ノ祭祀ハ之ニ
 準シ行ハシムヘシ

- 大 祭
- 一 祈年祭
 - 二 新嘗祭
 - 三 例祭
 - 四 臨時奉幣式
 - 五 本殿遷座
- 公 式 ノ 祭 祀
- 一 元始祭
 - 二 紀元節
 - 三 大祓
 - 四 遙拜式
 - 五 假殿遷座
 - 六 神社ニ由緒アル

祭祀

○神奈川縣訓令第十九號

明治二十八年四月十六日

郡役所 市役所

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シ取扱フヘシ

○神奈川縣訓令第五十二號

明治二十九年九月十五日

郡役所 市役所

- 一 府縣社以下神社所有ニ係ル版權地所建物國債證券商會社株券ノ類ニシテ向後新ニ登錄シ若ハ登錄ヲ變更スル場合ニ於テハ渾テ該神社ノ名ニ於テ登錄ヲ請ケムヘシ
- 二 前項登錄ヲ請ケル神社ニ於テハ神社印ヲ調製シ郷社以上ニ在テハ社司村社以下ニ在テハ社掌之ヲ保管スルモノトス
- 三 神社印鑑ハ社司社掌氏子又ハ信徒總代連署シ市ニ在テハ市長ニ届出町村ニ在テハ町村長ニ届出シムヘシ但シ改印シタルトキ亦同シ
- 四 市町村長ハ印鑑簿ヲ調製シ之ヲ保存スルモノトス

○達第三十一號

明治二十九年九月十五日

三十年訓令第三十六號ヲ以テ各項中改正

三十年達第十四號ヲ以テ本文中削除

鎌倉宮社務所

鶴岡八幡宮社務所

寒川神社々務所

官國幣社所有ニ係ル版權、地所建物、國債証券、商會社株券ノ類ニシテ向後新ニ登錄シ若クハ登錄ヲ變更スル場合ニ於テハ渾テ該神社ノ名ニ於テ登錄ヲ請ケ可シ

○達第十五號

明治三十年四月三十日

鎌倉宮社務所

寒川神社社務所

鶴岡八幡宮社務所

自今官國幣社宮司ニシテ其職務上調製スヘキ書面ニハ明治八年太政官第一百號達ニ準シ職印ヲ押用スヘシ

○達第七十九號

明治三十年七月一日

鎌倉宮 寒川神社 鶴岡八幡宮

官國幣社宮司赴任旅費支給規程左ノ通之ヲ定ム

官國幣社宮司赴任旅費支給規程

三十三年達第三十六號ヲ以テ第一條第三條改正

第一條 旅費ハ左表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス但水路旅行及一日ノ行程ヲ超ヘサル旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ

瀛車賃 <small>一哩</small>	船賃 <small>一海里</small>	車馬賃 <small>一里</small>	宿泊料 <small>一夜</small>	日當 <small>一日</small>
金拾錢	金拾錢	金四拾錢	金壹圓五拾錢	金壹圓

第二條 宮司新補者ノ旅費ハ實際辭令ヲ交付セシ地ヨリ計算シ之ヲ支給ス

宮司ニシテ他神社ノ宮司權宮司ニ轉補セシ者ノ旅費ハ前職任地ヨリ計算シ之ヲ支給ス

新補轉補ニ關セス赴任スヘキ神社所在地ヘノ距離一里未滿ノモノハ旅費ヲ支給セズ

第三條 日當ハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ支給ス但數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第四條 旅費ハ本人任地到着ノ後支給スルモノトス

第五條 旅費ハ官國幣社共通金ヨリ支出スルモノトス

○達第五十二號 明治三十一年六月二十日

官幣中社 鎌倉宮

國幣中社 寒川神社

國幣中社 鶴岡八幡宮

近來神社寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタルモノ多シ是レ管理不行届ノ致ス所ニシテ不都合ヲ免カレサル義ニ有之就テハ平素特ニ注意警戒スヘシ

○神奈川縣令第四十號

明治三十一年八月三十日

古社寺保存金管理規則左ノ通之ヲ定ム

古社寺保存金管理規則

第一條 社寺ニシテ古社寺保存法第十條ニ據リ其ノ保存金ノ下付ヲ受ケタルトキハ受領後七日以内ニ知事ノ認可ヲ受ケ預金規則ニ依リ之ヲ金庫ニ預ケ入ルヘシ

第二條 古社寺保存金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 古社寺保存金ヲ收入又ハ支出シタルトキハ其ノ時々古社寺保存金受拂計算簿(第一式)ニ登記シ其ノ收支ヲ明ニスヘシ

第四條 古社寺保存金及其ノ金ヲ以テ購入シタル物件ハ古社寺保存金現在簿(第二式)ニ登記シ増減アリタルトキハ加除訂正スヘシ

第五條 古社寺保存金ノ收支ハ毎年十二月三十一日限り計算シ古社寺保存金收支計算書(第三式)ヲ調製シ翌年一月十五日限り知事ニ差出スヘシ

附則

年 月 日	現				拂		
	何々々	田(畑) (山林)	公債 證書	現金	計	何々	修繕費

前書之通相違無之及報告候也

右社司(社掌)(任職)
何 某印

右氏子(檀家)(信徒)總代人

知事宛

備考
一 公債證書ハ額面金高ヲ金額ノ欄ニ記入シ買入金高及年月日ヲ事由欄ニ詳記ス
二 土地ハ反別ヲ金額欄ニ記入シ買入價格買入年月日等ヲ事由欄ニ詳記ス

何 某印
何 某印
何 某印

○達第九十七號 明治三十一年九月二十六日

官幣中社 鎌倉宮
國幣中社 寒川神社
國幣中社 鶴岡八幡宮

官國幣社建物等改修ノ爲各社共通非常臨時營繕費ノ支出ヲ要スル場合ハ其不用ニ屬ス可キ古材其他物件ノ賣却代金ヲ見積リ該金ヲ改修費ニ組込願出ヘシ

○神奈川縣令第六十四號 明治三十二年八月二十二日

明治三十二年七月内務省令第四十一號宗教ニ關スル願届書及履歷書ハ左ノ様式ニ準據シ差出スヘシ

前項ノ願届書及履歴書ハ總テ正副ニ通テ調製シ宗教ノ宣布ニ關シテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所、堂宇、會堂、説教所、講義所等ノ設立ニ關シテハ其ノ所在地ノ市町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ
(様式)

宣 教 届

私儀宗教ノ宣布ニ從事致度(従前ヨリ宗教ノ宣布ニ從事致居候間)別紙履歴書相添左記事項ヲ具シ此段御届申上候也

一 宗教ノ名稱

(宗教ノ名稱トハ例ヘハ耶蘇教中ローマンカソリック、グリーキカソリック、プロテスタント、メソヂスト、ト云フカ如ク他ト明ニ區別シ得ラルル様詳細ニ其ノ名稱ヲ記スヘシ)

二 布教ノ方法

(布教ノ機關トシテ會堂、説教所、講義所、日曜學校等ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ會堂、説教所、講義所、日曜學校等ノ所在地番地名稱ヲ記スヘシ其ノ他一定ノ場所ヲ定メス他人ノ家若ハ自宅ニ於テスルモノハ其ノ趣ヲ記スヘシ)
(講義説教以外ノ方法例ヘハ通信傳道其ノ他印刷物ノ配付等ノ如キ方法ニ依リテ布教スルモノハ其ノ方法ヲ記載スヘシ)

年 月 日

氏 名 ㊦

知 事 宛
履 歴 書

住 所(居所)
國 籍

職 業 氏 名

年 齡

一 學業其ノ他一般ノ履歴

一 賞 罰

右之通無相違候也

年 月 日

氏 名 ㊦

何々設立願

何々設立致度候間御許可被成下度左記事項ヲ具シ此段御願申上候也

一 設立ヲ要スル理由

(其ノ地ニ信徒多數ナルコト又ハ其ノ地ト特別ノ縁故アルコト等凡テ設立ヲ要スル特種ノ事情ヲ詳記スヘシ)

二 設置ヲ終ルヘキ期限

(新ニ建物ヲ新築スルハ勿論在來ノ建物ヲ以テ之ニ充ル場合ニ於テモ凡テ堂宇、會堂、説教所又ハ

講義所ノ類ノ設備ヲ完成スル期限ヲ豫定シテ記載スヘシ

三 名稱(何々會堂ト稱スル類)所在地(郡市町村字番地)敷地(地種目、坪數)建物(建坪並内部ノ設備)
(祭壇、講壇、講席等)

四 宗教ノ名稱(届書ノ部ニ同シ)

五 管理及維持ノ方法

(管理ハ奈何ナル方法ニ依ルカ管理者ハ奈何ニシテ之ヲ定ムルヤ建設費維持費ノ財源其ノ他維持ノ方法ニ關スル事項ヲ記スヘシ)

六 擔當布教者ノ資格及選定方法

(擔當布教者トハ其ノ建物ニ於テ常時布教ヲ受持ツモノヲ云フ其ノ資格トハ奈何ナル試驗ニ及第シ奈何ナル學校ヲ卒業シ若ハ奈何ナル履歷ヲ有スルヤヲ云ヒ資格ニ關スル定メナキモノニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ其ノ選定方法トハ何人カ奈何ナル方法及奈何ナル手續ニ依リ擔當布教者ヲ定ムルヤヲ記スルヲ云フ)

年 月 日

住 所(居所)

國 籍

氏 名

年 齡

知 事 宛

何々既設届

何々明治何年何月何日ヨリ設立致シ來リタルモノニ有之依テ左記事項御届申上候也

(以下何々設立願書ニ同シ)

別紙何々管理者(擔當布教者)ノ履歷書差上申候也

年 月 日

住 所(居所)

何々設立者(管理者)

氏 名

名 印

知 事 宛

(履歷書式以前ニ出タルモノニ同シ)

宣教ニ關スル事項變更届

宣教ニ關シ御届申上候處ノ事項中左ノ通變更致候間此段御届申上候也

一何々

年 月 日

住 所(居所)
國 籍

氏 名

年 齡

知 事 宛
備 考

以上ノ願(届)書中ニ記スヘキ事項ニ付キ印刷物アルモノハ之ヲ其ノ願(届)書ニ添付シ其ノ事
項ノ記載ニ代フルコトヲ得但シ其ノ印刷物中ニ其ノ他ノ事項ヲモ記載スルモノニ在テハ其ノ
記載ニ代ヘタル部分ニ記號ヲ附スルニトヲ要ス

○神奈川縣令第七十六號

明治三十二年十一月十四日

明治十五年十一月甲第七十三號布達ヲ左ノ通改正ス

社寺佛堂等創立再興復舊ノ許可ヲ受ケタルモノハ許可ノ日ヨリ二年以内ニ社殿堂宇ヲ建設スヘシ其ノ
建物巨大ニシテ工事數年ニ涉ルモノハ竣工期限ヲ豫定シ更ニ許可ヲ受ケヘシ
社寺佛堂等ニシテ變災ノ爲建物悉皆破潰又ハ亡失シタルトキハ五年以内ニ建設スヘシ其ノ期間内ニ建
設セサルモノハ社寺佛堂明細帳ヲ削除ス
明治十五年十一月甲第七十三號布達發布以前建物悉皆破潰又ハ亡失シタル社寺佛堂ニ在テハ本令發布

ノ日ヨリ五年以内ニ社殿堂宇ヲ建設スヘシ其ノ期間内ニ建設セサルモノハ社寺佛堂明細帳ヲ削除ス
前二項ニ依リ社殿堂宇ヲ建設セムトスルモノハ建物圖面及仕様設計書ヲ具シ知事ノ許可ヲ受ケヘシ

○神奈川縣令第二十七號

明治三十四年四月九日

三十六年縣令
第十五號ヲ以
テ第七條追加
以下順次繰下

明治三十一年內務省令第六號ニ依リ神社、寺院、祠宇、佛堂、教派、宗派其ノ他宗教ノ宣布又ハ宗教
上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人又ハ團體等ニシテ殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムル爲料金を徴收シ
及寄附金又ハ負債募集又ハ他人ヲシテ其ノ募集ニ從事セシムトスルトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

第一條 內務省令第六號第二條ニ依リ觀覽セシムル爲料金を徴收ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ願書
ニ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

- 一 觀覽物件ノ名稱、員數及其ノ取締方法
 - 二 觀覽ノ事由
 - 三 觀覽ノ期間
 - 四 觀覽ノ場所但シ圖面ヲ以テ其ノ位置ヲ標示ス
 - 五 觀覽料額
 - 六 觀覽料金を徴收及支出ノ方法
- 第二條 省令第六號第三條第四條ニ依リ寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ願書ニ
同第五條規定ノ外尙左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 募集金保管ノ方法
 二 募集金支出豫算及支出ノ方法
 三 募集金ヲ工事ノ費用ニ充ツルモノハ其ノ工事設計ノ概要及圖面
 第三條 寄附金又ハ負債募集ニ關シ内務大臣ノ許可ヲ受ケタル者本縣管内ニ於テ其ノ募集ニ從事セムトスルトキハ内務大臣ニ提出シタル願書並許可書ノ寫ヲ添ヘ當廳ニ届出ヘシ但シ當廳ヲ經由シテ募集ヲ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 省令第六號第七條ニ依リ他人ヲシテ募集ニ從事セシムトスルトキハ其ノ認可願書ニ寄附金又ハ負債募集願書並許可書ノ寫ヲ添付スヘシ但シ當廳及當廳ヲ經由シテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 第三條第四條ニ該當スルモノ募集事項變更ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ願書並許可書ノ寫ヲ添ヘ直ニ當廳ニ届出ヘシ
 第六條 觀覽料徴收又ハ寄附金若ハ負債募集ニ從事スル者ハ許可又ハ認可ニ關スル願書寫及許可又ハ認可書ヲ携帶スヘシ
 數箇所ニ於テ同時ニ募集ニ從事スルトキハ前項ノ許可又ハ認可書ハ其ノ謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ正本ニ依リ謄寫シタル旨ヲ附記シ其ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者署名捺印スヘシ
 第七條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者ハ募集期間終了ノ日ヨリ三十日以内ニ收支清算書ヲ

當廳ニ差出スヘシ

附 則

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第九條 明治三十一年八月神奈川縣令第三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○神奈川縣令第二十號 明治三十五年三月十一日

縣社以下神社神職候補者推薦等ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

- 一 神社神職(轉任免職ヲ除ク)アルトキハ氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代ヨリ三日以内ニ其ノ旨届出ヘシ
- 一 社司及社掌候補者ノ推薦書ハ第一様式又履歷書ハ第二様式ニ據リ調製スヘシ

社司 推薦書

住所 族籍 職業

氏 名
生 年 月 日

何市何町大字何字何

社格 何神社 社司 社掌

右者頭書神社ノ神職ニ適任ト相認候條別紙關係書類相添此段推薦候也

年 月 日

住 所

氏 子 (氏子ナキト) 總代

氏 名

三名以上連署

神奈川縣知事何某殿

前書ノ通相違無之候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

(備 考) 密寄留ノ者ハ本籍寄留地共詳記スヘシ
(第二様式)

履 歷 書

住所族籍

氏 名

生 年 月 日

學 業

一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業(證書寫別紙ノ通)

一年月日何々ニ依リ何免許狀ヲ受ク(免許狀寫別紙ノ通)

業 務

一年月日何官拜命或ハ何業ニ従事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職従業等

一年月日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク

右之通相違無之候也

一 年 月 日

氏 名 印

○達第二十八號 明治三十五年三月十四日

官 國 幣 社

官國幣社寶物及貴重ナル書畫什器類ハ左ノ條項ニ依リ管理スヘシ

第一條 本規定ニ於テ目錄帳ト稱スルハ明治八年八月敎部省甲第七號達ニ依リ調製セル帳簿ヲ云フ

從前各神社其ノ提出セル帳簿ニシテ前項敎部省甲第七號達ノ離形ニ照準セサルモノハ更ニ該離形ニ

照準シテ調製進達スヘシ

第二條 官國幣社ノ寶物及貴重ナル書畫什器類ハ其ノ收蔵ノ都度直ニ目錄帳ニ記入シ本廳ヲ經内務大

臣ニ届出ヘシ

從前ヨリノ所藏ニシテ目錄帳ニ記入波ノモノハ此ノ際前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 目錄帳ニ記載セル品目ヲ削除セントスルハ其事由ヲ具シ本廳ヲ經内務大臣ニ稟請スヘシ
 目錄帳ノ誤記ヲ訂正セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ニ稟請スヘシ

第四條 目錄帳ニ記載セル物品ニハ其ノ容器又ハ適當ナル箇所ニ番號票ヲ附シ神社備置目錄帳相當品目ノ上ニ其番號ヲ朱記シ對照ニ便ナラシムヘシ

第五條 目錄帳記載ノ物品ヲ處分シ又ハ神社以外ニ持出サントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ本廳ヲ經内務大臣ニ稟請スヘシ
 一 品目、員數但シ同種類ノモノアルトキハ他ノ物品ト區別スル爲必要ナル事項ヲ附記スルヲ要ス
 一 事由

一 持出ノ場合ニ在リテハ其ノ場所、運搬ノ方法、持出中ノ保管方並ニ持出期間

第六條 目錄帳記載ノ物品ヲ神社内ニ於テ陳列シ參拜者ニ展覽セシメントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ稟請スヘシ
 一 品目、員數但シ同種類ノモノアルトキハ他ノ物品ト區別スル爲必要ナル事項ヲ附記スルヲ要ス
 一 事由

一 陳列場ノ位置並ニ構造但シ圖面ヲ添付スルヲ要ス

一 陳列中取締ノ方法

一 陳列期間並ニ陳列場開閉時刻

一 前各號ノ外必要ト認メタル事項

第七條 目錄帳記載ノ物品ハ寶庫ニ格護シ寶庫ナキトキハ鎖鑰アル箇所ニ格護スヘキ方法ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ神輿、祭器等特ニ倉庫アルモノハ其ノ倉庫中ニ格護スルコトヲ妨ケス
 前項ニ依リ難キ特種ノ物品ニ付テハ適宜格護スヘキ方法ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 目錄帳記載ノ物品ヲ護格セル寶庫其ノ他ノ箇所ノ鎖鑰ハ宮司之ヲ保管スヘシ

第九條 目錄帳記載ノ物品ヲ格護セル倉庫其ノ他ノ箇所ノ開閉ハ宮司立會ノ上其ノ神社神職ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

第十條 目錄帳記載ノ物品ハ毎年適宜ノ時期ニ於テ曝涼並ニ手入セシメ其ノ都度目錄帳ト現品トヲ對照シ宮司ニ於テ調書ヲ作り知事ニ届出ヘシ

第十一條 目錄帳記載ノ物品亡失、毀損其ノ他異狀アルトキハ其ノ事狀ヲ詳具シ直ニ本廳ヲ經内務大臣ニ届出ヘシ

第十二條 知事ハ少クモ毎年一回目錄帳記載物品ノ検査ヲ行フ

第十三條 古社寺保存法ニ依リ國寶ト指定シ又ハ同法ニ依リ修理保存スヘキ物品ニ對シ別ニ制規アル場合ニ付テハ本規定ヲ適用セス

○達第三十五號 明治三十五年四月十五日 官國幣社

神職ハ神明ニ奉仕シ齋肅恭敬其職ヲ盡スヲ以テ本分トシ苟モ政治ヲ論議シ政黨ニ關與スルカ如キ本分

以外ノ行爲アルヲ許サズ故ニ衆議院議員選舉ニ際シ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論ゼズ政論ニ容喙シ選舉ノ競争ニ關與スヘカラス專心一意本務ニ從事スヘシ

○訓第二百二十五號

明治三十五年八月二十八日

鎌倉郡役所

古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレタルモノニ對シ保護上必要アリト認めル場合ハ該社寺ヲシテ明治六年敎部省第十三號達神社制札ニ準シ制札ヲ建設セシムヘシ
制札建設ノ場合ハ郡長ニ於テ左記禁止條項ニ準シ該當社寺ノ意見ヲ徵シ該建造物保護上必要ト認めル條項ヲ揭記シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
一 建物汚漬又ハ毀損スルコト
一 喫烟ヲ爲スコト
一 猥リニ火ヲ用ユルコト
一 土足又ハ履物ノ儘上ルコト
一 建物ニ樂書スルコト
一 建物ニ廣告等ノ類ヲ貼付又ハ打付ルコト
右訓令ス

○達第百九號

明治三十五年九月九日

官國幣社

官國幣社入金取扱規則左ノ通之ヲ定ム

官國幣社入金取扱規則

- 第一條 社入金ハ非常豫備金、蓄積金、社費、建築修繕補助費、分配金ニ充ツヘシ
- 第二條 非常豫備金ハ毎月左ノ割合ヲ以テ之ヲ蓄積ス可シ
社入金一ヶ月百十圓未滿 十分ノ一(即十圓ニ付一圓以下之ニ準ス)
- 同 百十圓以上二百十圓未滿 十分ノ一、二
- 同 二百十圓以上三百十圓未滿 十分ノ一、三
- 同 三百十圓以上四百十圓未滿 十分ノ一、四
- 同 四百十圓以上五百十圓未滿 十分ノ一、五
- 同 五百十圓以上千百圓未滿 十分ノ二
- 同 千百圓以上 十分ノ三
- 第三條 蓄積金ハ毎月社入金(非常豫備金ヲ除シタル殘金)十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ヲ蓄積ス可シ
- 第四條 非常豫備金ハ天災時變等已ムヲ得サル爲若ハ永久ノ利益トナルヘキ爲特ニ要スル費途ノ外支出スルヲ得ス
- 第五條 蓄積金ハ豫算外特ニ要スル費途ノ外支出スルヲ得ス

三十六年達第百九號ヲ以テ様式中改正
同年達第百九號ヲ以テ第八條中改正

第六條 非常豫備金及蓄積金ハ毎月必ス支金庫郵便爲替貯金取扱局所又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ其ノ利子ハ各元金ニ編入スヘシ

第七條 非常豫備金及蓄積金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 社費、建築修繕補助費、分配金ハ毎月左ノ割合ニ據ルヘシ
一 社入金(非常豫備金及蓄積金ヲ控除シタル殘金)十分ノ三 社費
但臨時私祭費、定員外主典俸給、並雇給、惠與同旅費及保存金支出科目(俸給、旅費、雇給、非常豫備金及蓄積金ヲ除ク)ノ不足ニ補充スルモノトス

一 同十分ノ二 建築修繕補助費

但經常營繕費不足ニ補充スルモノトス
一 同十分ノ五 分配金

但一半ハ人員割一半ハ俸給額ニ割合宮司以下主典(定員)迄分配スルモノトス

第九條 社費及建築修繕補助費ハ之ヲ流用支出スルコトヲ得但此場合ハ該事由ヲ詳記シ其時々當應ニ報告スヘシ

第十條 社入金收入支出豫算書(第一樣式)ヲ調製シ會計年度開始十日以前ニ當應ニ報告スヘシ但追加若クハ變更シタルトキハ其ノ時々報告スヘシ

第十一條 社入金ハ社入金受拂計算簿(第二樣式)非常豫備金計算簿(第二樣式)蓄積金計算簿(第二樣式)ヲ調製シ其ノ收支ヲ明カニスヘシ

第十二條 社入金ノ收支ハ會計年度經過後三十日限リ社入金受拂精算表(第三樣式)非常豫備金異動表(第三樣式)蓄積金異動表(第三樣式)ヲ調製シ當應ニ報告スヘシ但社入金受拂精算表ニハ社入金受拂明細表(第四樣式)ヲ添付スヘシ

附 則

第十三條 明治二十年六月號外達各社社入金支拂概則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
(第一樣式)

社入金收入支出豫算書 明治何年度

官(國)幣社 何 社

類 別	金 額	摘 要
前年度越高		
賽 錢		
初 穂 料		
守 札 料		
祈 禱 料		
觀 覽 料		
受 金		

年月日	摘要	受	拂	残
四月二日	賽錢	三〇〇〇		
同	觀覽料	五〇〇〇		一四五〇〇
	四月分合計	一四五〇〇		一四五〇〇
五月一日	非常豫備金ニ編入		一四五〇	
同	蓄積金ニ編入		一三〇五	
同	社費ニ編入		三五二四	
同	建築修繕補助費ニ編入		三三四九	
同	分配金ニ編入		五八七三	
	五月分合計		一四五〇〇	
何年	摘要	受	拂	残
四月一日	前年度越高	五〇〇〇		五〇〇〇
	四月分合計	五〇〇〇		五〇〇〇

(第二様式二)

非常豫備金(蓄積金)計算簿(現金) 明治何年度

五月一日	四月分非常豫備金受入	一四五〇		六四五〇
同 二日	何支金庫、何郵便爲替貯金取扱局所、何銀行へ預ケ入		六四五〇	
同 五日	何公債証書額而何圓當籤ニヨリ受入	一〇〇〇〇		一〇〇〇〇
	五月分合計	一〇一四五〇	六四五〇	一〇〇〇〇
	累計	一〇六四五〇	六四五〇	一〇〇〇〇
六月一日	五月分非常豫備金受入	三〇〇〇		一〇三〇〇〇
同 三日	何支金庫、何郵便爲替貯金取扱局所、何銀行へ預ケ入		二〇〇〇	一〇〇〇〇〇
同 十日	何公債証書額而何圓壹枚買入		九〇〇〇	一〇〇〇〇
	六月分合計	三〇〇〇	九二〇〇〇	一〇〇〇〇
	累計	一〇八四五〇	九八四五〇	一〇二〇〇

備考

非常豫備金及蓄積金計算簿ハ各元金、預ケ金、公債ノ部ニ區分シ口座ヲ設ケ見出ヲ付シ且年度ヲ區別シ累年用ユルモ妨ケナシ

(第二様式二ノ甲)

非常豫備金(蓄積金)計算簿預ケ金ノ部 明治何年度

年月日	摘要	受	拂	残
何月一日年	前年度越高	100000		100000
	四月分合計	100000		100000
五月二日	何支金庫、何郵便爲替貯金取扱局所、何銀行へ預ケ入	6450		106450
	五月分合計	6450		106450
	累計	106450		106450
六月三日	何支金庫、何郵便爲替貯金取扱局所、何銀行へ預ケ入	2000		108450
同十五日	何公債証書額面何圓何枚買入		100000	8450
同二十日	何年何月日ヨリ何年何月日迄預ケ金何圓ニ對スル利子何ヶ月分受入但通帳記入ノ分	5000		13450
	六月分合計	7000	100000	13450
	累計	113450	100000	13450

(第二様式二ノ乙)

非常豫備金(蓄積金)計算簿公債ノ部 明治何年度

年月日	摘要	受	拂	残
何月一日年	前年度越高	500000		500000
	四月分合計	500000		500000
五月五日	何公債証書額面何圓當籤		100000	400000
	五月分合計		100000	400000
	累計	500000	100000	400000
六月十日	何公債証書額面何圓何枚買入	100000		500000
同十五日	何公債証書額面何圓何枚買入	100000		600000
	六月分合計	200000		600000
	累計	700000	100000	600000

(第二様式二ノ丙)

社費計算簿 明治何年度

年月日	摘要	受	拂	残
何月一日年	前年度越高	10000		10000

年月日	摘要	受	拂	残
五月一日	四月分社費受入	10000		10000
同 三日	祭典具何々買入何某渡		1000	11000
同 五日	守札調製費支拂何某渡		2000	13000
同 二十日	建築修繕補助費ヨリ流用受入	2000		15000
同	樂人何人雇料		11500	16150
	五月分合計	5500	14000	16600
	累計	15500	14000	11500
六月一日	五月分社費受入	5000		16500
同 三日	神酒何升買入何某渡		700	17200
六月廿五日	建築補助費へ流用		5000	22200
同 三十日	何々買入何某渡		000	22200
	六月分合計	5000	5700	27900
	累計	20500	110700	0000

(第二様式二ノ丁)

建築修繕補助費 明治何年度

年月日	摘要	受	拂	残
何月一日	前年度越高	5500		5500
五月一日	四月分合計	5500		5500
同 二十日	四月分建築修繕補助費受入	3349		7849
同 廿五日	社費へ流用		2000	5849
同 廿五日	何々修繕費何某渡		3500	9349
	五月分合計	3349	5500	11849
	累計	7849	5500	13349
六月一日	五月分建築修繕補助費受入	3500		16849
同 廿五日	社費ヨリ流用受入	5000		21849
同 廿七日	攝社屋根修繕費何某渡		9500	31349
	六月分合計	8500	9500	40849

(第二様式二ノ戊) 分配金計算簿 明治何年度

年 月 日	摘 要	受	拂	残
何月一日年	四月分分配金受入	五六三		
同	宮司(五級)ノ分配		三三四	
同	禰宜(一級)ノ分配		一九六九	
同	主典(二級)ノ分配		一五五九	
五月一日	四月分合計	五六三	五六七三	
六月一日	五月分分配金受入			
同	宮司同			
同	禰宜同			
同	主典同			
五月分合計				
累計		一六三四九	一五〇〇〇	一三四九

(第三様式其一)

社入金受拂精算表 明治何年度

官(國)幣社何社

類 別	金 額	摘 要	受 金					拂 金				計	
			社 入 金	計	社 費	建 修 費	補 助 費	分 配 金	非常豫備金	蓄 積 金	計		
前年度越高													
類 別	金 額	摘 要	社 入 金	計	社 費	建 修 費	補 助 費	分 配 金	非常豫備金	蓄 積 金	計		
累計													

現金	現	計
	預	計
現金		
預金		

右及報告候也

年 月 日

知 事 宛

宮 司 氏

名 印

(第三様式其二)

非常豫備金異動表(明治何年度)

官(國)幣社 何 社

類 別	前年度現金	越	本年度積立金	預金受戻	預金利息	何々
	高					
金 額						
摘 要						

計	何々預金	何公債証書	何々	現 金	計	何々	何公債証書	何々	計

右及報告候也

年 月 日

知 事 宛

宮 司 氏

名 印

備 考

一受金ノ部ニハ本年度中ニ於テ非常豫備金ニ受入タル金額ノミヲ掲ク拂金亦同シ

一現在ノ部ニハ從來非常豫備金トシテ積立タル金額ヲ合算シテ掲ク
一現在金ノ部公債証書ハ額面金額ヲ掲ク

(第三樣式其二)

蓄積金異動表 明治何年度

官(國)幣社 何

社

類	別	金額	摘要	受金						拂金								
				前年度現金 越高	本年度積立金	預金受戻	預金利子	何々	計	何々へ預入	何公債証書 買入	何々						

計	現在				計
	現金	何々	何公債証書	何々預金	

右及報告候也

年 月 日

知 事 宛

官 司 氏

名 印

備 考

一受金ノ部ニハ本年度中ニ於テ社入蓄積金ニ受入タル金額ノミヲ掲ク拂金亦同シ

一現在ノ部ニハ從來社入蓄積金トシテ積立タル金額ヲ合算シテ掲ク

一現在ノ部公債証書ハ額面金額ヲ掲ク

(第四樣式)

社入金受拂明細表 明治何年度

官(國)幣社 何

社

○神奈川縣訓令第八號

明治三十六年四月七日

郡役所市役所 町村役場

古社寺保存法ニ依リ修理保存金ヲ下付セラレタル場合ニ於テ其ノ保存金下付ノ年度内ニ修理ニ著手セサルモ若ハ之ニ著手スルモ竣功セサルモノハ其ノ修理全部結了ニ至ル迄ノ期間毎年度經過後左ノ事項ヲ調査シ一廉毎同一物件ニ對シ繼續下付セニ前年度ノ狀況ヲ報告スヘシ

前項報告書ハ町村長ハ毎年度經過後二十日以内ニ郡長ニ郡市長ハ同四十日以内ニ當廳ニ提出スヘシ但シ初メテ保存金ヲ下付セラレタル物件ニシテ其ノ下付ノ日年度終了前二箇月以内ナルトキハ其ノ年度ノ報告ハ翌年度ノ報告ト併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第一 下付保存金異動報告

金 何 程	前 年 度 越 高
金 何 程	本 年 度 下 付 金
金 何 程	預 金 利 子

受
但何年何月ヨリ何月ニ至ル何箇月分
此利率何程

計金何程

金 何 程
拂 金 何 程

何月何日何所預ケ入
何月何日修理費支出ノ爲拂
戻

計金何程

金 何 程
現 在 金 何 程

何 所 預 金
現 金

計金何程

備 考

- 一 預金利子ハ實際收入シタルモノヲ掲記スヘシ
- 一金庫又ハ銀行ヘ預ケ入ル、モ利子ヲ付セサルモノハ其ノ事由ヲ備考欄ニ掲記スヘシ
- 一 三十五年度ニ對スル報告ニ就テハ受欄中前年度越高ニ對シ下付金ト利子トノ區分ヲ示スヘシ

金 何 程
金 何 程

下付保存金(利子ヲ包含ス)ヨリ支出
社寺負擔金トシテ支出

計金何程

第三 修理進行模様報告

社 寺

此報告ニハ(一)修理ニ著手セサルモノハ其ノ未著手ノ事竝ニ其ノ理由ヲ記載シ(二)修理ニ著手セルモノハ其ノ年度内ニ行ヘル事項(例ヘハ何々ノ材料何程ヲ買入レ何々ノ部ノ修理全部又ハ何分通りヲ終レリト云フノ類)ヲ成ルヘク詳細ニ記載スヘシ尤モ修理ノ爲遠隔ノ地ヘ搬出シタルモノニシテ其ノ修理ノ狀況ヲ報告シ難キトキハ何年何月竣工ノ見込ヲ以テ何々ヘ修理ヲ依託シ何月何日同所ヘ搬出濟等ノ事ヲ記スヘシ

此報告ハ既ニ修理全部竣功セルモノヲ除ク外從前修理保存金ヲ下付セルモノニ付三十五年度分ヨリ凡テ之ヲ行フヘシ

○達第七號

明治三十六年四月十日

官國幣社

古社寺保存法ニ依リ修理保存金ヲ下付セラレタル場合ニ於テ其保存金下付ノ年度内ニ修理ニ着手セサルモノ若ハ之ニ着手スルモ竣功セサルモノハ其修理全部終了ニ至ル迄ノ期間毎年度經過後一箇月以内ニ左ノ事項ヲ調査シ一廉毎同一物件ニ對シ繼續下付セラレタルモノハ一廉トスニ前年度ノ狀況ヲ報告スヘシ但初メテ保存金ヲ下付セラレタル物件ニシテ其下付ノ日年度終了ニ箇月以内ナルトキハ其年度ノ報告ハ翌年度ノ報告ト併セテ之ヲ爲スコトヲ得

(左記ハ同月七日神奈川縣訓令第八號ト同一ニ付零之)

○達第二十五號

明治三十六年五月二十二日

官國幣社

官國幣社神職ノ旅行ニ關スル規定左ノ通改定ス

第一條 官國幣社神職ノ旅行ハ第二條ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テ宮司ヨリ知事ニ稟請シ其許可ヲ受クヘシ

第二條 左ニ掲クル場合ハ宮司ハ知事ニ届出禰宜主典ハ宮司ノ許可ヲ受ケ旅行スルコトヲ得

一 一泊ニ止ル私費旅行

一 賜暇中私費旅行

一 忌引中歸省

一 親戚(祖父母、父、母、妻子)病氣危篤ニテ難擱事情アルトキ

第三條 旅行ノ稟請及届出ニハ旅行ノ事故日數地名等ヲ詳記スヘシ

第四條 社務ニ依リ旅行スル旅費ハ別表ニ據リ保存金又ハ社入金ヨリ之ヲ支給ス

第五條 宮司ノ赴任旅費ハ別ニ定ムル所ニ據ル

禰宜主典赴任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ瀛車賃、船賃及車馬賃ニ限り定額ノ二倍ヲ支給ス

第六條 旅費ノ支給方ハ明治三十年九月勅令第三百三十三號内國旅費規則ノ例ニ據ル

(別表)

旅費額

職名	瀛車賃 <small>一哩付</small>	船賃 <small>一海里付</small>	車馬賃 <small>一里付</small>	宿泊料 <small>一夜付</small>	日當 <small>一日付</small>
宮司	五錢	五錢	貳拾錢	壹圓貳拾錢	八拾錢
主禰	四錢	四錢	拾五錢	八拾錢	四拾錢
典宜	四錢	四錢	拾五錢	八拾錢	四拾錢

◎兵 事

○甲第九十二號

明治十四年六月七日

本年^五陸軍省達甲第十三號ヲ以テ陸軍武官結婚條例別冊ノ通被相定候條此旨布達候事

(別冊)

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ニス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ修身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ納メテ以テ其職掌ヲ確守セセシム若シ配偶其匹ヲ釋ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クベシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レトモ再服役以上ノ下士卒ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂部ノ下士卒(徵兵令ニ依リ徵集シタル者)及砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スベシ

第五條 將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊

長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與誓スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ証スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元証書ヲ添フヘシ

第七條 現役士官並ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大 尉並同等官 四百六拾圓

中少尉並同等官 六百圓

准 士 官 八拾圓

下 士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ但シ公債証書ヲ以テ納ムルニ妨ケナシト雖モ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ

但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ルル時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式并ニ証書式左ノ如シ

(第一號書式)

結 婚 願

使府縣國郡區町村

族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元証書(家計保護金証書)相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年 號 月 日

官 姓 名 印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書ノ趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官 姓 名 印

(第二號書式)

身 元 証 書

使府縣國郡區町村

族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年 號 月 日 生

年 號 月 何 年 何 月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保証候也

使府縣國郡區町村戸長戸長アラサ
ル地ハ區長

姓 名 印

(第三號書式)

家計保護金証書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年 號 月 日

官 姓 名 印

○乙第百六號

明治十六年五月二十四日

郡 區 役 所

其役所書記ノ内一名兵事々務擔當者ヲ撰定シ姓名可届出此旨相達候事

但シ更迭ノ節ハ其都度申出ヘシ

○乙第百七十二號

明治十八年九月二十一日

郡 區 役 所 戸 長 役 場

郡區兵事會準則別冊ノ通相定候條施行可致此旨相達候事

(別 冊)

郡區兵事會準則

第一條 郡區兵事會ハ兵備擴張ノ旨趣ニ基キ郡區役所及戸長役場ノ事務ヲシテ畫一ナラシムル爲メニ設クルモノトス

七十九年乙第百
第九條ヲ以
テ第九條中
以下條ヲ削
除ス

- 第二條 郡區兵事會ハ毎年一回以上郡區役所ニ開設スヘシ
- 第三條 郡區長ハ郡區兵事會ヲ提理シ會議ノ方法等適宜之ヲ定ムヘシ
- 第四條 郡區兵事會員ハ郡區兵事擔當書記及戶長トス
- 第五條 郡區兵事會ハ法律規則等ノ範圍外ニ涉ル事項ヲ議スルヲ得ス
- 第六條 郡區兵事會ニ於テ評議スヘキ事項ハ概ネ左ノ如シ
 - 一 兵事ニ關スル事務整理ノ手續
 - 二 兵事ニ關スル法律規則及諸達等ノ旨趣ヲ人民ニ貫徹セシメ制規ヲ誤ラシメサルノ手續
 - 三 人民ヲシテ徵兵嫌忌ノ念慮ヲ防遏セシムルノ手續
 - 四 在郷諸兵復習點呼若クハ臨時召集ニ際シ速ニ之ニ應セシムルノ手續
 - 五 在郷ノ軍人ハ現役中養成セシ志氣技藝及諸規則等ヲ忘却セシメサル襟注意ヲ與フヘキノ手續
 - 六 行軍演習等ニ際シ軍人ヲ慰勸ニ待遇スヘキハ勿論諸事不都合ナカラシメンカ爲メ豫テノ準備
 - 七 兵役ニ在ルモノ、爲ニハ御黨一致其家族ヲ慰勞シ又諸兵入營及ヒ歸郷ノ節ハ之ヲ慰問スル等ノ事ヲ勸誘スルノ手續
 - 八 前各項ノ外兵事擴張ノ旨趣ニ出ツル各自ノ意見
- 第七條 郡區兵事會ハ兵事ニ關シ縣令ヨリ諮問スルコトアルトキハ之ニ答ヒ又事務ノ進否ニ關シ意見アルトキハ縣令ニ具申スルコトヲ得
- 第八條 郡區長ハ郡區兵事會ニ於テ評決シタル事件ハ閉會後十日以内ニ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

第九條 郡區長及戶長ハ郡區兵事會ノ評決ニヨリ郡區町村內ニ施行シタル事件ニ就テハ常ニ進否如何ヲ考察シ其實況ヲ詳ニシ次會并當廳ニ報告スヘシ
但報告書ニハ實況ヲ詳具シタル説明書ヲ添付スヘシ

第十條 郡區兵事會ノ開閉ハ郡區長ヨリ當廳ニ報告スヘシ但開會ノ報告ハ遅クモ七日以前トス

○乙第百八十一號

明治十八年十月五日

郡區役所 戶長役場

徵兵取扱方ノ備別紙ノ通り陸軍省ヨリ達相成候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

達甲第四十二號

府 縣 沖繩、札幌、根室
ノ三縣ヲ除ク

正當ノ故ナク徵集ニ應セス若クハ徵集ニ洩レ年齢三十二歳ヲ超過シ發覺ノ者ハ其時々當省へ經伺ノ上處分致來候處自今年齡滿四十歳迄ハ經伺ヲ要セス徵集スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

明治十八年九月二十六日

陸軍卿伯爵 大 山 巖

○達甲第八十六號

明治二十年九月二日

郡區役所 戶長役場

本年八月達甲第八十四號達左ノ通り改正ス

陸海軍恩給令ニ依リ恩給并ニ扶助料賑恤金給助金等出願中ノ者ニシテ轉籍寄留替及ヒ本人族籍變換若クハ改氏名等異動アルトキハ所轄戸長ハ其届書ヲ徴シ郡區長ヲ經テ之ヲ當廳ニ差出スヘシ

○達乙第六十一號

明治二十三年三月二十六日

三浦郡役所

足柄下郡役所

其郡(浦郷村浦郷大窪村板橋)ニ在ル官修墳墓管理方及該墳墓監守人監督方委任候條別紙ノ手續ニ據リ取扱フヘシ
(別紙)

官修墳墓管理手續

第一項 官修ノ墳墓ヲ保存スル爲メ墳墓一ヶ所毎ニ監守人一名ヲ置キ給料(報恩文具共)年額金貳圓以下ヲ給與スヘシ

但一境區域内ニ數ヶ所アルモ總テ一ヶ所ト見做ス

第二項 監守人ノ採用罷免及其給料ヲ増減シタルトキハ其時々當廳ニ報告スヘシ

第三項 墓標若クハ外廓其他ノ修繕ヲ要スルトキハ監守人ヨリ郡長ニ届出テ指揮ヲ受ケシムヘシ
掃除ハ毎月生垣及樹木ノ手入ハ毎年一回以上之ヲ爲サシムヘシ

第四項 墳墓ヲ保存スル爲メ修繕費トシテ年額金六圓貳拾五錢(監守人給料共)ヲ毎年四月當廳ヨリ郡役所ヲ經テ監守人ニ下渡スヘシ

第五項 監守人墳墓修繕費ヲ受領シタルトキハ直ニ所在地若クハ最寄遞信省爲換貯金局ヘ預ケ置カシ

三十四年訓第百三十號ヲ以テ官修ト改メ報恩書式ヲ改メ正ス

ムヘシ

但預金ハ官修墳墓監守人ノ資格ヲ以テ爲サシムヘシ

第六項 監守人給料ハ一ヶ年二期ニ分テ前半期分(四月ヨリ九月マテ)ハ十月ニ後半期分(十月ヨリ翌年三月マテ)ハ三月ニ於テ預ケ金ノ内ヨリ受取ラシムヘシ

第七項 金高三圓以上ノ修繕若クハ模倣替ヲ要スルトキハ監守人ヨリ仕様目論見ヲ具シ郡長ヲ經テ之ヲ當廳ニ差出シ指揮ヲ受ケシムヘシ其工事落成シタルトキハ郡長検査ノ上當廳ニ報告スヘシ

第八項 墳墓修繕費ハ別ニ受拂簿ヲ調製シ其收支ヲ明瞭ニ記載シ毎年度(四月一日ヨリ翌年三月盡日マテ)ヲ區別シ付屬書類ト共ニ之ヲ保存セシムヘシ

毎年度ノ收支ハ別紙書式ニ據リ計算書ヲ調製シ翌年四月二十日限り差出サシメ郡長検査ノ上同月三十日限り之ヲ當廳ニ差出スヘシ

第九項 監守人交替アリタルトキハ引繼書ヲ作り雙方連署ヲ以テ郡長ニ届出シムヘシ

官修墳墓費計算報告書

何郡市何町村官修墳墓

明治何年度官修墳墓費取調候處別表ノ通相違無之候間此段報告候也

年 月 日

何郡市何町村何番地

何官修墳墓監守人 何 某 印

知事宛

明治何年度官修墳墓費受拂精算表

何官修墳墓

本年度下渡金	蓄積金ヨリ補充	計	監守人給料	修繕費	掃除費	祭典費	計	殘金積高

明治何年度官修墳墓費蓄積異動表

何官修墳墓

計	現在			計	拂金			計	受金			現金越高
	何公債額面	何預金	現金		補官修墳墓費充	額面代價	何公債買入		何々預入	何預金利子	何公債利子	

凡例

兵部

- 一 現金越高トハ前年度蓄積異動表現在欄内ニ於ケル現金ヲ掲ク
- 一 本年度蓄積金トハ受拂精算表ニ於ケル殘金積高ヲ掲ク
- 一 官修墳墓費補充トハ定額ノ下渡金ニテ不足ノ場合ニ於テ既ニ蓄積シタル額ヨリ補充ノ必要アルコトヲ想像シタルモノニシテ若シ現金又ハ公債利子預金利子ヲ以テ尙不足ヲ補充シ能ハサルトキハ受金中ヘ「何々預金回收」ノ一目ヲ設クルコト

○神奈川縣訓令第三十一號

明治二十五年四月十八日

郡役所 市役所

三十年訓令第三十號ヲ以テ第二項改正

明治二十一年五月海軍省令第六號ニ依リ設置スヘキ名簿ノ書式左ノ通相定ム但町村役場ニ於テモ本書式ニ依リ該名簿ヲ設置セシムヘシ

毎年一月一日現在ノ海軍現役豫備役後備役補充兵ノ人員ヲ調査シ其ノ月十日限り報告スヘシ

海軍豫備(後備)兵名簿					
考備	年月日	所管 鎮守府名	編入年度 同上ニ到 ル里程	同上旅行 日數	住 所 官等級 戸主名 氏名
	海 里				
	日				

- 一 編入年度ニハ豫備後備ニ編入年度ヲ記ス
 - 一 豫備後備ヲ區分ス
- 人員報告様式ハ報告例(年報第四十九表)ニ記載アルヲ以テ略之

○神奈川縣訓令第八十一號

明治二十五年十月三十一日

郡役所 市役所

三十三年訓令第六號ヲ以テ第一條中追加及書式中改正

海軍々人結婚願出手續左ノ通定メラル

海軍々人結婚願出手續

第一條 海軍々人結婚條例第一條ニ依リ結婚ノ許可ヲ願ハントスル者ハ左ノ書式ニ依リ將官並相當官ハ直チニ海軍大臣ニ差出シ上長官士官及准士官ハ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ差出シ下士卒ハ所轄長ヲ經テ所管長官ニ差出スヘシ

但配偶者タルヘキ婦人ノ年齢ヲ証明スル爲戸籍吏ノ爲シタル戸籍抄本ヲ添付スヘシ

(書式)

結婚願

何府縣何國何郡市區何町村何番地
華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生

何年何月何年何箇月

右記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙身元證書相添此段奉願候也

年月日

官(職) 姓 名 印

海軍大臣(所管長官)宛

前書ノ趣不都合無之ニ付御許可相成度候也
年月日

所管長官(所轄長) 姓 名 印

身元證書

何府縣何國何郡市區何町村何番地

華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

右ハ行狀端正ノ者ニ付キ此段保計候也

年月日

何府縣何郡市區何町村長 姓 名 印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條 結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ准士官以上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長官ニ届出ヘシ

○神奈川縣訓令第十九號

明治二十七年三月五日

郡役所 市役所

徵兵事務條例ニ依リ終決處分ヲ受ケサル者ニシテ志願ニ由リ現役軍人ト爲リ服役三ケ年未滿ノ者若クハ常備兵籍ニ編入ノ諸生徒學生傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ現役若クハ生徒學生ヲ免シ兵役上ニ關スル爾後ノ處分ヲ受ケサルモノハ更ニ徵兵検査ヲ爲シ其徵否ヲ定ムヘシ但明治二十一年^七月達甲第五十五號ヲ廢止ス

○神奈川縣訓令第十四號

明治二十九年三月二十五日

郡役所 市役所

徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服スヘキモノ取扱手續左ノ通之ヲ定ム

陸軍六週間現役兵取扱手續

第一條 六週間陸軍現役ニ服スヘキモノハ本人在職地郡市長ニ於テ調査シ六週間現役兵名簿(徵兵事務條例施行)

第三十一年訓令
第四號ヲ以テ
第五條第七條
ヲ追加シ以下
條下ク
三十二年訓令
第十五條ヲ以
テ第一條第四
條第五條第八
條中改正追加

（規則第一條）ヲ製シ毎年四月一日限リ報告スヘシ

四月一日後五月一日前ニ於テ六週間陸軍現役ニ服スヘキモノアリタルトキハ前項ノ名簿ヲ製シ三日以內ニ報告スヘシ但シ此名簿ニハ在職スル校名并其所在地ヲ備考欄內ニ記入スヘシ

第二條 六週間現役兵名簿調製後服役ヲ終ルマテノ間ニ於テ就職ヲ罷メ又ハ名簿ニ關スル異動ヲ生シタルトキハ三日以內ニ其事項ヲ報告スヘシ

第三條 身体検査ノ日時及場所ハ當廳ヨリ告知ス但日時切迫ノ爲所管大隊區司令官ヨリ通知セシトキハ其通知ニ依リ検査ヲ受ケシムヘシ

第四條 疾病其他ノ事故ニ依リ検査場ニ出頭シ難キモノアルトキハ在職地ノ市町村長ノ與書ヲ受ケ（疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ）検査當日マテニ大隊區司令官ニ届出シムヘシ

前項ノ届出ヲ爲サシメタルトキハ速ニ其氏名并事項ヲ報告スヘシ

第五條 六週間現役兵ハ毎年六月一日午前九時左ノ聯隊ニ入隊セシムヘシ
横濱及麻布聯隊區管內在職者 歩兵第一聯隊

第六條 疾病其他ノ事故ニ依リ入營期日後三日以內ニ入營シ難キモノアルトキハ速ニ其氏名并事故ヲ報告スヘシ

第七條 國民兵幹部適任證書ヲ所持スル者ニシテ改姓又ハ改名シタルトキハ該證書ノ訂正ヲ本人ヨリ市町村長及郡長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出シムヘシ

第八條 國民軍幹部適任證書ヲ所持スルモノニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受

ケ若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノアルトキハ市町村長ハ適任證書ヲ沒收シ之ヲ聯隊區司令官ニ還付セシメ同時ニ其ノ住所氏名并事項ヲ報告スヘシ

附 則

第九條 本手續ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス明治二十三年四月訓令甲天第十八號ハ本手續施行ノ日ヨリ廢止ス

○神奈川縣訓令第三十號

明治二十九年五月二十六日

郡 役 所 市 役 所

徵兵徵募事務終了シタルトキハ徵兵事務條例施行細則第七樣式ニ準據シ徵兵表ヲ製シ三十日以內ニ申報スヘシ

○神奈川縣訓令第三十九號

明治二十九年六月三十日

郡 役 所 市 役 所

本年六月勅令第二百三十八號陸軍服役條例第六十條ニ依リ現役免除ヲ願フ者ニシテ其ノ事故父兄等ノ死亡處刑若ハ失踪等ニ係ルモノハ市町村長ノ證明書癡疾不具等ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ具シ其ノ親族ヨリ本人ニ送付セシムヘシ

明治二十一年六月達甲第四十號同年八月達甲第五十八號及明治二十四年八月訓令甲第七十一號ヲ廢止ス

○神奈川縣訓令第二十六號

明治三十年四月十三日

郡役所 市役所

現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲入營シ難キ者ノ取扱左ノ通之ヲ定ム

一 疾病犯罪等ノ爲入營シ難キ者ハ漸次次期ニ繰下ク入營セシム其ノ終期ニ於テ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ現役兵同時ニ入營セシム

二 其ノ事故繼續シ若ハ再發シ次年第二期以後ニ至ルモ仍ホ入營シ難キ者アルトキハ徵兵検査ノ際身體検査ヲ爲シ徵集ニ適スル者ハ前項ノ例ニ依リ取扱ヒ其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集免除若ハ兵役免除ノ處分ヲ爲スモノトス

三 入營ヲ次年ニ繰下ケタル爲所要人員超過スルトキハ抽籤番號ノ最高キ者ヨリ漸次次期ニ繰下ケ終期ニ於テ仍ホ要員ニ超過スルトキハ次年ニ繰下クヘシ

四 明治二十六年十月神奈川縣訓令第六十一號ヲ廢止ス

○神奈川縣訓令第二十九號

明治三十年四月十九日

郡役所 市役所

一 充員召集國民兵召集演習召集簡閱點呼召集施行アリタルトキハ召集員應否ノ區分(第一様式)ヲ調査シ且ツ其ノ事務執行ノ狀況ヲ詳記シ召集完結後十日以内ニ報告スヘシ

二 毎年四月一日在現ノ陸軍現役豫備役後備役及補充兵ノ人員(第二様式)ヲ調査シ其ノ十日限り報

告スヘシ

三 陸軍召集條例施行細則第四百二十二條ニ依リ調製シタル國民兵人員表ヲ謄寫シ其ノ年十二月五日限リ送付スヘシ

第一様式ハ報告例(日報第六表)ニ記載アルヲ以テ略之
第二様式ハ同(年報第五十一表)ニ記載アルヲ以テ略之

○神奈川縣告示第二百一十一號

明治三十二年八月二十二日

海軍召集旅費支給場ノ位置及其ノ支給場ニ於テ支給スヘキ區域左ノ如シ

海軍召集旅費支給場位置	同上支給區域
久良岐郡日下村	久良岐郡全部
横濱市神奈川町	橘樹郡全部
都筑郡都田村	都筑郡全部
三浦郡豊嶋村	三浦郡全部
鎌倉郡戸塚町	鎌倉郡全部
高座郡藤澤大坂町	高座郡全部
中郡大磯町	中郡全部
中郡役所	中郡全部

三十三年度告示
第四十四號ヲ
以テ末項中改
正
三十六年度告示
第四百九十六號
ヲ以テ第二項
第四項改正

足柄上郡松田村	足柄上郡役所	足柄上郡全部
足柄下郡小田原町	足柄下郡役所	足柄下郡全部
愛甲郡厚木町	愛甲郡役所	愛甲郡全部
津久井郡中野村	津久井郡役所	津久井郡全部
横濱市戸部町	横濱稅務署	横濱市全部

○神奈川縣訓令第三十號

明治三十三年五月二十九日

郡役所 市役所

陸軍豫備役後備役補充兵役ニ在ル者ニシテ召集事務ヲ管掌スル官吏及公吏郡市町村書記ト爲リ戰時餘人ヲ以テ代フヘカラサル者ハ其ノ官名若ハ職名兵役ノ種類武官名兵卒ハ兵種等級氏名及本籍地並住所ヲ在職地ニ於テ取調ヘ毎年十月二十日限り報告シ爾後翌年ノ報告期迄ニ新任轉免等ノ異動アリタルトキハ其ノ時々報告スヘシ

明治三十年十月神奈川縣訓令第六十號ヲ廢止ス

○訓第二百二十五號

明治三十三年十二月十三日

橘樹郡役所 三浦郡役所

第三十四年訓令
第三十七號ヲ
正以テ本文中改

高座郡役所 足柄下郡役所
愛甲郡役所 横濱市役所

其部内市場ノ物價毎月取調翌年二月末日限り別表ニ依リ報告スヘシ
右訓令ス

別表ハ報告例(年報第十七表)ニ記載アルヲ以テ略之

○神奈川縣令第十一號

明治三十四年三月五日

- 一 横須賀軍港境域内ニ於テ左ノ各號ニ該當スルモノハ所管郡長ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 森林ノ伐採
 - 二 軍港第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以内ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築及其ノ變更但シ明治十九年六月甲第六十五號布達長屋建築規則ニ依リ警察署ノ認可ヲ受クルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 二 前項認可申請書ニハ申請ノ目的、申請者ノ住所氏名及第一號ニ在テハ森林所在地伐採期間第二號ニ在テハ築造物ノ物質、設計、廣狹、高低、場所ヲ詳記シ各其ノ實測圖ヲ添附スヘシ但シ申請者ト土地所有者ト異ナルトキハ土地所有者連署スヘシ
- 三 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 四 明治三十三年十月神奈川縣令第七十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○訓第二十二號

明治三十四年三月五日

三浦郡役所

明治三十四年二月神奈川縣令第十一號ニ依リ森林ノ伐採若ハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築及其變更ノ認可ヲ申請シタルモノアルトキハ横須賀鎮守府司令長官ニ協商シ之ヲ處理スヘシ
右訓令ス

○訓第五十二號

明治三十四年四月十二日

横濱市役所

其市久保町字久保山ニ存在セル官修墳墓管理及該墳墓監守人監督方委任ス別紙手續ニ據リ取扱フヘシ
右訓令ス

(別紙)

官修墳墓管理手續

- 第一項 官修ノ墳墓ヲ保存スル爲墳墓一ヶ所毎ニ監守人一名ヲ置キ給料(紙墨文具共)年額金貳圓以下ヲ給與ス
但一境區域内ニ數ヶ所アルモ總テ一ヶ所ト見做ス
- 第二項 監守人ノ採用罷免及其給料ヲ増減シタルトキハ其時々當廳ニ報告スヘシ
- 第三項 墓標若ハ外廓其他ノ修繕ヲ要スルトキハ監守人ヨリ市長ニ届出テ指揮ヲ受ケシムヘシ

三十四年訓第百三十號ヲ以テ本令中及書式改正

掃除ハ毎月生垣及樹木ノ手入ハ毎年一回以上之ヲ爲サシムヘシ

第四項 墳墓ヲ保存スル爲修繕費トシテ年額金六圓貳拾五錢(監守人給料共)ヲ毎年四月當廳ヨリ監守人ニ下渡スヘシ

第五項 監守人墳墓修繕費ヲ受領シタルトキハ直ニ所在地若クハ最寄遞信省爲換貯金局ヘ預ケ置カシムヘシ
但預ケ金ハ官修墳墓監守人ノ資格ヲ以テ爲サシムヘシ

第六項 監守人給料ハ一ヶ年二期ニ分テ前半期分(四月ヨリ九月マテ)ハ十月ニ後半期分(十月ヨリ翌年三月マテ)三月ニ於テ預ケ金ノ内ヨリ受取ラシムヘシ

第七項 金高三圓以上ノ修繕若クハ模様替ヲ要スルトキハ監守人ヨリ仕様目論見書ヲ具シ市長ヲ經テ之ヲ當廳ニ差出シ指揮ヲ受ケシムヘシ
其工事落成シタルトキハ市長検査ノ上當廳ニ報告スヘシ

第八項 墳墓修繕費ハ別ニ受拂簿ヲ調製シ其收支ヲ明瞭ニ記載シ毎年度(四月一日ヨリ翌年三月末日マテ)ニ區別シ付屬書類ト共ニ之ヲ保存セシムヘシ
毎年度ノ收支ハ別紙書式ニ據リ計算書ヲ調製シ翌年四月二十日限り差出サシメ市長検査ノ上同月三十日限り之ヲ當廳ニ差出スヘシ

第九項 監守人交替アリタルトキハ引繼書ヲ作り雙方連署ヲ以テ市長ニ届出ヘシ

官修墳墓費計算報告書

明治何年度官修墳墓費取調候處別表ノ通相違無之候間此段報告候也

年 月 日

何郡市何町村官修墳墓

何郡市何町村何番地

何官修墳墓監守人 何 某印

知 事 宛

明治何年度官修墳墓費受拂精算表

何官修墳墓

本年下渡金	
蓄積金ヨリ補充	
計	
監守人給料	
修繕費	
掃除費	
祭典費	

計	
現金越高	
本年	
蓄積金	
何公債利子	
何預金利子	
計	
何々へ預入	
何公債買入	
額面代價	
官修墳墓費	
補充	
計	
現金	

明治何年度官修墳墓費蓄積異動表

何官修墳墓

現金	
計	
何公債買入	
額面代價	
官修墳墓費	
補充	
計	
何々へ預入	
何公債買入	
額面代價	
官修墳墓費	
補充	
計	
何公債利子	
何預金利子	
計	
何々へ預入	
何公債買入	
額面代價	
官修墳墓費	
補充	
計	
現金	

現在	何預金
何公債額面	
計	

凡例

- 一 現金越金トハ前年度蓄積異動表現在欄内ニ於ケル現金ヲ掲ク
- 一 本年度蓄積金トハ受拂精算表ニ於ケル殘金積高ヲ掲ク
- 一 官修墳墓費補充トハ定額ノ下渡金ニテ不足ノ場合ニ於テ既ニ蓄積シタル額ヨリ補充ノ必要アルコトヲ想像シタルモノニシテ若シ現金又ハ公債利子預金利子ヲ以テ尙不足ヲ補充シ能ハサルトキハ受金中ヘ「何々預金回收」ノ一目ヲ設クルコト

○神奈川縣訓令第二十七號

明治三十四年七月二十三日

郡役所 市役所

陸軍休暇規則ニ依リ下士以下父母病氣又ハ死亡等ニ依リ本人ノ歸郷ヲ願フ爲親族ニ於テ願書ヲ作り市町村長ノ與書證印ヲ受ケムコトヲ出願スル者アルトキハ篤ト其ノ事實ヲ調査シ與書證印ヲ與フル様取扱フヘシ

○神奈川縣訓令第二十號

明治三十四年九月十七日

郡役所 市役所

- 在郷陸軍下士兵卒ハ左ノ場合ニ限り制服(帶劔ヲ除ク)ヲ着用スルコトヲ得
- 一 滿期歸郷ノトキ
 - 二 召集若ハ簡閱點呼ノトキ
 - 三 演習及觀兵式參觀ノトキ
 - 四 賀儀葬祭ノトキ
 - 五 以上掲クルモノノ外在郷軍人ノ資格ヲ表スルトキ

○神奈川縣告諭第一號

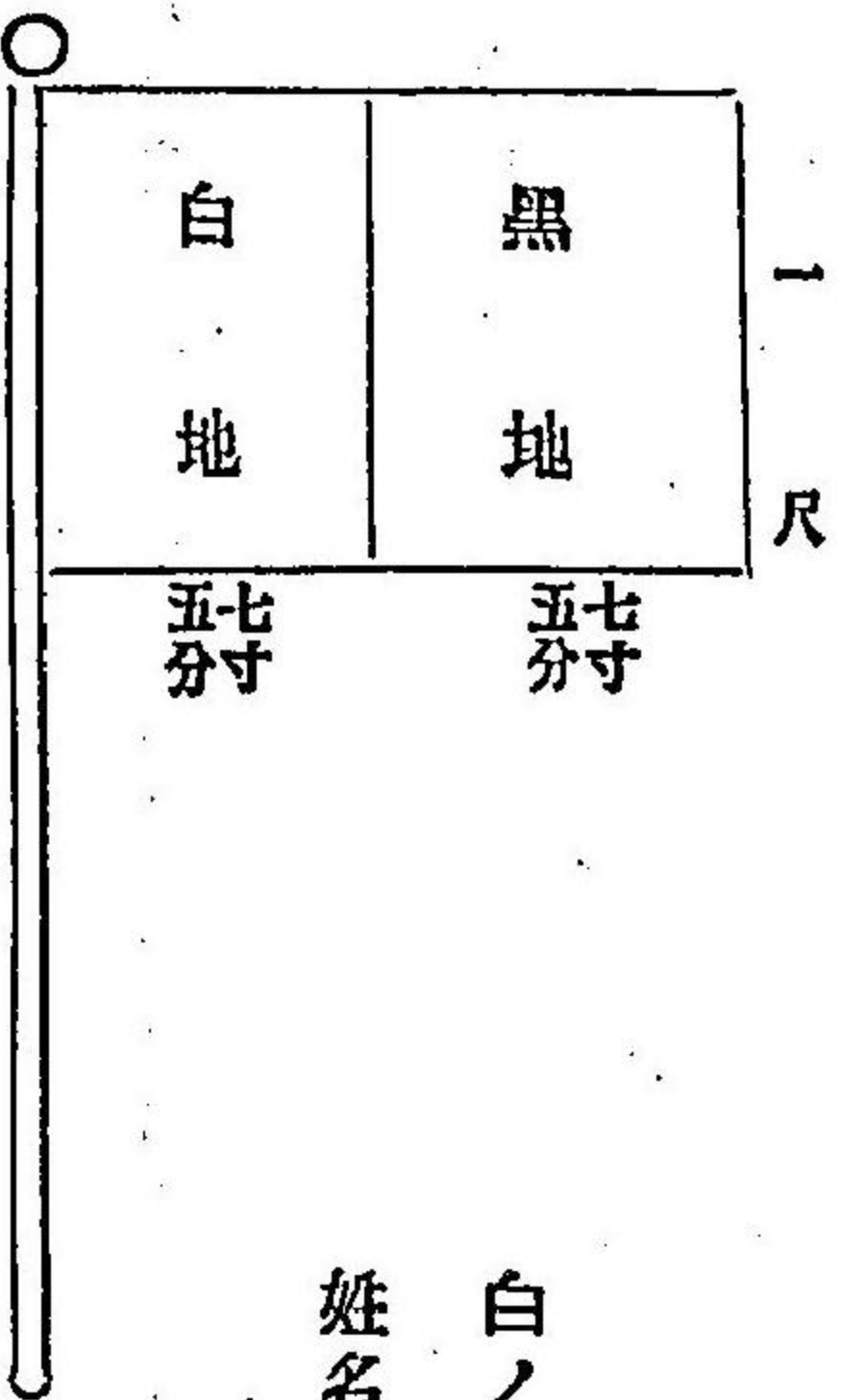
明治三十四年十月八日

新兵ノ入營若ハ滿期兵ノ歸郷ニ當リ之ヲ祝スル爲旗幟ヲ植テ或ハ烟火ヲ揚ケ又ハ音樂ヲ奏スル者往々之アルモ自今送迎ノ際ハカメテ質實嚴肅ヲ保チ右等虚飾ノ行爲ナキ様深ク注意スヘシ

○神奈川縣告示第二百三十六號

明治三十四年十月十五日

横須賀軍港細則第六條ニ依リ沿岸居住民所有ノ船舶第二區内ヲ通航ノ際ハ他ノ船舶ト識別スル爲左記旗章掲揚スヘキ旨横須賀鎮守府司令長官ヨリ通知アリタリ



白ノ部ニ當該船舟所有者ノ住所
姓名ヲ墨書ス但切地ハ適宜トス

○神奈川縣告示第二百七十號

明治三十四年十一月十九日

海岸砲臺ニ於テ大砲射撃ノトキハ自今左ノ手續ニ據リ施行スル旨陸軍省ヨリ通牒アリタリ

明治二十四年三月告示第十號ヲ廢止ス

一 射撃演習中ハ射撃開始前ニ於テ最モ見易キ地點ニ警戒旗赤ヲ掲ク且場所ニ因リテハ通行禁止ノ標札ヲ掲クルコトアリ

一 監的船ノ大橋上若ハ砲臺ニ於テ旗ヲ掲クルハ射撃ヲ施行スルモ支障ナキト或ハ將ニ射撃ヲ行ハムトスルコトヲ示スモノニシテ浮標ノ設置シアルハ目標ノ行動スヘキ區域ヲ表示スルモノトス

○神奈川縣訓令第五號

明治三十五年一月二十八日

郡役所 市役所

召集中ニ在ラサル豫備役若ハ後備役海軍下士卒ハ左ノ場合ニ限り成ルヘク制服ヲ着用スヘシ

- 一 滞期歸郷ノトキ
- 二 行幸行啓ニ際シ奉迎奉送スルトキ
- 三 召集若ハ簡閱點呼ノトキ
- 四 觀兵式觀艦式若ハ演習ヲ陪覽スルトキ
- 五 賀儀葬祭ノトキ
- 六 前諸號ノ外軍人ノ資格ヲ表スルトキ

○神奈川縣訓令第十七號

明治三十五年三月十八日

郡役所 市役所

第一師管徵募事務規定左ノ通定メタル旨第一師團長ヨリ通知アリ右ニ依リ取扱フヘシ

第一師管徵募事務規定

第一章 總則

第一條 本規定ハ令條例及細則ニ據リ第一師管内官衙公署及聯隊區徵兵署ニ於タル徵募事務ノ手續順序及其細務ノ取扱ヲ定ムルモノトス

第二條 本規定ニ於テ令條例又ハ細則ト稱スルハ徵兵令徵兵事務條例又ハ徵兵事務條例施行細則ヲ謂

第三條 本規定^{第七條}於テ司令官郡市區長ト稱スルハ徵兵官タル聯隊區司令官郡市區長ヲ云ヒ司令官部書記郡市區書記ト稱スルハ聯隊區徵兵署事務員タル聯隊區司令部書記郡市區書記ヲ謂フ

第四條 本規定中郡長郡書記ノ職務ハ小笠原嶋八丈嶋及大嶋ニ在テハ嶋司嶋廳書記伊豆五嶋ニ在テハ東京府内務部第一課長東京府屬町村長ノ職務ハ小笠原嶋八丈嶋大嶋及伊豆五嶋ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

第二章 検査準備

第五條 細則第三條ニヨリ郡市長ノ司令官ニ通知スル壯丁人員ハ第一書式ニ據ルヘシ

區長ハ前項ノ壯丁人員ヲ調査シ一月二十日迄ニ市長ニ通知スヘシ

第六條 郡市^{東京市ヲ除ク以下同シ}區長ハ徵兵署開設日割表調製ノ材料トシテ本年壯丁及前年假決人員ニヨリ二月一日調ヲ以テ検査人員表^(第二書式)ヲ調製シ二月十日迄ニ司令官ニ送付スヘシ

第七條 東京市長ハ細則第四條ニヨリ聯合徵兵署ノ家屋ヲ撰定シ二月十日迄ニ司令官ニ通知スルモノトス

第八條 郡市區長ハ徵兵署ニ壯丁名簿ヲ提出スル前左ノ注意ヲ要ス

一 名簿ニ壯丁名利用紙^{以下單ニ名}及體格検査用附表^{以下單ニ附}ヲ貼付ス

二 附表ノ左側上端ニ日本數字ヲ以テ一貫ノ番號^{毎日第一ヨリ番號ヲ起}ヲ付ス

三 癩癩、白痴、癲狂、夜盲、聾啞其他著シキ宿病患者ニハ名簿ノ上端ニ摘要ヲ記シタル符號ヲナシ

者ニ在テハ隣保二名以上ノ證明ヲ付ス

四 前年假決者及戶籍洩其他適齡以外ノ者ハ名簿及附表ノ上端ニ滿二十一歳以上ト記シタル符號ヲナスモノトス但先入兵ニ在テハ尙其旨ヲ併記ス

五 細則第二十一條ノ志願者ハ白紙片令第二十二條ノ出願者ハ紅紙片同保證者子弟ハ保ノ字ヲ記シタル紅紙片ヲ名簿ノ上端ニ貼付ス

六 他徵募區ニ於テ検査ヲ受ケタルモノ、名簿及附表ニハ其年度及聯隊區名ヲ右側欄外ニ記入スヘシ

七 入寄留者名簿ニハ欄外ニ何郡市區何町村寄留ト朱書ス

第九條 郡市區長ハ壯丁ノ品行學力ヲ調査シ壯丁人名簿^(第五書式)ヲ調製シ徵兵署開設ノ際司令官ニ差出スヘシ

第十條 郡市區長ハ令第八條及第二十八條ニ該當スル者アルトキハ既決犯罪表寫ヲ壯丁名簿ニ貼付シ置クヘシ

第十一條 郡市區長ハ令第二十二條ノ出願者アルトキハ豫メ左記ノ事項ヲ詳細ニ取調置クヲ要ス

一 本人他家ニ養子トナリ又ハ他家ヲ相續シタル者ナルトキハ其年月並ニ其以前ニ於ケル兩家ノ關係

二 廢戶主他家ヲ相續シ若クハ養子トナリ又ハ別戶シタル者ハ其年月及理由

三 兄又ハ弟絶家ヲ再興シ若クハ別戶後本家若クハ實家ト經濟ヲ同シクスル者アルトキハ其景况

四 兄又ハ弟他家ヲ相續シ若クハ養子トナリ又ハ別戸シタル者ハ其年月及兩家ノ關係
 五 被廢嫡者他家ヲ相續シ若クハ養子トナリ又ハ別戸シタル者ハ其年月及兩家ノ關係
 六 家族中所在不明生死不明ノ者アルトキハ其家出ノ年月及其當時ノ景况

第十二條 市區町村長ハ令第二十二條ノ出願者若クハ同條ノ事故繼續届出ヲナス者アルトキハ條例第

五十四條ニ掲クルモノノ外尙左ノ書類ヲ添付スルヲ要ス

- 一 當事者戶籍ノ謄本
- 二 所有財産及納稅額ノ調書
- 三 前項ノ外家族自活シ能ハサル證據トナルヘキ書類

第十三條 前項出願ノ理由家族ノ傷痕疾病ニ基因スル者ハ出願初年ニ在テハ壯丁ト共ニ患者ヲ徵兵署

ニ召喚シ徵兵醫官ヲシテ診査セシム此場合ニ在テハ前條書類ノ外診斷書ヲ添付スルヲ要ス其診斷書

ニハ左記ノ項目ニ就キ詳記スヘシ

- 一 病名
- 二 原因
- 三 經過
- 四 療法
- 五 豫後
- 六 現症

第十四條 郡市區長ハ令第二十三條ニヨリ假決處分ヲ要スル者アルトキハ事故繼續ノ有無ヲ取調徵兵署ニ提出スヘシ

第十五條 壯丁又ハ第十三條ノ家族ニシテ傷痕疾病ノ爲メ徵兵署ニ出頭シ得サル者ト認定スルハ左ノ各項ノ一ツニ該當スル者ニ限ル但第二ハ警察官ノ證明ヲ要ス

- 一 車駕或ハ擔架ヲ用ユルモ移動シ得サル者又ハ移動シ得ルモ之カ爲メ患者ニ危害ヲ及ホシ若クハ他人ノ衛生ヲ害スル虞アル者
- 二 檻ヲ常用スル發狂者及傳染病流行地ニアリテ交通遮斷ノモノ
- 三 癩病、梅毒等ニシテ潰瘍甚タシキ者ノ類

第十六條 郡市區長ハ検査日割通達ノ際概テ左ノ事項ヲ壯丁ニ注意スヘシ

- 一 成ルヘク頭髮ヲ五分以下ニ剪刈スルコト
- 二 耳腔ヲ清潔ニ掃除スルコト
- 三 検査場ニ酒氣ヲ帶ヒテ出場スベカラサルコト
- 四 積鼻揮清潔要スハ必ス用ユルコト
- 五 検査場及控所ニ於テ放歌及高聲ニ談笑セサルコト
- 六 検査場内ニ於テ喫煙セサルコト
- 七 徵兵署ニ於テ眼鏡ヲ用井サルコト
- 八 最終ノ學校卒業或ハ修業證書ヲ携帶スルコト

九 検査當日若クハ前日必ス入浴ヲナシ身體ヲ清潔ニスルコト

第十七條 郡市區長ハ細則第二十一條ノ現役志願者アルトキハ願書(第六書式)及身元證明書ヲ徴シ置クヘシ

第十八條 郡市區長ハ令第十二條ノ現役志願者ニシテ徴兵署ニ於テ身體検査ヲ受ケムト欲スル者アルトキハ願書(第七書式)ヲ徴シ附表ヲ調製シ置クヘシ

第十九條 郡市區長ハ一年志願兵出願者中該條例施行細則第五條ニヨリ人名ノ通達ヲ受ケ且検査名簿到着シタルトキハ附表ヲ調製シ置クヘシ

第二十條 郡市區長ハ検査當日壯丁ヲ召喚スルニハ豫メ一日ノ検査進捗ヲ考慮シ適宜ニ區分シ出頭時刻ヲ定ムヘシ

第二十一條 郡市長ハ司令官ヨリ豫報スル現役兵及補充兵ノ配賦人員ハ徴兵參事員ニ内示スヘシ

第三章 検査實施

一 徴兵官(司令官)

第二十二條 司令官ハ選兵上ノ必要ニ應シ特ニ學力檢定ヲナスモノトス

第二十三條 合格者(體格等位中乙種ノ者ヲ謂フ以下同シ)中採用身長者ノ學力ヲ檢定シ等級ヲ定メ壯丁名簿上部欄外ノ中央並ニ壯丁人名簿ニ記入(小印ヲ以テス以下同シ)

第二十四條 受檢者中選兵ヲナシタルモノ及徴集免除ニ屬スル者ハ壯丁名簿上部欄外ノ左側及壯丁人名簿ニ其旨ヲ記註シ又丙種以下ノ者ハ學力程度ノミヲ壯丁人名簿ニ記註ス

前項ノ手續終レハ壯丁名簿ヲ壯丁ニ與ヘ司令部書記ノ許ニ到ラシムヘシ

第二十五條 郡市區長ヨリ回附スル事故書類ハ調査判決ノ上郡市區書記ニ附シ整理セシムヘシ

第二十六條 令第十二條現役志願者ニ附與スヘキ合格證書ハ司令部書記ヲシテ調製セシメ司令官自ら本人ニ附與スヘシ

二 徴兵官(郡市區長)

第二十七條 郡市區長ハ壯丁各自ノ身體検査終ル毎ニ壯丁名簿記載ノ各項ヲ壯丁ニ質シ然ル後採用身長者ヲ除キタル壯丁ノ學力ヲ檢定シ其等級ヲ定メ壯丁名簿上部欄外中央ニ記註スヘシ但壯丁名簿記載ノ事項ト壯丁ノ口供ト符合セザルトキハ郡市區書記ニ命シ直チニ調査セシムルモノトス
前項ノ手續終レハ該名簿ヲ壯丁ニ與ヘ司令官ノ面前ニ到ラシムヘシ

第二十八條 壯丁又ハ其父兄等ヨリ差出ス諸願届書及之ニ關スル處分案等ヲ司令部書記ヨリ受クルトキハ之ヲ調査シ判決ノ上司令官ニ廻附スヘシ

第二十九條 令第二十二條出願者ノ事實審察ハ保證人若クハ保證人ノ子弟ト本人トニツキ取調ヲナシ終テ徴兵參事員席ニ到ラシムヘシ

三 徴兵署事務員(司令部書記)

第三十條 司令部書記ハ徴兵官及徴兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身長測定及各徴募區ニ關聯スル事務ヲ擔任シ且郡市區書記擔任事務ノ協議ニ與カルモノトス

第三十一條 身體検査ヲ終リタル壯丁ヨリ受クル所ノ壯丁名簿ハ其附表及名刺ト照較シ相違ナキトキ

ハ名刺及附表ヲ剝脱シ名刺ハ本人ニ與ヘテ市區書記若クハ町村吏員ノ許ニ到ラシメ附表ハ之ヲ體格等位ニ區別シ壯丁名簿ノ順序ニ編綴シ毎日検査ノ終リニ於テ徵兵醫官ニ差出シ同官用濟ノ上ハ自ラ之ヲ保管シ壯丁名簿ハ體格等位及兵種ニ區分シテ郡市區書記ニ回附シ又選兵上身長定寸ヲ線下ケタルモノアルトキハ名簿ノ備考欄及附表ノ摘要欄ニ其旨ヲ記入スヘシ但入寮留者ニアリテハ名簿ノ備考欄ニ「何年何聯隊區徵兵署ニ於テ検査」ト記入シ共ニ他日ノ參考ニ供スヘシ

第三十二條 前條ノ名簿ニヨリ検査報告調製ノ材料ヲ蒐集シ毎日検査ノ終リニ於テ検査成績表(第八書式)ニ所要ノ記入ヲナシ之ヲ郡市區書記ノ調査シタルモノト照較シ又事故者摘載録樣式ニ所要ノ事項ヲ記載スヘシ

第三十三條 身長測定ヲナスニハ検査場ノ廣狹ヲ計リ適宜ノ人員ヲ定メ二列以上ニ整列セシメ概テ左ノ事項ヲ訓示スヘシ

- 一 場内ニ在テハ極メテ靜肅ヲ守リ談笑及喫煙ヲナスヘカラサルコト
- 二 壯丁名簿ハ常ニ携帶シテ汚損セサル様注意シ吏員席ニ到ル毎ニ該員ニ呈シ其検査終レハ復之ヲ受領シ次席ニ到ルヘキコト

三 検査順序

- 第一番 測 尺 係
- 第二番 副 醫 官
- 第三番 醫 官
- 第四番 郡市區長
- 第五番 司 令 官
- 第六番 司令部書記
- 四 各吏員席ニ揭示スル番號ハ壯丁ノ經過スヘキ順序ナルコト

五 第六番席ニ壯丁名簿ヲ納メ名刺ヲ受領シ市區書記若クハ町村吏員ニ示シ進退ノ指圖ヲ受クルコト

六 身長測定ヲ受クル前壯丁名簿ヲ測尺係ニ呈シ試問ニ應答シ然ル後衣服ヲ脱シ着禪結目ヲ側方ノマ、身長計ノ臺上ニ上ルコト

七 第四番第五番席ニ到ルトキハ努メテ衣服ヲ體裁ヨク着用スルコト

第三十四條 前條ノ訓示終レハ第一列ヨリ順序ニ壯丁ヲ呼出シ壯丁名簿ヨツキ氏名職業ヲ試問シ相違ヲキトキハ之ヲ身長記註係(郡市區書記)ニ渡シ壯丁ノ身長ヲ測定シ何尺何寸ト明瞭ニ唱ヘ記註係ヲシテ記入ニ誤謬ナカラシムヘシ

記註係ヨリ名簿ヲ受領シ閱讀ノ上誤謬ナキヲ認メタルトキハ身長欄ニ捺印シ之ヲ壯丁ニ渡シ次席ニ至ラシムルモノトス但採用身長ニ滿タサルモノハ第二番席ヲ經ス直チニ第三番席ニ至ラシムヘシ
第三十五條 處分案竝ニ之ニ附帶スル書類ヲ郡市區書記ヨリ受領シタルトキハ調査捺印ノ上郡市區長ニ提出スヘシ

四 徵兵署事務員(郡市區書記)

第三十六條 郡市區書記ハ徵兵官及徵兵醫官ノ指揮ヲ受ケ且ツ司令部書記ニ協議シ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査竝ニ假決又ハ終決ニ屬スル書類ノ立案諸名簿ノ記載諸證書ノ調製身長ノ記入及抽籤準備事務ヲ擔任スルモノトス

第三十七條 徵兵官ニ提出スル總テノ處分案及書類ハ成ルヘク前日司令部書記ニ回附スル者トス但臨

時發生ノ事故書類ハ其時々回附スヘシ

第三十八條 日々検査前壯丁人名簿ニ目錄(第九書式)ヲ貼付シ徵兵官ニ提供スヘシ

第三十九條 事故者書類令第二十二條ハ壯丁名簿ト一括シ之ニ處分案(第十第十一書式)ヲ附シ司令部書

記ニ致スヘシ但處分ニ疑アルモノハ徵兵官ノ指揮ヲ受ケタル後處分案ヲ起草スヘシ

第四十條 司令部書記ヨリ受領スル處ノ壯丁名簿ハ體格等位及兵種ニ區別シ一定ノ順序ニ重ネ假リニ

編綴シ該名簿ニ依リ抽籤ノ準備事務ヲ處理スルモノトス但入寄留者ノ名簿ハ冊尾ニ編綴スヘシ

第四十一條 令第二十二條ノ出願書ハ先ツ徵兵官ノ一覽ニ供シ本人身體検査終ルヲ待テ同官ノ指揮ヲ

受ケ徵兵參事員ノ審議ニ附シ審議ヲ終レハ再ヒ之ヲ徵兵官ニ提供シ指揮ヲ請フヘシ但處分案ヲ提供

スルトキハ之ニ壯丁名簿及延期證書文案若クハ裁決書文案ヲ添付スルヲ要ス

第四十二條 徵兵令違反者アルトキハ之カ取調ヲナシ告發書文案ニ證據書類ヲ添付シ徵兵官ニ提供シ

判決ヲ受クヘシ

第四十三條 身長記註係ハ壯丁名簿ノ順序ニ從ヒ壯丁ヲ場内ニ呼ビ入レ之ニ壯丁名簿ヲ渡シ身長測定

ノ際司令部書記ノ唱フル身長ヲ復唱シ壯丁名簿及附表ニ記入ノ上之ヲ司令部書記ニ致スヘシ

第四十四條 徵兵參事員ノ住所、身分、職業及氏名ヲ徵兵署開設ノ當日検査開始前ニ司令官ニ差出ス

ヘシ但司令官及徵兵參事員ニ異動ナキトキハ此限ニアラス

第四十五條 毎日検査ノ終リニ於テ壯丁名簿ニヨリ検査成績表ニ所要ノ記入ヲナシ之ヲ司令部書記ノ

調査シタルモノト照較スヘシ

第四章 検査後ノ整理

第四十六條 検査終了シタルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ

一 徵集免除ニ屬スルモノノ壯丁名簿終決ノ區畫ニ徵集免除ノ印ヲ捺シ徵集免除名簿ヲ作り其冊尾

ニ人員及徵兵官ノ官職氏名徵兵官ト肩書シ司令官市區長ハ職名郡長ハ官名トス以下同シヲ記シ職印ヲ捺ス

二 兵役免除ニ屬スルモノノ壯丁名簿終決區畫ニ兵役免除ノ印ヲ捺シ兵役免除名簿ヲ作り其冊尾ニ

人員及徵兵官ノ氏名ヲ記シ職印ヲ捺ス

三 徵集猶豫及徵集延期ニ屬スルモノノ壯丁名簿假決ノ區畫ニ其處分ヲ記シ各別ニ其名簿ヲ作り冊

尾ニ人員及徵兵官ノ氏名ヲ記シ職印ヲ捺ス

四 選兵ヲナシタル壯丁名簿ヲ一括シテ徵集名簿ヲ作ルモノトス但入寄留者ノ名簿ハ冊尾ニ置クヘ

シ

第四十七條 前條諸名簿ハ検査成績表ト照較シ尙假決名簿ハ壯丁人名簿ト照較スヘシ

第四十八條 抽籤準備ノタメ毎日各壯丁ノ検査終ルニ從ヒ豫メ抽籤名簿抽籤番號ノ籤丁名簿入寄留者ハ何

寄留ト及籤札ヲ調製シ置クヘシ但東京市ニ在テハ抽籤名簿及籤札ハ聯合徵兵署ニ於テ調製スルモノ

トス

第四十九條 兵役免除證書徵集猶豫證書及徵集延期證書ハ毎日各自ノ検査終ル毎ニ調製シ市區ハ市區

長ヨリ郡ハ町村長ヲ經テ本人ニ下附スルモノトス

第五十條 徵兵令違反者ノ告發ハ成ルヘク本人身體検査指定ノ日ニ於テ郡市區長ノ名ヲ以テ其手續

ヲナスモノトス其處分ノ結果ハ所在不明ノ者ヲ除ク外ハ徵兵署閉鎖ノ前後ニ拘ハラス司令官ニ通知シ其所在不明ニ屬スルモノハ名簿ヲ調製シ翌年徵兵署ニ提出スヘシ

第五章 抽籤準備

第五十一條 徵募區ノ検査終ルトキハ左ノ各項ニヨリ抽籤準備ヲナスヘシ

- 一 徵集名簿ト籤丁名簿ト照較ヲナシ籤丁名簿封帯ニ其員數ヲ記ス
- 二 籤丁名簿員數ハ籤札ノ末番號及籤丁人員表(第十二書式)ト符合スルヤ否ヤヲ調査ス
- 三 籤札ハ各兵種毎ニ甲乙種ニ分チ一袋中ニ收メ封印ヲナシ籤丁人員表ニヨリ表面ニ甲(乙)種何兵何十名内令第二十七條若クハ令第二十三條又ハ令第二十八條何名細則第二十一條ノ志願者何名籤數何十ト記ス但抽籤法ニヨラサルモノノ籤丁名簿ハ豫メ其編入順序ニ從ヒ其相當番號ノ籤札ヲ貼付シ置クヲ要ス

第五十二條 徵募區ノ検査終ルトキ東京市ニ在テハ聯合徵兵署ニ於テハ籤丁人員表ヲ調製シ抽籤當日徵兵官事務員徵兵參事員各席ニ備ヘ置クヘシ

第五十三條 抽籤總代人ノ數ハ徵募區ハ二人乃至五人検査區ハ一人乃至二人トシ検査末日ニ於テ其區撰出ノ徵兵參事員之ヲ選定シ徵兵官ニ申報スルモノトス但其資格ハ身元確實ニシテ教育アルモノトス

第六章 抽籤實施

第五十四條 抽籤ハ左ノ係員ヲ以テ執行ス但時宜ニヨリ第三ヲ省略シ其事務ヲ第二第四ニ分割シ又郡

ニ在テハ第六第七ノ事務ハ第一ヨリ第五迄ノ事務終リタル後之ヲ行フコトヲ得

- 一 籤函係 司令部書記一人
- 二 呼名係 郡市區書記一人
- 三 貼付係 同
- 四 契印係 司令部書記若クハ郡市區書記一人
- 五 記註係 郡市區書記一人
- 六 整理係 司令部書記郡市區書記若干人
- 七 籤簿係 郡市區書記若干人

第五十五條 抽籤施行ノ順序左ノ如シ

- 一 籤函係ハ籤丁名簿ヲ呼名係ニ壯丁名簿ヲ記註係ニ配賦シ然ル後籤袋ニ記載セル體格等位兵種及籤數ヲ高聲ニ唱ヘ破封シテ籤札ヲ函中ニ收ム
- 二 呼名係ハ籤函係ノ唱フル體格等位兵種ト及籤數ト名簿ノ總數ト合スルヤ否ヲ答ヘ然ル後名簿ニ記載ノ事項ヲ高聲ニ唱ヘ該名簿ヲ次席ニ移ス
- 三 抽籤總代人ハ呼名係ノ呼名ニ應シ籤札ヲ抽キ籤札ニ記載シアル體格等位兵種及番號ヲ高聲ニ唱ヘ然ル後之ヲ貼付係ニ渡シ次ノ呼名ヲ待ツ
- 四 貼付係ハ總代人ヨリ受ケタル籤札ヲ籤丁名簿ノ上端ニ貼付シ之ヲ契印係ニ移ス
- 五 契印係ハ貼付係ヨリ受ケタル籤札ト籤丁名簿ト接合スル所ニ契印ヲ捺シ之ヲ記註係ニ移ス

六 記註係ハ契印係ヨリ受ケタル籤札ト籤丁名簿ニヨリ壯丁名簿ノ相當區畫ニ番號ヲ記入シ籤丁名簿ト共ニ整理係ニ移ス

七 整理係ハ記註係ヨリ受ケタル籤丁名簿及壯丁名簿ヲ各別ニ番號ノ順序ニ重ネ同等位同兵種ノ抽籤終ル毎ニ之ヲ一括トシ籤簿係ニ移ス

八 籤簿係ハ整理係ヨリ受ケタル名簿ニヨリ抽籤名簿番號ノ下ニ町村氏名ヲ記入ス但入寄留者ニ在テハ町村ノ下ニ寄留ノ二字ヲ附記スヘシ

第五十六條 抽籤終ルトキ左ノ手續ヲナスヘシ

一 壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿ヲ編綴シ各兵種及甲乙種ニ分チ番號ノ順序ニ從ヒ別冊トシ冊尾ニ其人員及徵兵官ノ氏名ヲ記シ職印ヲ捺ス但此名簿ハ假綴トシ紙端ヲ截斷スヘカラス

二 抽籤名簿ノ記入終ルトキハ冊尾ニ徵兵官ノ氏名ヲ記シ職印ヲ捺ス
三 籤札籤丁名簿ハ徵集名簿抽籤名簿ト照較シタル後之ヲ抽籤總代人ニ交付スルモノトス
四 徵募區ノ徵募事務全ク終レハ徵集名簿并ニ抽籤名簿ノ各一部ハ司令官直チニ受領シ其他ノ名簿ハ郡市長ニ交付スルモノトス

第五十七條 抽籤終ルトキハ入寄留者ノ壯丁名簿備考欄ニ同兵種最高ノ番號ヲ記入シ即日郡市東京市ヲ含ム長ヨリ本籍地徵募區ノ郡市長ニ送付スヘシ

第七章 雜 則

第五十八條 郡市區町村長ハ令第十二條ノ志願者ヨリ條例第五十二條ノ届出アリタルトキハ町村長ハ

郡長ニ郡市區長ハ司令官ニ報告スヘシ

第五十九條 司令官ハ細則第三十九條ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ現役ノ缺員ヲ補フニハ入營期日ヲ定メテ郡市東京市ヲ含ム區長ニ通知スヘシ但事故者ト補缺者ト其徵募(検査)區ヲ異ニスルトキハ双方ノ郡市區長ニ通知スル者トス

市東京市ヲ含ム長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ抽籤名簿ヲ訂正スル者トス
郡區長第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ本人又ハ其家族郡長ハ町村長ヲ經テニ達シ補缺者ヲシテ指定ノ日時ニ入營セシムヘシ

第六十條 郡市東京市ヲ含ム區町村長ハ細則第四十七條諸証書下ケ渡ノ請求書ヲ受ケタルトキハ町村長ハ郡長ニ區長ハ市長ニ郡市長ハ之ヲ司令官ニ送附スルモノトス

司令官前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ更ニ證書ヲ作り欄外ニ其事由ヲ記シ前二項ノ順序ヲ經テ本人ニ交付スヘシ

附 則

本規定ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

(式書一第)

明治何年壯丁人員表		何 郡 市	
壯 丁 人 / 員	前 年 假 決 人 員	計	
七五〇	五〇	八〇〇	

考 備

- 一 適齡以外ノ者ト雖モ漏籍者及前年届漏等ノ者ハ壯丁人員ニ算入シ其旨ヲ備考ニ記註スルモノトス
- 二 用紙ハ半紙野紙トス

(式書二第)

明治何年何徴募(検査)區検査人員表

何 村 町 何	計	第 一 日		第 二 日	計	何 村 町	何 村 町	何 村 町	適 齡			入 寄 留	檢 査 人 員
		何 村 町	何 村 町						本籍現在	出 寄 留	前 年 送 籍		
何 村	二	何 村	何 村	何 村	三	何 村	何 村	何 村	二	一	二	三	五
何 村	四	何 村	何 村	何 村	六	何 村	何 村	何 村	三	二	三	二	五
何 村	五	何 村	何 村	何 村	一	何 村	何 村	何 村	二	一	二	三	六
何 村	二	何 村	何 村	何 村	三	何 村	何 村	何 村	二	一	二	三	五
何 村	三	何 村	何 村	何 村	四	何 村	何 村	何 村	三	二	三	四	六
何 村	四	何 村	何 村	何 村	五	何 村	何 村	何 村	四	三	四	五	七
何 村	五	何 村	何 村	何 村	六	何 村	何 村	何 村	五	四	五	六	八
何 村	六	何 村	何 村	何 村	七	何 村	何 村	何 村	六	五	六	七	九
何 村	七	何 村	何 村	何 村	八	何 村	何 村	何 村	七	六	七	八	一〇
何 村	八	何 村	何 村	何 村	九	何 村	何 村	何 村	八	七	八	九	一一
何 村	九	何 村	何 村	何 村	一〇	何 村	何 村	何 村	九	八	九	一〇	一二
何 村	一〇	何 村	何 村	何 村	一一	何 村	何 村	何 村	一〇	九	一〇	一一	一三
何 村	一一	何 村	何 村	何 村	一二	何 村	何 村	何 村	一一	一〇	一一	一二	一四
何 村	一二	何 村	何 村	何 村	一三	何 村	何 村	何 村	一二	一一	一二	一三	一五
何 村	一三	何 村	何 村	何 村	一四	何 村	何 村	何 村	一三	一二	一三	一四	一六
何 村	一四	何 村	何 村	何 村	一五	何 村	何 村	何 村	一四	一三	一四	一五	一七
何 村	一五	何 村	何 村	何 村	一六	何 村	何 村	何 村	一五	一四	一五	一六	一八
何 村	一六	何 村	何 村	何 村	一七	何 村	何 村	何 村	一六	一五	一六	一七	一九
何 村	一七	何 村	何 村	何 村	一八	何 村	何 村	何 村	一七	一六	一七	一八	二〇
何 村	一八	何 村	何 村	何 村	一九	何 村	何 村	何 村	一八	一七	一八	一九	二一
何 村	一九	何 村	何 村	何 村	二〇	何 村	何 村	何 村	一九	一八	一九	二〇	二二
何 村	二〇	何 村	何 村	何 村	二一	何 村	何 村	何 村	二〇	一九	二〇	二一	二三
何 村	二一	何 村	何 村	何 村	二二	何 村	何 村	何 村	二一	二〇	二一	二二	二四
何 村	二二	何 村	何 村	何 村	二三	何 村	何 村	何 村	二二	二一	二二	二三	二五
何 村	二三	何 村	何 村	何 村	二四	何 村	何 村	何 村	二三	二二	二三	二四	二六
何 村	二四	何 村	何 村	何 村	二五	何 村	何 村	何 村	二四	二三	二四	二五	二七
何 村	二五	何 村	何 村	何 村	二六	何 村	何 村	何 村	二五	二四	二五	二六	二八
何 村	二六	何 村	何 村	何 村	二七	何 村	何 村	何 村	二六	二五	二六	二七	二九
何 村	二七	何 村	何 村	何 村	二八	何 村	何 村	何 村	二七	二六	二七	二八	三〇
何 村	二八	何 村	何 村	何 村	二九	何 村	何 村	何 村	二八	二七	二八	二九	三一
何 村	二九	何 村	何 村	何 村	三〇	何 村	何 村	何 村	二九	二八	二九	三〇	三二
何 村	三〇	何 村	何 村	何 村	三一	何 村	何 村	何 村	三〇	二九	三〇	三一	三三
何 村	三一	何 村	何 村	何 村	三二	何 村	何 村	何 村	三一	三〇	三一	三二	三四
何 村	三二	何 村	何 村	何 村	三三	何 村	何 村	何 村	三二	三一	三二	三三	三五
何 村	三三	何 村	何 村	何 村	三四	何 村	何 村	何 村	三三	三二	三三	三四	三六
何 村	三四	何 村	何 村	何 村	三五	何 村	何 村	何 村	三四	三三	三四	三五	三七
何 村	三五	何 村	何 村	何 村	三六	何 村	何 村	何 村	三五	三四	三五	三六	三八
何 村	三六	何 村	何 村	何 村	三七	何 村	何 村	何 村	三六	三五	三六	三七	三九
何 村	三七	何 村	何 村	何 村	三八	何 村	何 村	何 村	三七	三六	三七	三八	四〇
何 村	三八	何 村	何 村	何 村	三九	何 村	何 村	何 村	三八	三七	三八	三九	四一
何 村	三九	何 村	何 村	何 村	四〇	何 村	何 村	何 村	三九	三八	三九	四〇	四二
何 村	四〇	何 村	何 村	何 村	四一	何 村	何 村	何 村	四〇	三九	四〇	四一	四三
何 村	四一	何 村	何 村	何 村	四二	何 村	何 村	何 村	四一	四〇	四一	四二	四四
何 村	四二	何 村	何 村	何 村	四三	何 村	何 村	何 村	四二	四一	四二	四三	四五
何 村	四三	何 村	何 村	何 村	四四	何 村	何 村	何 村	四三	四二	四三	四四	四六
何 村	四四	何 村	何 村	何 村	四五	何 村	何 村	何 村	四四	四三	四四	四五	四七
何 村	四五	何 村	何 村	何 村	四六	何 村	何 村	何 村	四五	四四	四五	四六	四八
何 村	四六	何 村	何 村	何 村	四七	何 村	何 村	何 村	四六	四五	四六	四七	四九
何 村	四七	何 村	何 村	何 村	四八	何 村	何 村	何 村	四七	四六	四七	四八	五〇
何 村	四八	何 村	何 村	何 村	四九	何 村	何 村	何 村	四八	四七	四八	四九	五一
何 村	四九	何 村	何 村	何 村	五〇	何 村	何 村	何 村	四九	四八	四九	五〇	五二
何 村	五〇	何 村	何 村	何 村	五一	何 村	何 村	何 村	五〇	四九	五〇	五一	五三
何 村	五一	何 村	何 村	何 村	五二	何 村	何 村	何 村	五一	五〇	五一	五二	五四
何 村	五二	何 村	何 村	何 村	五三	何 村	何 村	何 村	五二	五一	五二	五三	五五
何 村	五三	何 村	何 村	何 村	五四	何 村	何 村	何 村	五三	五二	五三	五四	五六
何 村	五四	何 村	何 村	何 村	五五	何 村	何 村	何 村	五四	五三	五四	五五	五七
何 村	五五	何 村	何 村	何 村	五六	何 村	何 村	何 村	五五	五四	五五	五六	五八
何 村	五六	何 村	何 村	何 村	五七	何 村	何 村	何 村	五六	五五	五六	五七	五九
何 村	五七	何 村	何 村	何 村	五八	何 村	何 村	何 村	五七	五六	五七	五八	六〇
何 村	五八	何 村	何 村	何 村	五九	何 村	何 村	何 村	五八	五七	五八	五九	六一
何 村	五九	何 村	何 村	何 村	六〇	何 村	何 村	何 村	五九	五八	五九	六〇	六二
何 村	六〇	何 村	何 村	何 村	六一	何 村	何 村	何 村	六〇	五九	六〇	六一	六三
何 村	六一	何 村	何 村	何 村	六二	何 村	何 村	何 村	六一	六〇	六一	六二	六四
何 村	六二	何 村	何 村	何 村	六三	何 村	何 村	何 村	六二	六一	六二	六三	六五
何 村	六三	何 村	何 村	何 村	六四	何 村	何 村	何 村	六三	六二	六三	六四	六七
何 村	六四	何 村	何 村	何 村	六五	何 村	何 村	何 村	六四	六三	六四	六五	六八
何 村	六五	何 村	何 村	何 村	六六	何 村	何 村	何 村	六五	六四	六五	六六	七〇
何 村	六六	何 村	何 村	何 村	六七	何 村	何 村	何 村	六六	六五	六六	六七	七〇
何 村	六七	何 村	何 村	何 村	六八	何 村	何 村	何 村	六七	六六	六七	六八	七〇
何 村	六八	何 村	何 村	何 村	六九	何 村	何 村	何 村	六八	六七	六八	六九	七一
何 村	六九	何 村	何 村	何 村	七〇	何 村	何 村	何 村	六九	六八	六九	七〇	七二
何 村	七〇	何 村	何 村	何 村	七一	何 村	何 村	何 村	七〇	六九	七〇	七一	七三
何 村	七一	何 村	何 村	何 村	七二	何 村	何 村	何 村	七一	七〇	七一	七二	七四
何 村	七二	何 村	何 村	何 村	七三	何 村	何 村	何 村	七二	七一	七二	七三	七五
何 村	七三	何 村	何 村	何 村	七四	何 村	何 村	何 村	七三	七二	七三	七四	七六
何 村	七四	何 村	何 村	何 村	七五	何 村	何 村	何 村	七四	七三	七四	七五	七八
何 村	七五	何 村	何 村	何 村	七六	何 村	何 村	何 村	七五	七四	七五	七六	八〇
何 村	七六	何 村	何 村	何 村	七七	何 村	何 村	何 村	七六	七五	七六	七七	八〇
何 村	七七	何 村	何 村	何 村	七八	何 村	何 村	何 村	七七	七六	七七	七八	八二
何 村	七八	何 村	何 村	何 村	七九	何 村	何 村	何 村	七八	七七	七八	七九	八四
何 村	七九	何 村	何 村	何 村	八〇	何 村	何 村	何 村	七九	七八	七九	八〇	八六
何 村	八〇	何 村	何 村	何 村	八一	何 村	何 村	何 村	八〇	七八	八〇	八一	九〇
何 村	八一	何 村	何 村	何 村	八二	何 村	何 村	何 村	八一	八〇	八一	八二	九〇
何 村	八二	何 村	何 村	何 村	八三	何 村	何 村	何 村	八二	八一	八二	八三	九二
何 村	八三	何 村	何 村	何 村	八四	何 村	何 村	何 村	八三	八二	八三	八四	九四
何 村	八四	何 村	何 村	何 村	八五	何 村	何 村	何 村	八四	八三	八四	八五	一〇〇
何 村	八五	何 村	何 村	何 村	八六	何 村	何 村	何 村	八五	八四	八五	八六	一〇〇
何 村	八六	何 村	何 村	何 村	八七	何 村	何 村	何 村	八六	八五	八六	八七	一〇二
何 村	八七	何 村	何 村	何 村	八八	何 村	何 村	何 村	八七	八六	八七	八八	一〇四
何 村	八八	何 村	何 村	何 村	八九	何 村	何 村	何 村	八八	八七	八八	八九	一〇六
何 村	八九	何 村	何 村	何 村	九〇	何 村	何 村	何 村	八九	八八	八九	九〇	一〇八
何 村	九〇	何 村	何 村	何 村	九一	何 村	何 村	何 村	九〇	八九	九〇	九一	一一〇
何 村	九一	何 村	何 村	何 村	九二	何 村	何 村	何 村	九一	九〇	九一	九二	一一二
何 村	九二	何 村	何 村	何 村	九三	何 村	何 村	何 村	九二	九一	九二	九三	一一四
何 村	九三	何 村	何 村	何 村	九四	何 村	何 村	何 村	九三	九二	九三	九四	一二〇
何 村</													

七 區ニアリテハ前年送壯丁ノ内不參見込人員ハ之ヲ一纏トシ其検査日次ハ適齡者ノ検査最終日トス

(式書三第)

刺 名

何 之 某

- 一 用紙ハ美濃判白紙十六切トス
- 二 本名刺ハ検査前便宜ノ時機ニ於テ本人ニ自書セシムルモノトス但本人自書シ能ハサル者ハ代書セシメ姓名ノ左側ニ代書ノ二字ヲ記スヘシ
- 三 氏名ハ用紙下部約三分ノ二ヲ用ユヘシ
- 四 此名刺ノ上部ヲ薄キ糊ヲ以テ壯丁名簿右側欄外中部ニ附著ス

(式書四第)

附 表

決 假	要 摘	構 各	運 關	構 一	辨 視	身 長	等 位	生 年 月 日	氏 職 名 業	住 所	曲 尺 八 分

令第二十八條先入兵異動徵集

曲 尺 二 分

- 一 用紙ハ美濃判四ツ切トス
- 二 本書中ノ外畫ハ用紙ヲ示ス
- 三 内畫ハ用紙中ニ設クル輪畫トス
- 四 二附表ノ上端ヲ薄キ糊ヲ以テ壯丁名簿ノ上部「何年壯丁名簿」輪畫ノ下端ニ附著ス
- 五 三生年月日ハ適齡者以外ノ徵集者ノミ記入スルモノトス
- 六 四入寄留者ハ附表ノ右肩ニ何郡市區町村寄留ト朱書スヘシ

(式書五第)

明治何年壯丁人名簿		何町 村 (市區ニ在テハ之ヲ省ク)		何郡市區(町村)	
體格	兵種	摘要	學力	職業	氏名
			尋三		
			尋四		
			高一		
			無		
			高二級		
			初一級		
			上四級		
			尋中三		
			私小二年		

注意

- 一 小學校令ニ依ラサル私立學校又ハ教師等ニ就キ修業シタル者若クハ家庭教育アル者ハ其學力ニ從ヒ何々相當若クハ何々ニ於テ何年ト記ス
- 二 氏名上部ノ上中下ハ品行ノ優劣ヲ示ス
- 三 學力程度ハ本人修學當時ノ學制ニ依ルモノトス例ヘハ尋常三年級ハ尋三、高等二級ハ高二級、初等一級ハ初一級、尋常中學三年級ハ尋中三、無教育ハ無、私立小學校ニテ二年修業ノモノハ私小二年等ト略語ヲ以テ其卒業若クハ修業セシ等級ヲ掲クルモノトス
- 四 本名簿ハ壯丁名簿ノ順序ニ記載シ其日毎又ハ數日分合冊トナシ氏名下ノ欄外ニ檢査當日毎ニ一貫ノ番號ヲ付ス
- 五 他ノ徵募區若クハ檢査區ニ於テ檢査ヲ受クル者及前年送ノ者ト雖モ學力程度ヲ調査シ其前年送ノ者ハ冊尾ニ列記スヘシ但所在不明ノモノハ復歸若クハ所在發見ヲ待テ列記スルモ妨ナシ
- 六 入寄留者ハ各府縣別ニ列記シ別冊トス但各町村毎ニ末尾ニ記入スルモ妨クナシ
- 七 用紙ハ美濃判紙トス

現役兵志願書

府縣郡市區町村字

族籍某長男

何 某

明治何年何月何日生

(式書六第)

第一歩兵
第二騎兵

備	總計	現役中ノ人員				計	現役ヲ終リタル人員
		陸軍志願兵	海軍志願兵	令第十三條第二項ニ當ル者	令第十三條第三項ニ當ル者		
重罪ノ刑ニ處セラレタル人員							
検査後抽籤前死亡							
検査後條例第三十一條處分前死亡又ハ入團入隊ノ者							
兵役免除ノ際四尺八寸未満ノ區畫ヘハ四尺八寸未満ノ廢疾不具者モ含有スヘシ							
令第十二條志願、一年志願兵、下士候補生等身體検査ヲ施行セシトキ其							

(式書九第) (式書十第)

注意 郡市區ニ於テ調製スルモノハ配當要員ノ區畫ヲ除ク

何月何日検査人員 何徵募(検査)區

百何十何人

召喚人員 何

内 適齡者 百何十何人

前年送 何人

入寄留者 何人

外 六週間現役兵 何人

徵集猶豫願處分案 事務員 主合 任議

徵兵官 司令官(判決) 郡區長(同)

年 月 日

右ノ者令第二十三條ニヨリ徵集猶豫ノ儀出願ニ付審査候處該條相當ノ者ト被認候ニ付猶豫證明御下附可相成哉

人員ヲ備考ニ記入スヘシ
 断則第二十一條現役志願者モ前項同
 入寄留者ニシテ選兵ヲナシタルモノ
 ハ相當區畫ニ別記シ△印ヲ附スヘシ

徵發事務取扱規程

- 第一條 徵發令第十二條第一號ノ物件ハ郡市ニ賦課スルモノトス但シ時機ニ依リ直ニ町村ニ賦課スルコトアルヘシ
- 徵發令第十二條第二號ノ物件ヲ時機ニ依リ當應ヨリ賦課スルトキ亦前項ニ同シ
- 第二條 郡市町村長ニ於テ陸海軍官憲ヨリ徵發書ヲ受ケタルトキハ直ニ當應ニ報告スヘシ
前項徵發書ヲ受ケ其ノ物件賦課ノ數ニ不足シ當該官憲ニ報告シタルトキハ其ノ旨直ニ當應ニ報告スヘシ
- 第三條 郡市町村長ハ徵發令第八條ニ依リ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法及同第三十條ニ依リ其ノ徵發區ニ於テ負擔スヘキ輸送費支給方法ヲ豫定シ當應ニ報告スヘシ但シ其ノ方法ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第四條 郡市町村長ハ徵發令第十二條第十三條各號中郡市町村ニ賦課セラルヘキ物件ノ平常價額賃錢損料等ヲ平素取調置キ實地供給ノ場合ニ際シ支障ナカラシムヘシ
- 第五條 徵發事務條例第四十一條ニ依リ隣郡長ト商議ノ上組合町村ヲ定メ又ハ其ノ組合ヲ解キタルトキハ其ノ時時當應ニ報告スヘシ
- 第六條 第一條第一項第二項ノ物件ニ對スル賠償金及第一項ノ物件ヲ差出場所ニ輸送シタル費用並第二項ノ物件ヲ徵發區外ニ輸送シタル費用ハ計算書ヲ調製シ當應ニ請求スヘシ
- 第七條 市町村長ハ附録ノ徵發物件表(第一表)ヲ調製シ市長ニ於テハ毎三年三月末日迄ニ當應ニ町村長ニ於テハ毎三年二月十五日迄ニ郡長ニ報告スヘシ

- 郡長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ一表ニ調製シ同月末日迄ニ當應ニ報告スヘシ
 - 第八條 市町村長ハ附録ノ工場表並汽船表(第二表乃至第六表)ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ當應ニ報告スヘシ
 - 第九條 市町村長ハ附録ノ徵發物件量數表(第七表)ヲ調製シ市長ハ毎年二月末日迄ニ當應ニ町村長ハ毎年二月十五日迄ニ郡長ニ報告スヘシ
 - 郡長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ合計表ヲ添ヘ同月末日迄ニ當應ニ報告スヘシ
 - 第十條 徵發事務條例第二十一條ニ依リ郡市長ニ於テ調製スル徵發物件表差出期限ハ毎三年二月末日迄トス但シ本表ハ正副二通ヲ要ス
 - 第十一條 市町村長ハ其ノ管内ニ於テ汽船ヲ製造シ若ハ買入タル者アルトキハ汽船表(第五表、第六表)ヲ添ヘ其ノ時時當應ニ報告スヘシ
- 附 則
- 第十二條 明治十九年十月達第三十九號ハ之ヲ廢止ス
 - 様式ハ報告例(年報第十八表)ニ記載アルヲ以テ略之

○神奈川縣訓令第三十八號

明治三十五年七月八日

郡 役 所 市 役 所

明治三十年二月陸軍省令第四號馬匹調査及檢査施行規則ニ依リ馬匹調査表並馬匹出入表ヲ師團長ニ差出ストキハ其ノ一通ヲ當廳ニ差出スヘシ

○訓第七十二號

明治三十五年十二月九日

郡役所 市役所

一 徵兵適齡ハ壯丁ニシテ所在不明ノ爲未タ徵兵上ノ處分ヲ受ケサル者明治廿九年ノ調査ニ依レハ千五十三人ノ處比年累加シ明治三十四年ニ於テハ千四百五十一人ニ達セリ今假ニ之ヲ一ケ年ノ壯丁全數ニ比較スルトキハ其數殆ント五分ノ一ノ多キヲ占ムルニ至ル是必竟壯丁ニ於テ兵役義務ノ重要ナルヲ辨セサルニ其因スト雖抑又該失踪者ニ對スル調査ノ嚴密ナラサルニ由ルモノト認ム若シ此ノ如キ狀況ヲ以テ荏苒經過セハ漸次其數ヲ増加シ益徵兵事務ニ煩累ヲ來スノミナラズ其弊延テ兵役忌避ノ徒ヲ増加スルナキヲ保セス自今宜シク嚴密ノ調査ヲ遂ケ充分ノ成績ヲ擧クンコトヲ努ムヘシ而シテ從來ノ失踪者ヲ發見シ徵兵上ノ處分ヲ終了シタルトキハ其旨速ニ報告スヘシ

二 新兵入營又ハ滿期兵歸郷ノ際ニ於ケル送迎ニ關シテハ大ニ弊風ヲ改メタリト雖仍ホ其送迎ニ旗幟ヲ樹テ其行ヲ壯ニスル等ノ風ヲ存ス蓋シ在營者ヲシテ後顧ノ憂ナク安シテ軍務ニ忠實ナラシムルモノハ盛大ナル外形ノ送迎ニ因ルニ非ラスシテ著實親切ナル精神的獎勵ニ基クハ言テ俟タサルノミナラス此ノ如キ華美虛飾ノ風ハ軍部ニ於テ尙フ所ノ質素ノ精神ニ反スルモノニシテ累

ヲ軍部ニ及ホシ且之レカ爲無用ノ錢財ヲ糜スノ結果延テ兵役厭忌ノ媒介トナランコトヲ恐ル故ニ當局者能ク此ノ趣旨ヲ體シ軍部ニ於ケル主義ニ乖戾スル習俗ヲ除却スルコトヲ期スヘシ

右訓令ス

○神奈川縣訓令第六號

明治三十六年二月二十四日

郡役所 市役所 町村役場

海軍召集事務取扱手續左ノ通之ヲ定ム

海軍召集事務取扱手續

第一條 召集ニ關係アル官吏公吏ハ海軍召集手續(第一)ヲ作り之ニ充員召集及演習召集ニ關シ自カラ計畫準備シタル事項並召集實施ニ方リ其ノ景況及參考ト爲スヘキ事項ノ要領ヲ記載スヘシ

第二條 郡市長ハ召集事務ニ關シ規定ヲ設ケ又ハ警察署長(分署長ヲ含ム以下同)ト協議シタルトキハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第三條 郡長ハ隨時各町村ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ主任書記ヲシテ之ヲ檢閲セシメ其ノ成績ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 海軍召集條例第二十五條ニ依リ知事ヨリ郡市長ニ達スルニハ第二樣式ニ依ル

郡長前項ノ達ヲ受ケタルトキハ町村長ニ達(第二)スヘシ

第五條 郡長ハ國道又ハ假定縣道等應召集員多數通過スヘキモノト認メタル沿道ノ町村長ヲシテ海軍軍

用旅舎ヲ選定セシムヘシ

第六條 町村長海軍軍用旅舎ヲ選定シタルトキハ舍主ヲシテ宿泊料額及晝食料額ヲ豫定セシムヘシ

第七條 海軍軍用旅舎ヲ選定シタルトキハ左ノ事項ヲ町村長ハ郡長ニ郡長ハ之ヲ知事ニ報告シ且ツ同

時ニ所轄警察署長ニ通報スヘシ但シ其ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々本條ノ手續ヲ爲スヘシ

一 海軍軍用旅舎所在地及舍主ノ氏名屋號

二 宿泊ニ充ツヘキ室數、疊數及宿泊料額、晝食料額

第八條 市長ハ第五條第六條第七條ノ例ニ依リ海軍軍用旅舎ヲ選定シ之ヲ知事ニ報告シ且ツ同時ニ所

轄警察署長ニ通報スヘシ但シ其ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ時々本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 町村役場ニハ海軍豫備役後備役下士卒召集名簿(第三式)ヲ設備シ異動アル毎ニ之ヲ訂正スヘシ

第十條 町村長ハ召集通報人ヲ定メタルモノアルトキハ召集通報人ノ住所氏名ヲ記シタル紙片ヲ海軍

豫備役後備役下士卒召集名簿中本人住所ノ上ニ貼付シ置クヘシ

第十一條 郡市長ハ海軍召集條例第十八條第十九條及海軍召集條例施行細則第二十四條ニ依リ鎮守府

及他郡市長ヨリ召集令狀並旅費證票ノ送付ヲ受ケタルトキハ海軍豫備役後備役下士卒召集名簿ニ照

シ其ノ異動ヲ確メ兵役ノ區分ニ從ヒ召集令狀ヲ區別シ郡長ハ町村毎ニ第四式ノ袋ニ入レ使丁差遣ノ區域毎ニ一括シ袋

(第五式)ニ納メ置クヘシ但シ旅費證票ハ別ニ保管スヘシ

第十二條 郡長ハ召集令狀送付書(第六式)ヲ豫メ準備シ召集實施ノ際ハ令狀ト共ニ町村長ニ送付

スヘシ

第十三條 郡市長ハ海軍召集條例第二十六條第三項ニ依リ憲兵及警察官吏ニ通知スル爲用紙(第七式)ヲ

豫メ準備シ置クヘシ

第十四條 郡長ハ第四條ノ達用紙ヲ豫メ準備シ置クヘシ

第十五條 召集實施ニ方リ使用スル使丁ハ年齢二十歳以上四十歳以下ニシテ身體壯健且ツ文字ヲ讀ミ

得ルモノヲ選ミ契約シ置クヘシ

第十六條 郡市役所及町村役場ニ在テハ召集書類ヲ入ルル籠、油紙、提灯、肉池、矢立等ヲ豫メ準備

シ置クヘシ

第十七條 召集旅費支給場ニハ「海軍召集旅費支給場何郡役所」ト大書セル標札ヲ掲クル爲豫メ準備シ

置クヘシ

第十八條 市町村長ハ海軍在郷軍人ヲシテ其ノ居宅ノ見易キ場所ニ兵役兵種氏名ヲ書シタル門札ヲ掲

クシムヘシ

第十九條 大演習若ハ小演習召集ノ場合ニ在テハ第四條ヲ準用スルノ外第八樣式ヲ用井ルコトアルヘ

シ

第二十條 町村長ハ充員召集及演習召集ノ達ヲ受ケタル後三日以内ニ召集員應否區分表(第九式)ヲ調製

シ郡長ニ報告スヘシ郡長ハ之ヲ二集ニ取纏メ三日以内ニ知事ニ報告スヘシ但シ報告後不應者ニシテ

召集ニ應シ召集地ニ出發シタルモノアルトキハ其ノ時々報告スヘシ

市長ハ前項ノ例ニ依リ六日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第二十一條 町村長ハ簡點呼施行後三日以内ニ召集員應否區分表(第九様式)ヲ調製シ郡長ニ報告スヘシ
郡長ハ之ヲ一表ニ取纏メ三日以内ニ知事ニ報告スヘシ
市長ハ前項ノ例ニ依リ六日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第三十二條 召集事務ニ關スル書類ハ他ノ文書ト區別シ鎖鑰アル箱ニ格納スヘシ

附 則

第二十三條 明治三十一年^{十二}月^{十二}神奈川縣訓令第四十四號ハ之ヲ廢止ス

(第二様式)

海軍召集手簿	保管者	氏名
	官職	氏名

- 一 改正變更等ノ場合ニ於テ記註ニ便ナラシムル爲一罫ツツ空野ヲ存スルモノトス
- 一 參照條項及付表類ハ添付シ置クモノトス
- 一 用紙ハ半紙野紙トス

(第二様式) 一

充第何號

何月何日午(前)海軍豫備役後備役軍人ノ充員召集ヲ令セラル

明治何年何月何日午(前)何時

官 氏 名 印

(第二様式) 二

充第何號

何月何日午(前)海軍豫備役(後備役)軍人ノ充員召集ヲ令セラル

明治何年何月何日午(前)何時

官 氏 名 印

(第二様式) 三

充第何號

何月何日午(前)明治何年何月何日以後現役ヲ離レタル海軍豫備役後備役軍人ノ充員召集ヲ令セラル

明治何年何月何日午(前)何時

官 氏 名 印

(第二様式) 四

充第何號

何月何日午(前)明治何年何月何日以後現役ヲ離レタル海軍豫備役(後備役)軍人ノ充員召集ヲ令セラル

明治何年何月何日午(前)何時

官 氏 名 印

(第三様式)

(何)召集區明治(何)年豫(後)備役編入下士(卒)召集名簿

何兵ノ部

年 月 日	(何)備役編入	年 月 日	(何)備役満期	住 所	志願兵 徴兵別	官 職	氏 名	生 年 月 日

- 一 本名簿ハ兵種及下士卒ヲ區分ス
- 一 用紙美濃紙

(第四様式)

海軍豫備役(後備役)充員
(演習)召集令狀

何 枚

何 町(村)

(第五様式)

海軍豫備役(後備役)充員
(演習)召集令狀

何 郡(市)役 所

(第六様式)

充(演)第何號

海軍充員(演習)召集令狀

右送付ス

明治何年何月何日

何 町(村)役 場

何 枚

官 氏 名 印

(第七様式)

充(演)第何號

海軍召集條例第二十六條第三項通知書

事	由	兵	役	兵種等級	住	所	氏	名
令狀交付 (所在不明ノ爲メ令狀交付未済)	濟	豫備役	一等水兵	何郡何町(村)大字何番地	何	某		

右及御通知候也

明治何年何月何日

官職氏名印

憲兵及警察官吏宛

(第八樣式)

演第何號

何日午(前)何年何月何日ヨリ何日間大(小)演習施行ノ爲何年何月何日ヨリ何年何月何日迄ニ現役ヲ離レタル第何召集區(第何ヨリ第何ニ至ル召集區)ノ豫備役(後備役)下士卒ノ召集ヲ(令セラル)行ハル

明治何年何月何日午(前)何時

官氏名印

(第九樣式)

海軍豫備役(後備役)充員(演習)(簡閱點呼)召集應否區分表

何郡(市)役所

何町(村)役場

町村名	召集總員		何町	何村	計	
	應召	不			同	同
	集員	應	兵卒	同	同	同
	犯	應	下士	同	同	同
	罪	召				
	失	集				
	踪	員				
	旅	計				
	行					
	疾					
	病					
	傷					
	災					
	其					
	他					
	ノ					
	計					

右及報告候也

明治何年何月何日

官職氏名印

知事(郡長)宛

○神奈川縣訓令第十四號

明治三十六年五月十二日

郡役所 市役所 町村役場

國民兵召集事務取扱手續左ノ通之ヲ定ム

國民兵召集事務取扱手續

- 第一條 郡長ハ國民兵召集令傳達書(第一様式)ヲ市町村長ハ國民兵召集令傳達書(第二様式)及應召員人名書(第三様式)ヲ豫メ準備シ置キ異動アリタルトキハ其ノ時時加除訂正スヘシ
- 第二條 國民兵召集ニ關スル簿書類ハ袋(第四様式)ニ格納シ置クヘシ
- 第三條 郡市町村長ハ本手續ニ依ルノ外國國民兵召集實施ヲ容易ナラシムル爲平時ニ於テ相當ノ處置ヲ爲シ置クヘシ

(第一様式) 用紙美濃紙半截

動何第 號

左ノ通國民兵召集ヲ令セラル

何町村役場

種 類
年 齡
集 合 場
集 合 場
到 著 日 時
明治何年何月何日

(第一國民兵)
(何 歲(又ハ何歳ヨリ何歳迄))
(何郡市町村何地)
(何月何日午前何時分)

郡長 氏

名 印

(第二様式) 用紙厚西洋紙

五寸
四寸五分

國民兵召集令傳達書

縣 郡 市 町 村

第一國民兵
元兵種官等級 氏 名

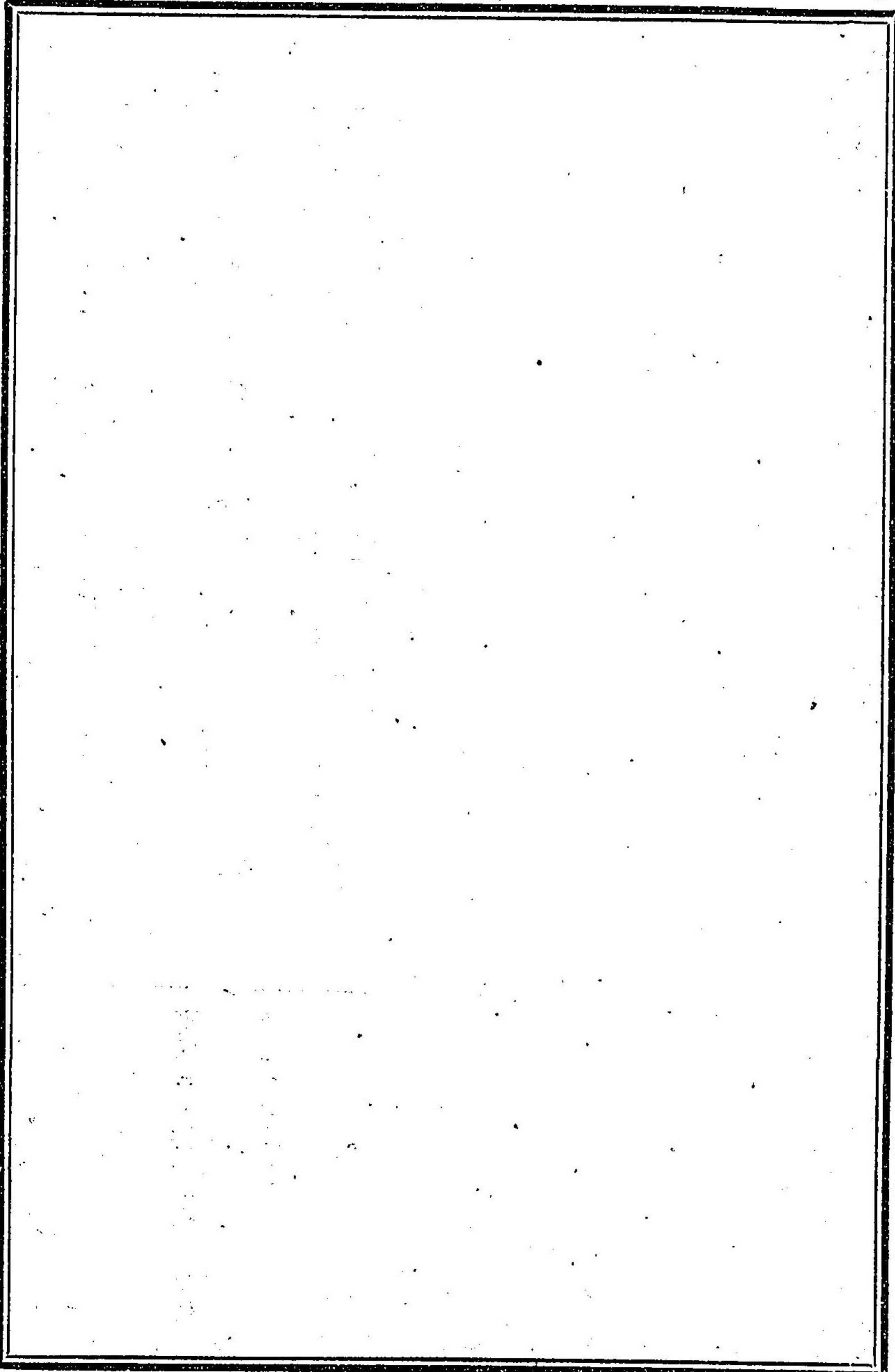
右國民兵召集ヲ令セラル明治何年何月何日午前何時何郡市町村何地集合場
ハ到著スヘシ
但何月何日午前何時迄ニ(當市役所、町村役場何地)ハ集合シ市町村吏員
ノ引率ヲ受クヘシ
明治 年 月 日 何市町村長 氏 名 印

受 領 證

一國民兵召集令傳達書

右 受 領 ス

明治 年 月 日 午前 時 分



◎土 本

○甲第百八十三號

明治十二年十月九日

治水條例並副則左之通相定候條此旨布達候事

但從前相達置候法則ハ都テ廢止候事

治水 條例

- 第一條 治水ニ關スル事務ハ總テ成規ニ從ヒ該町村戸長ノ擔任スルモノトス
- 第二條 用悪水路樋管溜井等ノ修繕其工費ノ協議費ニ屬スル分ハ該町村限リ戸長ノ認可ヲ經テ直チニ施行スルコトヲ得尤利害ノ他ニ影響スルモノハ豫メ其町村ニ協議スヘシ
- 第三條 毎年農隙ヲ計リ堤上適宜ノ場所ヲ撰ミ防禦ニ緊要ノ木石等蓄積シ出水ノ豫備ヲナスヘシ
- 第四條 川流ノ迂直水勢ノ強弱ニ仍リ若シ其利害ニ關シテ川脈ヲ變換シ及ヒ修繕ヲ要スルトキハ見込ヲ具狀スヘシ
- 第五條 河水暴漲及大風雨ノ節ハ晝夜ニ限ラス沿川ヲ巡視シ防禦ニ盡力シ且減水ノ後ハ破損ノ箇所詳細取調郡區役所ヲ經テ届出ヘシ
- 第六條 流筏ノ者水勢ニ因リ堤塘及ヒ水刳器械ノ類ノ障礙トナリ瀕違ヒ水路ヲ設クルヲ要スル等ノ節ハ其旨取調具狀ノ上指揮ヲ受クヘシ

第七條 總テ犯則ノ者アルトキハ地元町村ニテ頓未取糺詳細具狀スヘシ

第八條 毎年十月ニ至リ村々目論見ノ節ハ豫メ現場ヲ實查シ置キ派出官ヘ見込申立ツヘシ

但協議費ニ屬スル分ハ箇所附帳相添出願スヘシ

第九條 各川堤防水刳切及ヒ堤塘ニ係ル諸修繕ニシテ臨時工事ヲ要スルトキハ必ス戸長検査ノ上目

論見帳ヲ添へ出願許可ヲ得而テ後始メテ著手スル事ヲ得

但出水ノ際一時ノ防禦及ヒ道路兼用ノ堤塘ニシテ其修繕ノ協議費ニ屬スル分ハ該町村限リ戸長ノ

認可ヲ經テ直チニ施行スルコトヲ得尤前岸上下ノ障礙トナルヘキ上置キ等ハ此限ニアラス

第十條 河港堤塘缺崩シ及ヒ水刳類ノ損所アルトキハ大破ニ及ハサル前町村持場限リ怠慢ナク補修ヲ

ナスヘシ

第十一條 川脈ヲ變更シ或ハ新ニ堤塘溝渠等ヲ設クルトキハ土地ノ種類ハ勿論地坪ノ増減及ヒ其幅員

間數等詳細ノ圖面目論見帳並前岸上下各町村故障有無ノ連署ヲ以テ出願許可ヲ經テ而テ後著手スル

コトヲ得尤竣功ノ上ハ明治九年六月租第五百五十四號達離形ニ照準工費決算帳相添其都度遺漏ナク届

出ヘシ

但新規起工ニ係ルモノハ總テ明治九年第三百三十號又ハ同十二年第二十二號公布ノ旨趣履行濟ノ廉

願面ニ詳明ナラシムヘシ

第十二條 堤防用惡水路樋管溜井等ノ工事ニシテ既ニ竣功セシモノハ明治十年本縣乙第百二十六號達

ニ據リ毎三ヶ月ツ遺漏ナク調製シ翌月十日限リ郡區役所ヘ送致スヘシ

第十三條 副則第五條第八條ニ付工事上不得止トキハ情實具狀ノ上指揮ヲ受クヘシ

治水條例副則

第一條 河港堤防用惡水樋管溜井等ノ修築補繕ハ些少ノ事業タリトモ私ニ著手スルコトヲ許サス

第二條 堤腹堤脚ヲ侵墾シ溝渠ヲ縮耕スル等ヲ許サス

第三條 許可ヲ得スシテ川中へ杭ヲ打チ或ハ蘆葦卷ヲ沈メ築ヲ設クルコトヲ許サス

第四條 川除牛柵及ヒ石籠等總テ堤防器械上へ登ルコトヲ許サス

第五條 毎年五月ヨリ十月迄ノ間河原敷へ竹木ヲ積置クコトヲ許サス

但本文期限外ト雖モ豫定シアル物揚場外ヨリ諸物品ヲ運搬スルヲ許サス

第六條 流筏渡船營業者ト雖モ堤防水刳柵杭等へ衝突シ又ハ繫留スルコトヲ許サス

第七條 堤外へ居宅及ヒ渡船場漁小屋筏小屋等ヲ私ニ築造スルヲ許サス

第八條 許可ヲ得スシテ堤際拾間以内ニ於テ土砂ヲ堀取ルコトヲ許サス

但私有地ニ係ル年季起返シ土砂堀取リノ事業ト雖トモ無届ニテ著手スルヲ許サス

第九條 職遊漁ニ論ナク堤塘又ハ浪除ヨリ拾間以内及ヒ土留柵等貳間以内ニ於テ釣餌又ハ貝類ヲ堀取

ルコトヲ許サス

第十條 出水ノ節堤際又ハ水刳類へ流寄リタル塵芥及ヒ竹木等其地元町村吏員戸長等ノ差圖ヲ經スシ

テ私ニ拾ヒ取ルコトヲ許サス

第十一條 前條條ヲ犯シタルモノハ相當處分ノ上尙該犯ヨリ生スル所ノ損失ヲ辨償セシムヘシ

○丙第三百七十號

明治十二年十一月十日

横濱區役所

荷物陸揚舟積場規則今般左ノ通相定候條此旨相達候事

物揚場規則

- 第一條 官有地ニ於テハ一般人民ノ共用スル物揚場ニ限ル故ニ共同ノ名義ヲ以出願スルトモ一己ノ便宜ニ止マルモノト視認スルトキハ許可セサルヘシ
- 但第三條第四條ニ掲ルモノハ此限ニアラス
- 第二條 人民私有地ヲ所用スルハ自由ナリト雖トモ物揚場ヲ設ケントスルトキハ此規則ニ隨ヒ出願許可ヲ得ヘシ
- 第三條 官民ヲ問ハス土功等不得巳ノ場合ニツイテ臨時物揚場ヲ必要ナリトスルトキハ期限ヲ定メ專用シ又ハ専用セシムルコトアルヘシ
- 第四條 會社市場或ハ一己ノ營業ト雖トモ其事業盛大ニシテ公衆ノ便益アルモノト視認スルトキハ專用物揚場ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第五條 物揚場ヲ使用スルニ際シ石垣堤塘等ヲ毀損スルトキハ官ノ指揮ニ隨ヒ自費ヲ以テ修繕スヘシ且第三條第四條物揚場ニ係ル費用ハ總テ願人ノ自辨タルヘシ
- 第六條 物揚場ニ於テ荷物揚卸ヲナスハ日出ヨリ日没マテトス且其物品ヲ宿留スルコトヲ得ス但不得止夜間ニ至ルマテ揚卸ヲナストキハ必ス標燈ヲ掲出スヘシ



- 第七條 人民ニテ必要ナリトスルトモ道路橋梁水利舟行等ノ防碍トナルヘキ場所ト視認スルトキハ官民地ヲ論セス許可セサルコトアルヘシ
- 第八條 汚穢物舟積場ハ別段ノ規則ヲ以テ定メタル箇所ノ外開設スル事ヲ許サス
- 第九條 物揚場兩端ヘハ必ス左ノ離形ノ如キ標杭ヲ設立スヘシ
高サ九尺

第十條 物揚場願書ハ左ノ離形ニ照依シ圖面相添差出スヘシ
(離形)

何々物揚場願

何町何丁目

一官有地

何間

右ハ何々(其要用ノ事由ヲ詳記ス)ニ付專用何日ヨリ何日間臨時物揚場トシテ使用御許可被下度別紙圖面相添此段奉願候也

横濱區何町何丁目何番地

族籍

年 月 日

何 某 印

神奈川縣令 某殿

戸長

何 某印

○甲第八十六號

明治十三年五月十日

橋梁ヲ架シ又ハ渡津ヲ開クノ業ヲ爲サントスル者出願心得方ニ付明治十二年十二月甲第貳百貳拾壹號ヲ以布達及ヒ置候處今般出願書式左ノ通り相定候條自今右ニ準據可致此旨布達候事

渡津橋梁開設出願書式

(本、假、橋架渡)又ハ(渡船)(徒步越)開設願

何國何郡區何町村何々河川又ハ湖海

橋巾及橋長

一川巾 何百何十間(海路ノ渡船ニアツテハ其凡ソノ里數ヲ海里ニ據テ記ス可シ)

航路

右ハ何國何郡區何町村ヨリ何國何郡區何町村ヲ經テ何々地ニ達スヘキ何々街道又ハ何々道ニ達スヘキ地ナラバ其重ナル道筋ニ係ル(河)(川)(湖)(海)ニ候處何々其架橋又ハ渡津ノ開設ヲ要スニ付(架橋)(渡船)(徒步越)ノ業(私共町村協力)(私費)ヲ以開設ノ上右ノ費償却ノ爲メ別紙ノ通り(橋錢)(渡錢)請求仕度尤モ從來架越等ノ慣行有レハ候間御許可被成下度別紙(架橋ナラハ仕樣及方法書渡津ナラハ船ノ大小渡津ノ方法等)都テ十二相添此段明瞭ニ記スヘシ

奉願候也

何國何郡區何町村

何拾何番地

何 之 誰 印

又ハ

惚代人

何 之 誰 印

何 之 誰 印

何 之 誰 印

戸長

何 之 誰 印

年 月 日

神奈川縣令 某殿

一本文壹町村若シクハ數町村組合同願スル者ハ壹町村ニ三名以上ノ者連署スヘシ又渡津所在地元町村外ノ者若シクハ一個人ヨリ出願セントスル者ハ必ラス本項ニ準シ其地元町村惚代人ノ連署ヲ要ス可シ

一同河川又ハ湖海ニテ近傍ノ土地ニ賃錢ヲ要スル架橋又ハ渡津アルモノハ其許可ヲ得タル者若シクハ町村惚代人ノ連署ヲ要スヘキ事

一戸長ハ架橋若シクハ渡津ヲ要スル地元及出願ノ町村又ハ出願人ノ居住地共皆テ連署スヘキ事

○甲第百五十八號

明治十三年九月十三日

明治十二年七月甲第百三十五號布達道路橋梁修築及掃除條例相廢シ更ニ左ノ通修路條例相定候條此旨布達候事

修路條例

第一條 道路橋梁修築掃除等ノ事務ハ總テ成規ニ從ヒ該町村戸長ノ擔任スルモノトス

第二條 國縣道ト假稱スル線路及橫濱區内ニ屬スル道路橋梁ノ修築ハ目論見帳相添出願ハ上許可ヲ經ヘシ若シ臨時危險ヲ生シ時日ヲ移ス可ラサル箇所ハ差向キ假繕等ノ處分ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ施行ノ後其旨速ニ届出ヘシ

但道路ニ附帶セル下水路モ亦本條ニ依ル

第三條 里道ト假稱スル各道路橋梁等(橫濱區内ノ分ハ之ヲ除ク)ノ修築ハ該町村限リ戸長ノ認可ヲ經テ直チニ施行スルコトヲ得尤利害ノ他ニ影響スルモノハ豫メ其町村ニモ協議ス可シ

第四條 新道ヲ開キ又ハ路線ヲ變更シ及ヒ橋梁ヲ新設シ又ハ其舊形ヲ改メ架セントスル者其他事ノ新規ニ係ル類ハ道路ノ種別ニ拘ハラズ目論見帳及ヒ精細ナル書圖面相添ヘ出願スルモノトス尤地種ノ變換ヲ要スル事業ハ其地積ノ取調書ヲモ共ニ差出スヘシ

但新規起功ニ係ルモノハ明治九年第百三十號又ハ同十二年第二十二號公布ノ旨趣履行濟ノ廉願面

ニ詳明ナラシム可シ

第五條 道路橋梁修繕ノ爲メ車馬其他ノ往來止ヲ要スルトキハ出願ノ上指揮ヲ請フヘシ尤非常天災等ニ由リ俄然危險ヲ生セシ場所ハ假ニ臨機ノ處分ヲ爲スヲ得可シ

第六條 工事施行ノ節ハ該地所管ノ警察署若シクハ警察分署ヘ其創竣ヲ届出可シ

第七條 凡ソ許可ヲ得テ施行スル工事後ハ竣功ノ后日數十日以内ニ於テ其旨届出可シ

但第四條ニ從ヒ許可ヲ得テ施行シタルモノハ其出來形精算帳等ヲ副ユ可シ

第八條 目論見帳並出來形精算帳ハ戸長及ヒ其町村總代ニ任スル者ノ連署捺印ヲ要スルモノトス

第九條 工費ノ官費或ハ地方稅支辨ニ關スル箇所ノ事業ハ縣廳ニ於テ之ヲ擔理ス可シト雖トモ其修築ヲ要スルトキハ事由ヲ具シ出願スルモノトス若シ危險ニ涉ルモノハ第二條又ハ第五條ノ末項ニ依ルヘシ

第十條 用惡水路及ヒ小渠ノ架橋等狹陋ニシテ諸車ノ通行差支ル場所ハ該道幅ニ從ヒ改造又ハ増補スル者トス

但此場合ニ於テハ其改造ニ係ルモ必シモ第四條ノ手續キニ據ルヲ要セス

第十一條 用惡水路及ヒ下水路等ノ道路ヲ橫截リタル箇所ハ總テ相當ノ樋管若シクハ橋梁ヲ築設スルモノトス

第十二條 河川暴漲及大風雨ノ節ハ晝夜ノ別ナク町村内ヲ巡視シ豫メ道路橋梁等ノ損害ヲ防禦ス可シ

第十三條 道路橋梁ノ掃除ハ渾テ其土地人民ノ負擔スル者トス故ニ各町村常ニ之ヲ怠ルヘカラス且道

路又ハ橋梁ニ小破ヲ生シ或ハ路傍下水路ノ梗塞シタル等アラハ併セテ其補繕若シクハ鑿浚ヲ爲スヘシ尤浚上タル泥土等ハ横濱區ハ明治十二年丙第四百三號達塵芥掃除及糞尿汲除規則第六條ニ據リ各郡ハ同第四百四號達同規則同條ニ準シ處分スヘシ

但本條補繕等ノ如キハ國縣道ト假稱スル線路及ヒ横濱區内ニ係ルモノト雖直チニ施行スルヲ得ヘシ

第十四條 道程標及ヒ分道榜牌等ノ確明ナラサルモノハ速ニ之ヲ改設シ又藪苔等ノ生セシモノハ逐次除去シテ以テ文字ヲ瞭然ナラシム可シ

第十五條 道路橋梁ノ工事ニシテ既ニ竣功セシ者ハ明治十年本縣乙第百二十六號達ニ依リ每三ヶ月ツツ遺漏ナク調成シ翌月十日限り其郡區役所ヘ送呈スルモノトス

○甲第百廿三號 明治十四年七月廿六日

水車規則別紙之通相定該規則ニ抵觸スル從前ノ布達等ハ總テ相廢候條此旨布達候事

但從前允許ヲ得タルモノハ其場所ノ地種地目字番號車數車輪ノ尺度日數水路以樋ノ尺度等ヲ詳記シ繪圖面ヲ添來ル八月十五日限り所管郡區役所ヲ經由シ届出ヘシ

(別紙)

水車規則

第一條 水車方背バツタリト稱シ其回轉スルモノトモ設置セントスル者ハ自用渡世ノ別ナク總テ此規則ヲ遵守スヘシ

十五年甲第百四十三號ヲ以テ第九條ヲ追加シ以下條第十七年甲第一號ヲ以テ第七條第八條并舊式中改正

第二條 水車ヲ設置セントスル者ハ第九條第一號書式ニ照シ其場所ノ地種地目字番號及車數車輪ノ尺度日數水路以樋口ノ尺度等ヲ詳記シ其比隣地主並家作主及水路ニ關係自他町村及水上水ノ地種地目字番號車數車輪ノ尺度日數水路以樋口ノ尺度等ヲ詳記シ其比隣地主並家作主及水路ニ關係組合町村總代人戸長等ノ連署又ハ與書ヲ請ケ第九條第二號凡例ニ據リ調製シタル繪圖面ヲ添ヘ所管郡區役所ヲ經由シ本廳ヘ出願スヘシ

第三條 水路ニ關係アル地主數十名ニシテ各自連署スルニ不便ナル場合ニ於テハ協議ノ上貳名以上ノ總代ヲ以テ連署又ハ與書スルヲ得ヘシ

但比隣地主家作主ハ各自連署スヘシ

第四條 水路關係ノ地主他管下町村ニ係ルトキハ本人ヨリ其地主戸長等ニ謀リ故障ナキニ於テハ其旨書面ヲ取り願書ニ添ヘ差出スヘシ

第五條 水車設置ノ爲メ堤塘土揚敷道敷等ヲ掘割水路ヲ設クルモノハ其地ノ官民有テ問ハス理樋トナシ堤防土揚通路等ノ支障不相成様致スヘシ

第六條 水路關係アル地主等ニ於テ故障ナキモ堤防治水ノ妨害トナリ其他公益ヲ損害スルモノト視認ムルトキハ許可セサルモノトス其既ニ許可シタルモノト雖モ右ノ如キ場合ニ至ルトキハ一時水車ノ使用ヲ差止メ又ハ禁止セシムルコトアルヘシ

第七條 允許ヲ得タル後テ場所ノ位置一邸及水路ヲ變換シ水路以樋口並車輪ノ尺度ヲ伸縮シ又ハ日數ヲ増減シ或ハ賣買讓渡代換改姓名等ニ係ルモノハ第九條第三號以下ノ書式ニ照シ所管郡區役所ヲ經由シ本廳ヘ願又ハ届出ヘシ

第八條 允許ヲ得タル後チ若シ其水車場ヲ他所ヘ移轉シ又ハ水火風災等ノ爲メ再設セントスルトキハ更ニ此規則ニ照シ願出ヘシ

第九條 此規則ニ背ク者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第十條 願書書式及繪圖調製凡例左ノ如シ

第一號

水車設置(或ハ再設置)願書式

字何

何番官民地第何種

田畑反別何程ノ内

一 水車場壹ヶ所

此水車何輛差渡何尺

此橋曰 何柄

外方力確何臺

但水路樋口堅何尺 平常水深何尺

(殊更ニハ樋ヲ伏セサルモノハ水路縱横ノ尺度ヲ記スヘシ)

右者何川何用水ヲ引用井書而ノ通り水車設置或ハ水火風災ニ罹リ毀失又ハ何何ニ付再設仕度尤モ村内ハ勿論水上水下村々於テ故障筋無御座候間御許可相成度此段奉願候也

何國何郡區何町村

願人 何 之 誰

年 月 日

右 何 之 誰 印

隣地々主 何 之 誰 印

同 何 之 誰 印

同家主 何 之 誰 印

同 何 之 誰 印

水路關係地主 何 之 誰 印

(或ハ) 何 之 誰 印

何ノ誰 何 之 誰 印

右代兼 何 之 誰 印

戸長 何 之 誰 印

地主總代 何 之 誰 印

(或ハ) 用水總代 何 之 誰 印

水下何村

神奈川縣令某殿

前書水車設置願ニ付私共村内ニ於テ總テ故障筋無御座候依之與書調印仕候也

水上何村

水下何村

土 水

第二號

繪圖調製凡例

- 一 地租改正地圖ヲ拔抄ス
- 一 水車ヲ設置スヘキ場所及其地種、地目、持主、氏名其比隣ノ地目及持主、氏名其他用水引入口、以種其本流へ廻留ヲナス場所河川用水ノ名稱方位等ヲ明ラカニスヘシ
- 一 水車ヲ設置スヘキ場所及地目河川用水等ハ色分クヲナスヘシ
- 一 川敷堀敷等へ直ニ水車輪ヲ仕掛ケ或ハ堤塘土揚敷道敷堀敷等ヲ堀割水路ヲ設ケントスルモノハ其地種ノ別地目川敷道敷ヲ記入スヘシ

第三號

水車構造變換願

字何
何番官有地第何種
宅地反別何程ノ内
一 水車場壹ヶ所

何國何郡區何町村
願人何之誰

此水車何輛

差渡何尺
内何尺增加

此橋白

何柄
内何柄增加

外萬力確

何登
内何登增加

但水路樋口

堅何尺
内何尺增加
横何尺
内何尺增加
平常水深何尺内何尺增加

附言水路ノ地位ヲ變換スルトキハ別ニ圖面ヲ添へ蓄水路ト新設水路ノ別ヲ明ニスヘシ

右ハ何川何用水ヲ引用井書面ノ場所ニ於テ水車營業罷在候處今般曰數増加(或ハ)水路樋口縱横ノ尺度ヲ増加シ(或ハ)別紙圖面ノ通水路ヲ變換仕度尤右ニ付總テ故障筋無御座候間御許可相成度此段連署ヲ以奉願候也

年 月 日

右	何	之	誰	印
隣地々主	何	之	誰	印
同	何	之	誰	印
同家主	何	之	誰	印
同	何	之	誰	印
水路關係地主	何	之	誰	印
(或ハ)右代兼	何	之	誰	印

前書ノ趣承知仕右ニ付故障筋無御座候依之與書調印仕候也

神奈川縣令某殿

戸長 何之誰印

水上何村

戸長 何之誰印

地主惣代 何之誰印

(或ハ) 用水惣代 何之誰印

水下何村

戸長 何之誰印

地主惣代 何之誰印

(或ハ) 用水惣代 何之誰印

第四號

水車白^{數減少御届}
水路尺^{度減少御届}

字何

何番^官有地第何種

宅地反別何程ノ内

一水車場壹ヶ所

何國何郡區何町村

持主何之誰

此水車何輛

此擣臼

外萬力碓

但水路樋口
外何尺減
外何尺減
外何尺減

平常水深何尺外何尺減

右ハ今般都合ニ據リ書面日數(或ハ)水路樋口之尺度等減少仕候間此段御届申上候也

年 月 日

右 何之誰印

戸長 何之誰印

第五號

神奈川縣令某殿

水車^{賣買御届}

字何

何番^官有地第何種

宅地反別何程ノ内

一水車場壹ヶ所

此水車何輛差渡何尺

何國何郡區何町村

讓渡人 何之誰

買受人 何之誰

此橋白何柄

外萬力確何臺

但水路樋口堅何尺 平常水深何尺

右水車何ノ誰所有營業罷在候處今般代換(或ハ)何ノ誰渡同人所有營業仕候間此段御届申上候也

年 月 日

右 何ノ誰印
戸長 何ノ誰印

神奈川縣令某殿

第六號

改名御届書

何國何郡區何町村何番地

何ノ誰事

何ノ誰

本村何番地ニ於テ水車營業罷在候處今般改名仕候間此段御届申上候也

年 月 日

右 何ノ誰印
戸長 何ノ誰印

神奈川縣令某殿

第三十四年縣令
第三十號ヲ以
テ本則中渡船
ニ關スル條項
廢止

○甲第二百四十二號 明治十四年十二月十四日

橋船渡場取締規則別冊ノ通改定來ル明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十二年十二甲第二百二十號全十三年四甲第六十九號布達ハ同日限リ廢止トス

(別冊)

船渡場取締規則

第一條 橋梁ヲ架シ又ハ船渡徒步越等ノ業ヲ開キ其賃錢ヲ領收スル渡場ハ必ラス此ノ規則ヲ遵守スヘシ

第二條 渡場ニハ此ノ規則並ニ賃錢表ヲ行旅ノ見易キ場所ヘ揭示スヘシ其渡場懸隔ノ場所ニ於テ賃錢ヲ領收スルモノハ其領收所ヘモ亦之ヲ揭示スヘシ

但賃錢表揭示牌ニハ必ラス縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 賃錢表揭示牌水火盜難誤毀等ニ係ル節ハ更ニ之ヲ調製シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ速ニ書換ヘ檢印ヲ出願スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ記シ假ニ賃錢表ヲ揭示シ置クヘシ

第四條 持場巡回ノ警部巡查及ヒ軍隊隊伍ヲ組ミ行進ノ節ヲ除クノ外何人ニ依ラス賃錢揭示牌ニ記載シアル賃錢ヲ其通行ノ都度收入シ得ルト雖モ酒手等無謂種々ノ名義ヲ作為シ賃錢外ノ金錢ヲ請求スルヲ得ス

第五條 總テ賃錢受取方ハ可成速ニシ夫レカタメ時間ヲ費サシムヘカラス

第六條 濁水等ノ節故ラニ人馬ノ歩涉ヲ拒ミ強テ橋船等ニ據ラシムル如キ所爲アル可ラス

第七條 定額ノ賃錢ヲ受取リタル上ハ假令一人タリトモ速ニ越渡ヲ爲ス可シ多人數ニイタル迄行旅ヲ留メ置クヘカラス

第八條 渡津ノ水際ニハ尺度ヲ盛リタル水量杭ヲ建設シ豫テ平水ヨリ川止ニ至ル迄ノ水量ヲ明瞭ニ記載シ置キ自他ノ標識ニ便ナラシムヘシ

第九條 出水又ハ暴風雨ノ節ハ其度ヲ量リ通行ヲ止メ旅客ヲシテ危險ニ陥ラシム可カラス

第十條 此規則ニ違背スルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

○丙第七十一號 明治十九年三月三日

三浦郡役所

全 浦賀宮下町外廿一ヶ町村

全 公郷村外五ヶ村

全 船越新田外三ヶ村

全 横須賀元町外六ヶ町村

戸長 役場

自今其町村内ニ於テ家屋ヲ新築シ及改築セントスルモノハ所轄郡役所へ届出認可ヲ受クヘキ旨部内人

民へ相達スヘシ

○丙第八十一號 明治十九年三月十二日

横濱區役所

横濱區本町外十三ヶ町

全 浪花町外三十四ヶ町

全 宮川町外二十六ヶ町

全 元町外六ヶ町

久良岐郡戸部町外二ヶ新田

全 太田村外一ヶ新田

全 中村

全 根岸村

全 北方村

全 本收本郷村

戸長 役場

今般横濱區内及郡部ニ接スル道路境界標並三角測點建設候條爾來沿道宅地地上ク家屋改築其他總テ該標石ニ觸ルルモノハ土木課へ届出検査ヲ受クヘキ旨部内人民へ達スヘシ

○丙第八十七號

明治十九年三月十八日

三浦郡役所

浦賀宮下町外廿一ヶ町村

公郷村外四ヶ村

船越新田外三ヶ村

横須賀元町外十六ヶ町村

戸長役場

本年丙第七十一號達家屋新築及ヒ改築セントスルモノ認可ヲ受クベキ區域ハ左ノ通ト心得ベシ

一浦賀宮下町戸長役場部内ハ同町外十七ヶ町及ヒ大津村ノ内三浦往還筋

一公郷村戸長役場部内ハ三浦往還及ヒ深田村中里村佐野村地内人家接續ノ地

一船越新田戸長役場部内ハ三浦往還筋及ヒ浦郷村田浦村地内人家接續ノ地

一横須賀元町戸長役場部内ハ元町外十五ヶ町及ヒ逸見村ノ内三浦往還筋其他人家接續ノ地

○甲第四十六號

明治十九年四月五日

人民私設ニ係ル道路橋梁渡津等制服ヲ着用シタル警察官巡查及囚人護送ノ看守長看守押丁並其囚人ハ賞錢請求相成ラス

右布達ス

○甲第六十一號

明治十九年六月廿三日

横濱區内地場規則左之通相定メ來ル七月十日ヨリ施行ス

右布達ス

横濱區地場規則

第一條 横濱區内ニ於テハ其他盤滿潮面ヨリ四尺以上アルニ非サレハ新ニ人ノ居住スヘキ家屋學校及ヒ
集會所製

第二條 從來家屋ノ建設アル土地ニシテ滿潮面四尺未滿ノ場所ニ於テハ改築ノ際必右制限以上ニ地場ヲ爲スヘシ

但現在家屋ノ坪數二分一以下ノ建繼ハ此限ニ在ラス

第三條 此規則實施後人ノ居住セサル目的ヲ以建設シタル家屋ヲ人ノ居住スヘキ家屋ニ轉用セントスルトキ其地盤滿潮面四尺未滿ナルトキハ此制限ノ地場ヲ爲スヘシ

第四條 地盤ノ高低ヲ測定スルノ基點ハ縣廳ニ於テ建設シタル高低標ニ據ルヘシ

第五條 地場ヲ爲シタルトキハ家屋築造前縣廳ヘ届出検査ヲ受クヘシ

第六條 此制限ニ背キ築造シ又ハ轉用シタル家屋ハ人ノ居住ニ供用スルヲ禁ス

附則

第三十二年縣令
第七十三號ヲ
加以第七條追

第七條 本規則ハ山下町ニ限リ之ヲ施行セス

○縣令第一號 明治十九年七月廿七日

本年甲第六十二號布達ハ本年八月十五日ヨリ左ノ町村ヘモ施行ス

但第五條ノ場合ニ於テハ郡役所ヘ届出検査ヲ受クヘシ

三浦郡

横須賀市街

逸見村

船越新田

浦郷村ノ内
字梅田

田浦村ノ内
字船越

○縣令第二十三號 明治二十一年七月二十日

明治十九年甲第六十二號布達ハ亦ル九月一日ヨリ左ノ町村ヘモ施行ス

久良岐郡

戸部町ノ内

字石崎

太田村ノ内

字西中耕地及ヒ字前里

吉田新田ノ内

大岡川ヲ境界ニ横濱區ヘ接續ノ地
中村川ノ内

堀割東北一圓

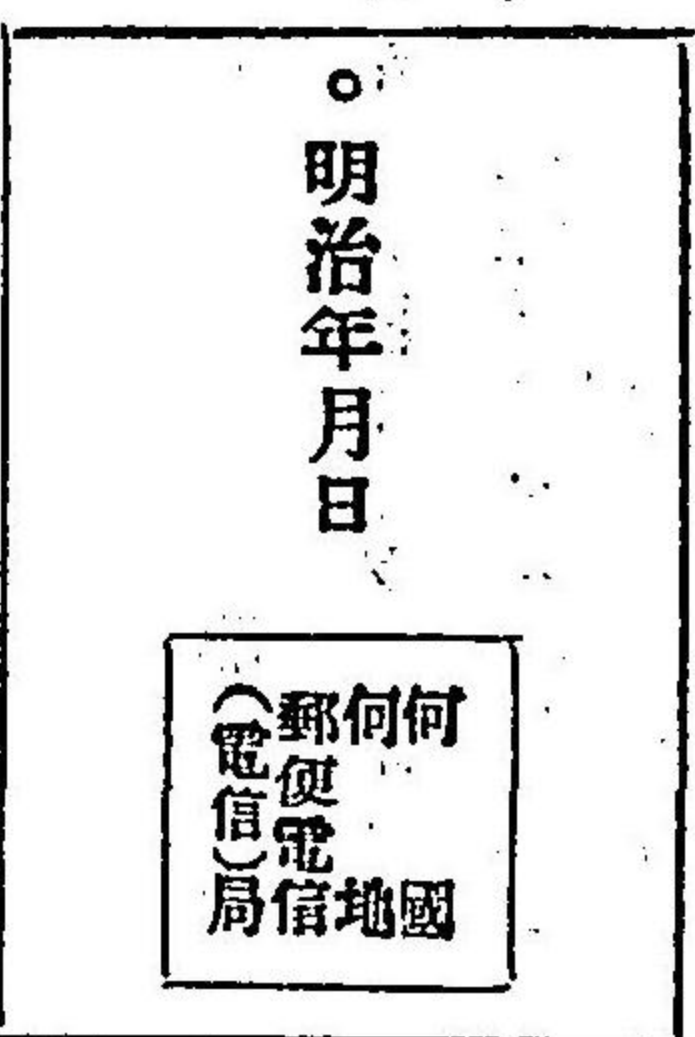
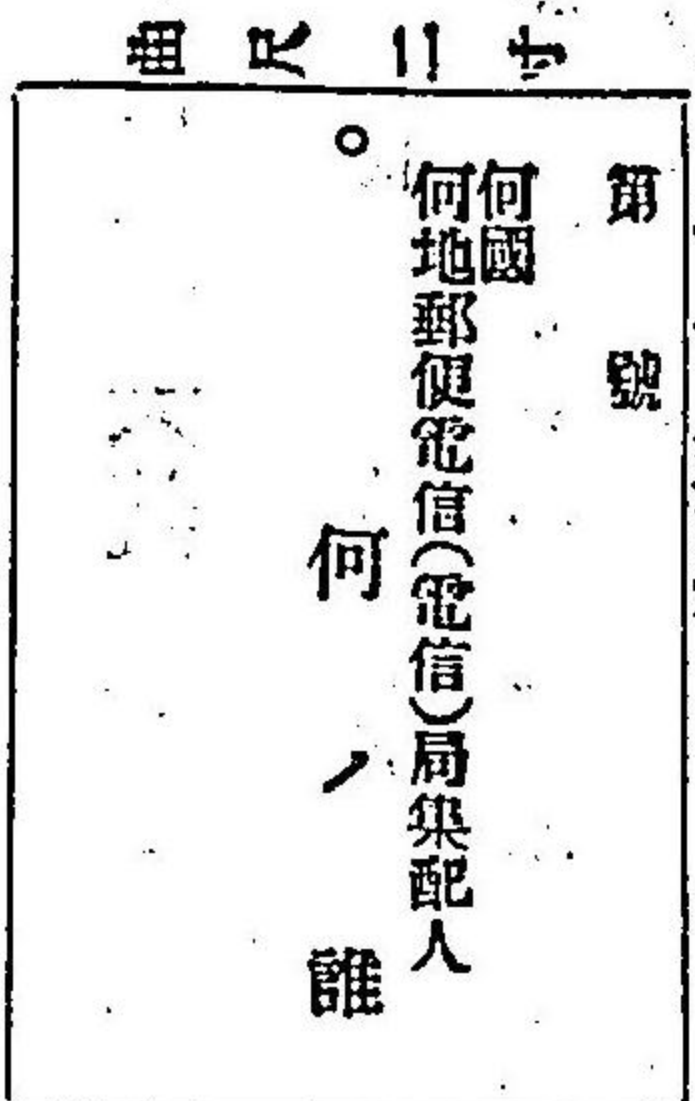
○訓令甲天第二十七號 明治二十一年十二月二十八日

郡役所

人民私設ノ橋梁渡津及ヒ道路等ニ於テハ左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ニ對シ賃錢請求不相成ニ付此旨免許人ヘ示達スヘシ

印鑑離形

二寸五分



○訓令甲第五十七號 明治二十四年六月十五日

郡役所

賃錢又ハ使用料ヲ要求スル道路橋梁渡津ニ於テハ左ノ印鑑携帶ノ者ニ對シ請求不相成ニ付此旨關係者ヘ示達スヘシ

第 號
何國
何地電信取扱所配達人
何ノ
誰
曲 尺 二 寸

明治年月日
何國
何地
電信取扱所

○訓第百二十六號 明治二十六年十一月十六日

道路ニ沿ヒ栽ル所ノ民有樹木ハ町村ニ於テ相當手入ヲナスヘキノ處往々之ヲ等閑ニ付スル爲メ枝葉繁茂シテ路上ニ垂レ日光ヲ遮リ或ハ車馬ノ通行ヲ支ヘ又ハ泥濘ノ乾燥ヲ妨クル等障礙少ナガラサル向有之候條自今運搬通行ノ便否ニ一層ノ注意ヲ加ヘ現ニ障礙アルモノハ所轄警察署ト協議ヲ遂ク速ニ剪伐セシムヘシ

右訓令ス

郡 役 所

○神奈川縣訓令第二十七號 明治二十七年三月三十日

郡部地方稅補助ニ係ル土木事業執行手續左ノ通之ヲ定ム

郡 役 所

郡部地方稅補助ニ係ル土木事業執行手續

- 第一條 道路橋梁治水堤防工事ニシテ地方稅ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ概算書及設計書ニ其起工理由書ヲ添ヘ前年六月三十日限リ縣廳ヘ具申スヘシ
- 臨時急破ノ修繕ニ對シテハ其時々前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二條 前條第一項ノ具申ニ對シ縣廳ニ於テ補助ヲ與フヘキ工事ノ箇所ヲ指定シタルトキハ治水堤防工事ニ就テハ三月五日限リ道路橋梁工事ニ就テハ四月五日限リ水利土功會又ハ町村會ノ議決シタル豫算額ニ内譯書及設計書ヲ添ヘ補助費下附ノ具申ヲ爲スヘシ
- 前條第二項ノ具申ニ對シ縣廳ニ於テ工事ノ箇所ヲ指定シタルトキハ該豫算書ハ十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲ス可キ
- 豫算中緊急ナラスト認ムル工事又ハ價格不相當ト認ムルモノハ縣廳ニ於テ取捨減額シテ補助金額ヲ定ムルコトアルヘシ
- 第三條 地種目ノ變更ヲ要スル工事ハ其變更願(分設スヘキモノハ斜註圖面ニ)ヲ前條豫算書ト共ニ差出スヘシ
- 第四條 補助金下附ノ指令ヲ得タルトキハ指令到達ノ翌日ヨリ起算シ治水堤防工事ハ十五日以内道路橋梁工事ハ二ヶ月以内(年度開始前指令ヲ得タルモノハ治水堤防工事ニ)ニ工事請負者ヲ定メ其契約書工費内譯書及入札書類ノ寫ヲ添ヘ(書類ノ寫ニハ源テ管)該契約締結後五日以内ニ縣廳ニ差出スヘシ但シ本文日限内ニ請負契約ヲ爲シ能ハサルモノハ其事由ヲ詳記シ豫メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 請負金額ノ工費豫算ニ對シ減少シタルトキハ其割合ニ應シ補助金額ヲ減少スルモノトス

第六條 工事ノ請負ヲ定ムルハ左ノ方法ニ依ル
一 一廉見積リ金額五百圓以上ノモノハ新聞紙及本縣公報並揭示ヲ以テ廣告シ入札ニ附スヘキモノトス

二 一廉見積金額五百圓未滿貳百五十圓以上ノモノハ本縣公報及揭示ヲ以テ廣告シ仍當業者ニ通知シ入札ニ附スヘキモノトス

三 一廉見積金額貳百五十圓未滿ノモノハ便宜ノ方法ニ依ルモノトス
四 入札ニ附スヘキ事業ニシテ其手續ヲ履行シ難キモノハ事由ヲ具シ豫メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 前條ニ於テ一廉ト稱スルハ同一費目ニシテ一大字又ハ數大字ニ連亘スル工事ヲ云フ
第八條 管理者ハ道路橋樑及治水堤防工事ニ就テ高低幅員ノ伸縮又ハ位置物質ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ治水堤防工事ニシテ急施ヲ要スルモノハ出張技術官ノ同意ヲ得テ直チニ施工スルコトヲ得

地種目ヲ變更セサル道路橋樑工事又ハ治水堤防工事ノ前後取付クニ伸縮ヲ要スル場合ニ限り其仕様ヲ變更セムトスルモノハ前項ノ限ニ在ラス

第九條 工事完了前ニ於テ左ノ制限ニ依リ既成部分ニ對スル五分ノ四以内ノ工費ニ限り補助費ノ内渡ヲ請求スルコトヲ得但シ町村費ノ支出ヲ了シタル上ニアラサレハ請求スルコトヲ得ス

- 一 一廉百圓以上五百圓未滿ハ 一回
- 二 一廉五百圓以上千圓未滿ハ 二回
- 三 一廉千圓以上五千圓未滿ハ 三回
- 四 一廉五千圓以上 四回

第十條 地方稅補助費ノ請求書ハ各費目毎ニ各々一通ヲ調製シ一廉毎ニ豫算金額ヲ朱ニテ傍記シタル決算帳ヲ添附シテ差出スヘシ但シ内渡金請求ノ場合ニハ出來形歩合取調書ヲ添付スヘシ

第十一條 町村長管理ニ屬スル補助費ノ請求書ニハ收入役何ノ某渡ト記入スヘシ但シ町村長ニ於テ收入役ノ事務ヲ兼掌セルモノハ請求書中ニ其旨ヲ附記スヘシ

第十二條 地方稅補助費ハ知事ノ許可ヲ受ケタル豫算金額ヨリ超過スルコトヲ得ス

第十三條 工事ハ會計年度内ニ竣功スヘキモノトス但シ繼續事業ニ係ルモノハ毎年度ニ於テ打切精算ヲ立ツヘシ

第十四條 毎年度地方稅ノ補助費下渡ヲ請求スルハ翌年度四月十日限リトス

第十五條 郡長ハ時々工事ノ實況ヲ視察シ又竣功ノ上ハ其出來形ヲ検査スヘシ

第十六條 工事ト目論見書ト差違アリ又ハ工事不完全ノ廉アリト認ムルトキハ郡長ハ仕立替若クハ手直シ等ヲ命スヘシ

第十七條 此ノ手續ニ依リ町村長ヨリ差出ス書類ハ總テ郡役所ヲ經由セシメ郡長審査シテ意見ヲ具申スヘシ

第十八條 此ノ手續ヲ履行セサル時ハ地方稅補助ノ指令ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減殺スルコトアルヘシ

附 則

第十九條 本手續ハ明治二十七年五月ヨリ施行ス

明治二十四年五月訓令甲第五十一號及同年九月訓令甲第七十七號ヲ廢止ス

○訓第九十號 明治三十年五月六日

郡 役 所

地方稅支辨ニ屬スル仮定縣道並ニ之レニアクベキ里道ノ道路橋梁ニ破損ヲ生シ通行危險ナル場合若クハ漸次大破ヲ生スベキ狀況ノ場所アルトキハ直チニ其旨ヲ當廳ニ報告スルト同時ニ其工費額五圓以下ノモノハ修理ヲ加ヘ工費精算書並ニ工費請求書ヲ進達スベシ但シ工費見積金額五圓以上ニ涉ルモノニシテ五圓以下ノ工費ヲ以テ有効ナル仮繕ヲ爲シ得ヘキモノハ先以テ仮繕ヲ加ヘ置キ破壊ノ狀況ヲ報告スヘシ

右訓令ス

○訓第二百五十五號 明治三十年十月三十一日

郡 役 所 市 役 所

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル市町村ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル市町村ノ收入ニ屬スヘシ
右訓令ス

○訓第四十八號 明治三十一年三月十五日

郡 役 所 市 役 所

道路修理保存ノ主擔地方稅ト否トニ拘ラス左ノ各項ハ市町村ニ於テ相當ノ方法ヲ設ケ怠慢ナク執行セシムヘシ
右訓令ス
一 道路ノ下水路浚渫
一 道路橋梁ノ掃除
一 強風雨出水等ニ際シ道路橋梁ノ防禦

○神奈川縣告示第二百四號 明治三十一年十二月十三日

土木工事請負規程左ノ通之ヲ定ム

土木工事請負規程

第一條 工事請負ノ競争入札ニ加ハラトスル者ハ現ニ當該ノ職業ニ從事シ官署又ハ公署ノ證明書ヲ

土 木

三十二年告示
第百九號ヲ以
テ第百二十三條
中改正
三十二年告示
第百八十三號
ヲ以テ第十條
第百二十五條中
改正

有スルモノニ限ル但シ特ニ二箇年以來引續キ其ノ職業ニ從事スル證明書ヲ要スルトキ其ノ他請負者タルニ必要ナル資格ハ其ノ都度其ノ旨ヲ公示スルコトアルヘシ

第二條 工事請負ノ競争入札ニ加ハラムトスル者ハ工事設計書仕譯書及契約書案ニ掲クル事項並ニ實地ヲ熟覽スヘシ

設計其ノ他ニ疑義アルトキハ係員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第三條 入札書ハ縣廳ノ定ムル書式ニ依リ調製シ入札人ノ職業住所氏名ヲ詳記シ捺印ノ上本規程第一條ノ證明書ヲ添附シ之ヲ封緘シテ公示ノ入札場ニ差出スヘシ但シ會社等ニシテ官ノ許可ヲ受ケ營業スルモノハ其ノ許可書ヲ寫テ以テ證明書ニ代用スルコトヲ得

代理人ヲ以テ入札スルトキハ前項書類ノ外本人ノ委任狀ヲ添附スヘシ

第四條 入札保證金ハ入札ノ際之ヲ係員ニ差出スヘシ

入札保證金ハ落札人ニ係ル分ヲ領置シ其他ハ即時之ヲ還付スルモノトス
開札場二箇所以上ヲ設ケタルトキ入札保證金ハ各最低價ノ入札人ヨリ領置シ落札人決定ノ後其ノ落札人ニ係ル分ノ外ハ之ヲ還付スルモノトス

落札人ヨリ領置シタル入札保證金ハ契約締結後ニ非サレハ還付セサルモノトス

第五條 開札ハ公示シタル場所日時ニ於テ係員之ヲ執行ス但シ開札相當ノ入札ヲ得難シト認ムルトキハ之カ開札ヲ中止シ其ノ入札ヲ延期シ又ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ
前項但書ニ依リ延期又ハ廢止ノ場合ニ於テ入札人ニ損害アルモ縣廳ハ辨償ノ責ニ任セ

第六條 左ノ事項ニ該當スル場合ハ其入札ヲ無効トス

一 開札前ニ入札保證金ヲ差出ササルトキ

二 入札金額其ノ他要領ノ認知シ難キモノ

三 入札書式ニ背キ直ニ補修シ難キモノ

四 入札ニ添附スヘキ書類ノ脱落シ即時補足シ難キモノ

第七條 入札後入札書ノ金額若ハ要件ノ更正ヲ申出ルモ之ヲ採用セス

第八條 入札ハ豫定價格以下ニ於テ最低價ノモノヲ落札トス最低價ニシテ同價ノモノ二人以上アルトキハ其ノ金額以下ニ於テ再入札ヲ爲サシム其ノ入札尙同價ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

二箇所以上ニ於テ入札執行ノトキハ先ツ每場其ノ最低價ノ入札價格ヲ示シ之ヲ縣廳ニ蒐集較査シ落札人ヲ定メ之ヲ各自ニ通知スヘシ

各入札場ノ入札中豫定價格以下ノ最低價格ニ同價ノモノ二箇以上アルトキハ日時ヲ定メテ其ノ入札人ヲ縣廳ニ召集シ更ニ入札セシメ本條第一項再入札ノ順序ニ依リ落札人ヲ定ムヘシ

入札ニシテ一モ豫定價格以下ノモノヲキトキハ即日各入札場ニ於テ再入札ヲ執行スルコトアルヘシ

第九條 落札人ハ落札決定ノ通知ヲ領シタル日ノ翌日ヨリ二日以内ニ契約書二通ヲ作り契約保證金ヲ添ヘ縣廳又ハ指定ノ郡役所ニ差出スヘシ若其ノ期日內ニ之ヲ差出サルトキハ落札ノ決定ヲ取消ス

但シ入札保證金ハ縣廳ノ所得ニ歸セシム

第十條 契約保證金ハ特ニ其ノ金高ヲ指定スルモノノ外請負金額百分ノ十(四位未満ハ)ニ相當スル現金

ヲ以テ納付スヘシ但シ國債證書又ハ日本勸業銀行發行勸業債券若ハ株式會社神奈川縣農工銀行發行農工債券ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

國債證書又ハ勸業債券若ハ農工債券ヲ以テ契約保證金ニ代用スル場合ニ於テハ額面ノ都合ニ依リ規定ノ金額ヲ超過スルコトヲ得

國債證書ノ價格ハ日本銀行擔保價格ニ依ルモノトシ勸業債券農工債券ノ價格ハ各券面金額十分ノ八トス

第十一條 契約保證金ハ縣廳之ヲ領置シ請負人ニ於テ工事竣功ノ證明ヲ得タルトキハ工費ノ請求ト俱ニ保證金ノ下戻ヲ請求スヘシ其ノ竣功後保證期限ヲ附シタルモノハ期限滿了ノ後其ノ下戻ヲ請求スヘシ

縣廳ニ於テ請負人其ノ保證義務ヲ履行シタリト認メタルトキハ保證金ヲ還付スルモノトス

第十二條 工事ハ契約書ニ記載スル期日以内ニ著手シ相當工程ノ度ニ應ジ進行セシムヘシ請負人其ノ著手ヲ怠リ又ハ著手後進行緩慢ニシテ豫定ノ期間ニ竣功シ能ハサルモノト縣廳ニ於テ認ムルトキハ其ノ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第十三條 工事ハ請負人自ラ擔當シ賣買若ハ讓渡ヲ爲スヘカラス

工事中ハ請負人若ハ其ノ代理人ハ常ニ工場ニ出張シ相當ノ取締ヲ爲スヘシ但シ代理人ヲ置クトキハ豫メ其ノ氏名ヲ縣廳ニ届出ヘシ

第十四條 請負人ニシテ工事ニ使用スル材料物件ヲ工場ニ持込ムトキハ工事監督主任ノ檢閲ヲ受クヘシ

シ檢閲ヲ受ケサル材料物件ハ一切使用スルコトヲ得ス

第十五條 工事施行中請負人ニ於テ設計ノ變更補足削除ノ必要アリト思惟スルトキハ其ノ事由ヲ縣廳ニ申出ルコトヲ得但シ之カ採否ハ縣廳ノ決スル所ニ依ルヘシ

第十六條 工事施行中縣廳ニ於テ設計又ハ仕譯書中ニ變更ヲ要スルトキ又ハ其ノ不備ヲ發見スルトキハ何時ニテモ請負人ニ通知シ之ヲ加除變更スルコトヲ得ヘシ

第十七條 第十五條第十六條ニ依リ設計若ハ仕譯書ノ加除變更ヲ爲ストキハ別ニ其ノ部分ニ對スル設計書仕譯書ヲ調製シ本契約ノ附屬トス但シ之ニ關スル代價ハ前仕譯書ノ價格ヲ標準トシテ算出シ請負金額ヨリ増減スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ同工事施行期限ヲ伸縮スルハ縣廳ノ指示スル所ニ依ルヘシ

第十八條 工事ノ一部若ハ全部竣功シタルトキハ請負人ヨリ竣功届書ヲ縣廳ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ検査係員ヲシテ三日以内ニ竣功検査ヲ行ハシム検査係員ニ於テ其ノ成績適合ナリト認ムルトキハ證明書ヲ附與スルモノトス

第十九條 工事ノ竣功検査ニ於テ其ノ成績不適合ト認ムルトキハ請負契約ヲ解除スルカ又ハ特ニ日限ヲ指定シテ之カ改修ヲ爲サシム但シ其ノ費用ハ請負人ノ負擔トス

前項改修工事竣功検査ニ於テ其ノ成績尙不適合ト認ムルトキハ直チニ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第二十條 工事中天災其ノ他抗拒スヘカラサル事故ニ依リ請負人ニ於テ工事施行期間又ハ改修期間内ニ竣功スル能ハスト思惟スルトキハ事故經過後三日以内ニ限り其ノ事故ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ廷

期ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ縣廳ハ其ノ事實ヲ審査シ已テ得サルモノト認ムルトキニ限り工事施行期限又ハ改修期限ヲ延長スルコトアルヘシ

第二十一條 工事施行期間又ハ改修期間ニ工事ヲ竣功セサルトキ縣廳ハ其ノ契約ヲ解除セサル場合ニ限り延滞日數一日ニ付請負金額二百分ノ一ニ相當スル金額ヲ過怠金トシテ請負人ヨリ徴收スルモノトス

前項過怠金額ハ工事ニ依リ増減スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ公示ス

第二十二條 第十二條第十九條ニ依リ請負契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ工事既濟ノ部分及ビ現工場ニ持込ミタル材料物件ハ既ニ交付シタル内渡金ノ外無償ニテ總テ縣廳ノ所得ニ歸セシム

第二十三條 工事中天災其ノ他抗拒スヘカラサル事故又ハ都合ニ依リ縣廳ニ於テ工事ノ停止若ハ廢止ノ必要ヲ生スルトキハ何時ニテモ之ヲ請負人ニ通知シテ停止若ハ廢止スルコトアルヘシ但シ停止九十日以上ニ及フトキハ請負人ハ契約ノ解除ヲ求ムルコトヲ得

前項但書ニ依リ請負人ヨリ解約ノ請求アリタルトキ又ハ工事廢止ノ場合ニ於テハ契約ヲ解除シ縣廳ハ工事既濟部分及現工場ニ持込ミ檢査ヲ經タル材料物件ハ檢査係員調査ノ上相當金額ヲ仕拂フヘシト雖其ノ他ニ如何ナル損失アルモ辨償ノ責ニ任セサルモノトス

工事中縣廳ハ公益事業其他ノ事故ニ依リ一時工事ノ幾部若クハ全部ノ進行ヲ制限スヘキ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ請負人ニ通知シテ之ヲ制限スルコトアルヘシ

前項ノ制限ニ依リ縣廳ハ工事施行期間又ハ改修期間ニ竣功スル能ハスト認ムルトキハ相當ノ延期ヲ與フヘシ

本條第一項工事停止第三項工事ノ進行制限ニ依リ請負人ニ損害アルモ縣廳ハ辨償ノ責ニ任セス

第二十四條 請負金額ハ工事全部竣功後請負人ノ請求書ニ依リ縣廳之ヲ支拂フモノトス但シ請負金額五百圓以上ニ限り工事中ト雖既濟部分ニ對シ其ノ金額五分ノ四ヲ限度トシ左ノ區別ニ依リ内渡ヲ爲スコトアルヘシ

請負高金五百圓以上千圓未満 一回

同 金千圓以上五千圓未満 二回以下

同 金五千圓以上 三回以下

工費請求書ニハ總テ檢査係員ノ附與セル證明書ヲ添附シテ差出スヘシ

第二十五條 第十二條第十九條ニ依リ契約解除ノトキ及第二十七條ノ修理ヲ怠リタルトキハ契約保證金ヲ縣廳ノ所得ニ歸セシム

前項ノ場合ニ於テ契約保證金ノ代用トシテ國債證書又ハ勸業債券若ハ農工債券ヲ縣廳ニ領置セルトキハ縣廳ハ之ヲ賣却シ契約保證金ノ金額ニ相當スル金額ヲ縣廳ノ所得トシ且ツ其ノ賣却費用ヲ控除シ尙剩餘アレハ請負人ニ還附ス若其ノ賣却價額ニシテ契約保證金及其ノ賣却ニ要シタル費用ノ額ニ達セサルトキハ其ノ不足額ハ請負人ヨリ追徴スルモノトス

第二十六條 工事ノ全部竣功證明書附與前ニ於ケル損害ハ總テ請負人ノ負擔トス其ノ不可抗力ノ事變

ニ原因シタルモノ亦同シ

第二十七條 請負人ハ工事ノ全部竣功シ證明書ヲ受ケタル日ヨリ起算シ契約書ニ記載スル保證期間其ノ完全ナルヲ保證スルノ義務ヲ有ス若其ノ期間内ニ於テ縣廳ノ確認スル天災其ノ他抗拒スヘカラサル事故アルニ非ズシテ破損ヲ生スルトキハ請負人ハ自費ヲ以テ之ヲ復舊修理スルノ責アルモノトス但シ復舊修理ノ期限ハ縣廳之ヲ指定ス

第二十八條 縣廳及検査係員ノ認定ニ對シテハ請負人ハ異議ヲ唱フコトヲ得ス

第二十九條 特種ノ工事ニシテ特別ノ條件ヲ要スルトキ又ハ簡易ナル工事ニ對シ縣廳ニ於テ本規程ノ條項ニ増補削除ヲ加ヘムトスルトキハ之ヲ契約書ニ記入スルモノトス

第三十條 隨意請負契約ニ付テモ本規程ヲ適用スルコトアルヘシ

○神奈川縣訓令第一號

明治三十二年一月十三日

郡 役 所

當廳内務部第二課土木係派出所三箇所ヲ設置シ明治三十二年一月十六日以降郡部土木事業ニ關スル調査及其ノ工事監督ヲ爲サシム其ノ名稱位置及受持區域左ノ如シ

第一區 土木係派出所 神奈川縣廳内

受持 久良岐、橘樹、都筑、鎌倉、三浦ノ五郡
區域

第二區 土木係派出所 愛甲郡役所内

受持 高座、愛甲、津久井ノ三郡
區域

第三區 土木係派出所 足柄下郡役所内

受持 中、足柄上、足柄下ノ三郡
區域

○神奈川縣訓令第二號

明治三十二年一月十三日

郡 役 所

自今左ノ事項ニ關スル願届等ニシテ當廳ニ送付スヘキモノハ各々受持土木係派出所ヲ經由シテ差出ス

- 一 水車及河水分水使用ニ關スル件
- 一 堤塘、道路、橋梁、用悪水路ノ新設變更及修繕ニ關スル件
- 一 道路、堤塘並木敷等ノ使用ニ關スル件
- 一 道路並木敷、堤塘等ノ竹木ニ關スル件

○神奈川縣訓令第十三號

明治三十二年五月二日

郡 役 所

町村ニ於テ地盤ノ官有ニ係ル堤塘道路用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木ヲ伐採セムトスルトキハ自今其ノ町村ヨリ豫メ所在地名地目品目員數目通枝下及事由等ヲ詳記シ所在地及近接地ヲ明示セル圖面ヲ添

土 木

付シ當廳ニ差出シ認可ヲ請ハシムヘシ

○神奈川縣令第六十號

明治三十二年八月十五日

崖地取締規則左ノ通之ヲ定ム

崖地取締規則

- 第一條 崖地ノ形狀ヲ變更セムトスルトキハ其ノ變更ヲ必要トスル事由及地形ヲ詳記シタル願書ニ左ノ書類圖面ヲ添付シ當廳ニ提出シ許可ヲ請フヘシ但シ二割以上ノ勾配ヲ有スルモノ及壞崩ノ虞ナキモノニシテ土質取調書ニ其ノ事由ヲ詳記シタルモノハ六號ノ設計書ヲ要セス
 - 一 實測平面圖 縮尺二千分ノ一以上
 - 二 實測縱斷面圖 同縱百分ノ一 同横二千分ノ一 以上
 - 三 實測橫斷面圖 同百分ノ一以上
 - 四 土質取調書
 - 五 防備工事著手竣工豫定期日
 - 六 防備工事設計書
- 第二條 宅地内ノ崖地若ハ宅地ニ接スル崖地ニシテ現在二割以上ノ勾配ヲ有セサルモノハ其ノ所有者ニ於テ明治三十三年十二月三十一日限り壞崩防備工事施行ノ願書ニ第一條一號乃至六號ノ圖面書類ヲ添付シ當廳ニ提出シ許可ヲ受ケ其ノ工事ヲ施行スヘシ

第三條 第二條ノ崖地ニシテ土質ニ依リ崩壞ノ虞ナキモノト縣廳ニ於テ認ムルモノハ其ノ防備工事ヲ免除ス

防備工事ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ第二條ノ期限内ニ於テ其ノ願書ニ第一條一號乃至四號ノ圖面書類ヲ添付シ當廳ニ提出シ之カ許可ヲ請フヘシ

第四條 壞崩防備工事ノ許可ヲ請タルモノニシテ天災其ノ他正當ノ事由ニ依リ豫定期日ニ著手若ハ竣工スル能ハサルトキハ事故ノ止ミタル後二十日以内ニ更ニ著手竣工ノ期日ヲ定メ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ當廳ニ提出シ施行期間變更ノ許可ヲ請フヘシ

第五條 壞崩防備工事落成ノトキハ十日以内ニ當廳ニ届出テ検査證ノ下附ヲ請フヘシ

第六條 此ノ規則第一條第二條ノ許可ヲ受ケサルモノ又ハ工事ヲ施行セサルモノ第四條ニ違背シタルモノハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ第五條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ料ニ處ス

附 則

第七條 此ノ規則ハ當分ノ内橫濱市及久良岐、橘樹ノ二郡ニ限り施行ス

○神奈川縣告示第百二十一號

明治三十四年五月十四日

橘樹郡稻田村ヨリ海ニ至ル多摩川筋ヲ明治三十二年勅令第四百四號第一條ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ經テ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スル河川ト認定ス

○神奈川縣告示第百六十五號

明治三十四年七月九日

明治三十四年三月神奈川縣告示第三十八號市郡連帶及市郡各部單獨ノ縣費ヲ以テ維持保存スル道路及河川海岸ノ名稱區域左ノ如シ

市郡連帶縣費維持保存ノ道路線名及區域

一第一號國道線

武藏國橘樹郡川崎町ヨリ同國同郡子安村迄

一第二號國道線

武藏國橘樹郡保土ヶ谷町ヨリ相模國足柄下郡箱根町迄

一第拾六號國道線

相模國津久井郡千木良村ヨリ同國同郡小淵村迄

一第拾五號國道線

武藏國久良岐郡大岡川村ヨリ相模國三浦郡橫須賀町迄

市郡縣費維持保存ノ道路線名及區域

一第二號國道線

橫濱市本町一丁目ヨリ同市神奈川町地内武藏國橘樹郡子安村界迄

一第二號國道線

橫濱市青木町地内第一號國道分岐點ヨリ同市淺間町地内武藏國橘樹郡保土ヶ谷町界迄

一第拾五號國道線

橫濱市本町通り四、五丁目第一號國道ヨリ分岐シ吉田橋ヨリ福富町末吉町ヲ經テ南吉田町地内武

藏國久良岐郡大岡川村界迄

一甲州往還

橫濱市吉田町四拾五號國道ヨリ分岐シ野毛町戸部町平沼町ヲ經テ同市淺間町地内武藏國橘樹郡保

土ヶ谷町界迄

一都筑往還

橫濱市神奈川町地内第一號國道ヨリ分岐シ武藏國橘樹郡城郷村界迄

郡部縣費維持保存ノ河川海岸ノ名稱及區域

一多摩川

一鶴見川

一帷子川

一柏尾川

一境川

一相模川

二道志川

二串川

二中津川

二小鮎川

一荻野川

一金目川

一水無川

一玉川

- 一室川
- 一鈴川
- 一大根川
- 一澁田川
- 一酒匂川
- 一内川
- 一四拾八瀬川
- 一川音川
- 一狩川
- 一早川
- 一櫛樹郡海岸
- 一久良岐郡海岸
- 一三浦郡海岸
- 一鎌倉郡海岸
- 一中郡海岸

但シ海岸ニ在テハ從來縣費ノ補助又ハ縣費ヲ以テ負擔シ來リタル町村ノ内工事ヲ施行シタル慣例
アル字ノ場所ニ限ル

郡部縣費維持保存ノ道路線名及區域

- 一甲州往還
- 武藏國櫛樹郡保土ヶ谷町ヨリ同國都筑郡都岡村ヲ經テ同郡田奈村ニ至リ東京府境迄
- 一三浦往還
- 相模國三浦郡横須賀町地内第四十五號國道ヨリ分岐シ同郡浦賀町ヲ經テ同郡初聲村地内吉野三崎間往還迄
- 一矢倉澤往還

武藏國櫛樹郡高津村ヨリ同國都筑郡田奈村相模國高座郡綾瀬村同國愛甲郡厚木町同國中郡秦野町及同國足柄上郡松田村ヲ經同郡北足柄村地内静岡縣境迄

一埼玉往還

相模國中郡平塚町ヨリ同國愛甲郡厚木町依知村ヲ經テ同國高座郡相原村地内東京府境迄

一足柄古往還

相模國足柄下郡小田原町地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡二川村ヲ經テ同國足柄上郡南足柄村地内

矢倉澤往還迄

一熱海往還

相模國足柄下郡小田原町地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡真鶴村ヲ經テ同郡土肥村地内静岡縣境迄

一厚木往還

相模國鎌倉郡川上村地内第二號國道ヨリ分岐シ同國高座郡澁谷村ヲ經テ同郡御所見村地内吉野三

崎間往還迄

一津久井往還

相模國高座郡大野村ヨリ同郡相原村ヲ經テ同國津久井郡中野村ニ至ル迄

一都筑往還

武藏國櫛樹郡城郷村ヨリ同郡大綱村ヲ經テ同國都筑郡都田村ニ至ル迄

一戸塚雪ノ下間往還

相模國鎌倉郡戸塚町地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡豊田村ヲ經テ同郡小坂村地内鎌倉往還迄

一吉野三崎間往還

相模國津久井郡吉野驛地内第十六號國道ヨリ分岐シ同郡長竹村同國愛甲郡愛川村厚木町同國中郡相川村同國高座郡六會村藤澤大坂町同國鎌倉郡鎌倉町同國三浦郡田越村葉山村ヲ經テ同郡三崎町ニ至ル迄

一横須賀吉野間往還

武藏國久良岐郡六浦莊村地内第四拾五號國道ヨリ分岐シ相模國鎌倉郡鎌倉町地内吉野三崎間往還迄

一鎌倉往還

武藏國久良岐郡大岡川村地内第四拾五號國道ヨリ分岐シ相模國鎌倉郡本郷村ヲ經テ同郡鎌倉町ニ至ル迄

一府中往還

武藏國橘樹郡川崎町地内第一號國道ヨリ分岐シ同郡中原村高津村經テ同郡稻田村地内東京府境迄

一秦野往還

相模國中郡平塚町地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡大野村金目村ヲ經テ同郡秦野町ニ至ル迄

一江ノ島往還

相模國高座郡藤澤大坂町地内第二號國道ヨリ分岐シ同國鎌倉郡川口村江ノ嶋ニ至リ及ヒ同所ヨリ同郡腰越津村ヲ經テ同郡鎌倉町地内吉野三崎間往還迄

一日野往還

武藏國都筑郡都田村地内都筑往還ノ終點ヨリ同郡中里村ヲ經テ同郡柿生村地内東京府境迄

一横濱厚木間里道

武藏國橘樹郡保土ヶ谷町地内横濱市界ヨリ相模國鎌倉郡瀬谷村ヲ經テ同國高座郡海老名村地内矢倉澤往還迄

一神奈川高津間里道

武藏國橘樹郡城郷村地内都筑往還ヨリ分岐シ同郡大綱村同國都筑郡新田村ヲ經テ橘樹郡高津村地内矢倉澤往還迄

一柿生稻田間里道

武藏國都筑郡柿生村地内日野往還ヨリ分岐シ同國橘樹郡生田村高石生田ヲ經テ同郡稻田村登戸地内東京府境迄

一横濱金澤間里道

武藏國久良岐郡大岡川村ヨリ犀風浦村ヲ經テ同郡金澤村地内第四拾五號國道迄

一浦郷逗子間里道

相模國三浦郡浦郷村地内第四拾五號國道ヨリ分岐シ逗子停車場ニ至ル迄

一豊島武山間里道

相模國三浦郡豊嶋村地内三浦往還ヨリ分岐シ同郡衣笠村ヲ經テ同郡武山村武地内吉野三崎間往還迄

一 戸塚中和田間里道
 一 戸塚停車場ヨリ相摸國鎌倉郡中和田村地内厚木往還迄
 一 大船小袋谷間里道
 一 大船停車場ヨリ相摸國鎌倉郡小坂村小袋谷地内戸塚雪ノ下間往還迄
 一 藤澤大和間里道
 一 相摸國高座郡藤澤大坂町吉野三崎間往還ヨリ分岐シテ同郡磁谷村ヲ經テ同郡大和村地内東京府境迄
 一 鶴嶺溝間里道
 一 相摸國高座郡鶴嶺村第二號國道ヨリ同郡海老名村ヲ經テ同郡溝村地内埼玉往還迄
 一 平塚伊勢原間里道
 一 平塚町地内秦野往還ヨリ相摸國中郡伊勢原町迄
 一 吾妻秦野間里道
 一 相摸國中郡吾妻村地内第二號國道ヨリ分岐シ同國足柄上郡井ノ口村ヲ經テ同國中郡秦野町迄
 一 國府津松田間里道
 一 相摸國足柄下郡國府津村地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡田島村下曾我村及同國足柄上郡金田村ヲ經テ松田村ニ至リ矢倉澤往還迄
 一 小田原松田間里道

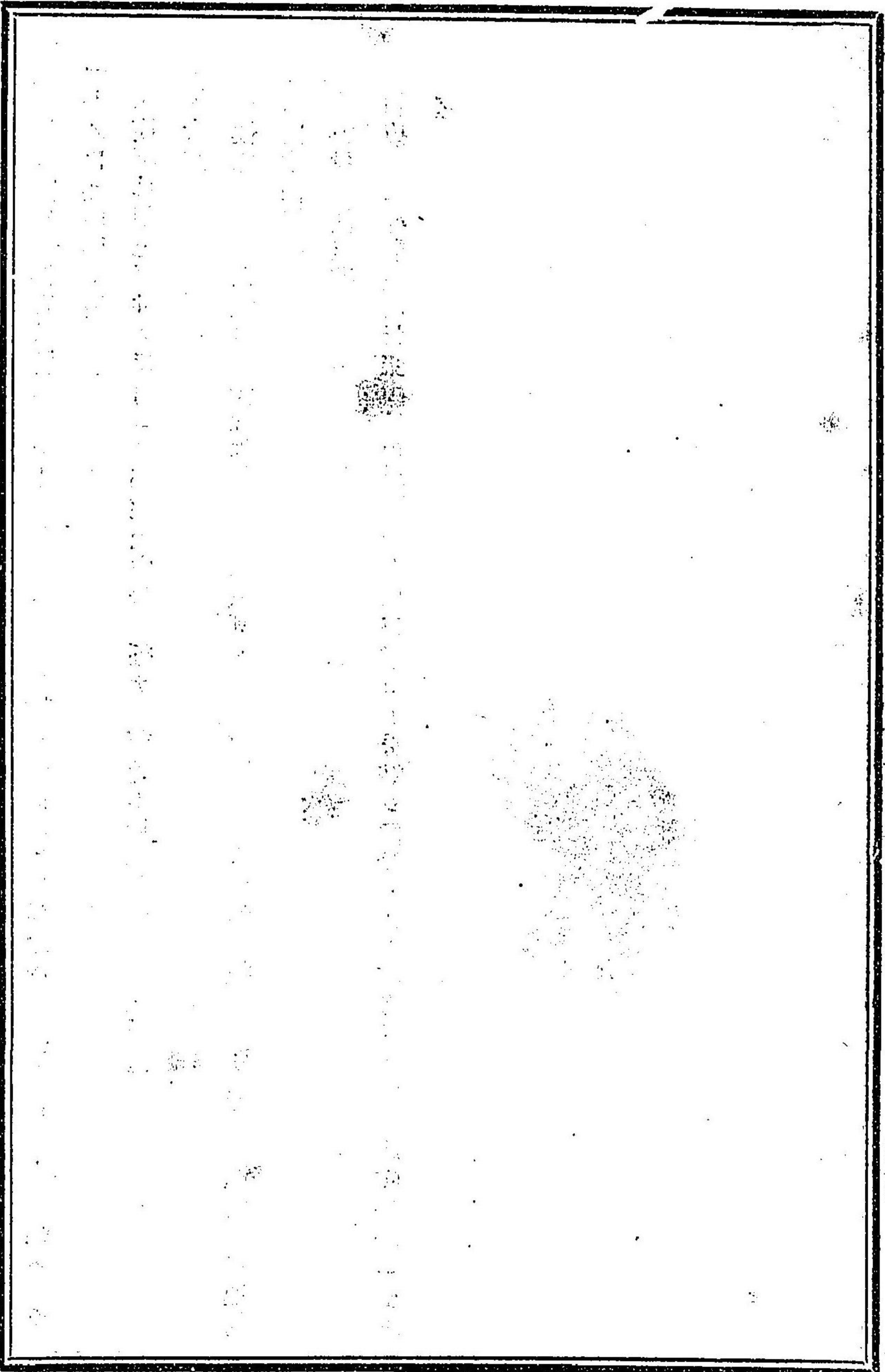
相摸國足柄下郡二川村地内足柄古往還ヨリ分岐シ同郡豊川村ヲ經テ同國足柄上郡松田村地内矢倉澤往還迄
 一 依知高峯間里道
 一 相摸國愛甲郡依知村地内埼玉往還ヨリ分岐シ同郡高峯村迄
 一 中野三ヶ木間里道
 一 相摸國津久井郡中野村津久井往還終點ヨリ同郡三ヶ木村地内吉野三崎間往還迄
 一 川尻相原間里道
 一 相摸國津久井郡川尻村地内津久井往還ヨリ分岐シ同國高座郡相原村地内埼玉往還迄
 一 佐野川村地内里道
 一 相摸國津久井郡佐野川村地内山梨縣界ヨリ東京府南多摩郡恩方村境迄
 一 相原伊勢原間里道
 一 相摸國高座郡相原村地内埼玉往還ヨリ分岐シ同國愛甲郡中津村及同國中郡高部屋村ヲ經テ同郡伊勢原町地内矢倉澤往還迄
 一 大綱中原間里道
 一 武藏國桶樹郡大綱村地内都筑往還ヨリ分岐シ同國都筑郡新田村ヲ經テ同國桶樹郡中原村地内東京府境迄
 一 向丘高津間里道

武藏國橋樹郡向丘村ヨリ同郡高津村地内矢倉澤往還迄
 一 二川山北間里道
 相摸國足柄下郡二川村地内足柄古往還ヨリ分岐シ同國足柄上郡櫻井村吉田島村ヲ經テ山北停車場迄
 一 山北谷ヶ間里道
 山北停車場ヨリ相摸國足柄上郡共和村都夫良野ヲ經テ同郡谷ヶ村地内静岡縣境迄
 一 御所見座間間里道
 相摸國高座郡御所見村地内吉野三崎間往還ヨリ分岐シ同郡座間村地内鶴嶺溝間里道迄
 一 煤ヶ谷厚木間里道
 相摸國愛甲郡煤ヶ谷村ヨリ同郡厚木町ニ至ル迄
 一 厚木大山間里道
 相摸國愛甲郡厚木町ヨリ同國中郡大山町ニ至ル迄
 一 湯本宮城野間里道
 相摸國足柄下郡湯本村地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡温泉村ヲ經テ同郡宮城野村ニ至ル迄
 一 中川瀬谷間里道
 相摸國鎌倉郡中川村瀬津地内厚木往還ヨリ分岐シ阿久和ヲ經テ同郡瀬谷村ニツ橋地内横濱厚木間里道迄

一 町田御幸間里道
 武藏國橋樹郡町田村地内第一號國道ヨリ分岐シ同郡御幸村地内府中往還迄
 一 川上戸太間里道
 相摸國鎌倉郡川上村地内第二號國道ヨリ分岐シ武藏國久良岐郡大岡川村横濱市境迄
 一 都田田奈間里道
 武藏國都筑郡都田村川和地内都筑往還ヨリ分岐シ同郡中里村ヲ經テ田奈村恩田ニ至リ矢倉澤往還ニ合シ田奈村長津田ニ至リ再ヒ分岐シテ東京府境ニ至ル迄
 一 川崎地内里道
 停車場ヨリ府中往還ニ接続スル迄
 一 鶴見地内里道
 停車場ヨリ第一號國道ニ接続スル迄
 一 保土ヶ谷地内里道
 停車場ヨリ第二號國道ニ接続スル迄
 一 大船藤澤間里道
 相模國鎌倉郡小坂村地内大船小袋谷間里道ヨリ分岐シ同郡玉繩村ヲ經テ同郡藤澤大富町ニ至リ第一號國道ニ接続スル迄
 一 平塚地内里道

停車場ヨリ第二號國道ヲ横斷シテ同國道ヨリ分岐スル埼玉秦野往還ニ連續スルニ線路
 一大磯地内里道
 停車場ヨリ第二號國道ニ接續スル迄
 一國府津地内里道
 停車場ヨリ第二號國道ニ接續スル迄
 一鎌倉地内里道
 停車場ヨリ横須賀吉野間往還ニ接續スル迄
 一逗子地内里道
 停車場ヨリ吉野三崎間往還ニ接續スル迄
 一橋御幸間里道
 武藏國橋樹郡橋村千年ヨリ同郡住吉村日吉村ヲ經テ同郡御幸村地内町田御幸間里道迄
 一明治伊勢原間里道
 相模國高座郡明治村辻堂地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡寒川村同國中郡神田村ヲ經テ同郡伊勢原
 町ニ至ル迄
 一鳥屋太井間里道
 相模國津久井郡鳥屋村ヨリ同郡長竹村ヲ經テ同郡太井村地内津久井往還迄
 一吉野佐野川間里道

相模國津久井郡吉野驛地内第十六號國道ヨリ分岐シ同郡佐野川村地内縣費支辨里道ニ接續スル迄
 一井ノ口松田間里道
 相模國足柄上郡井ノ口村ヨリ同郡上中村ヲ經テ同郡松田村地内矢倉澤往還迄
 一國府津岡本間里道
 相模國足柄下郡國府津村地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡下府中村ヲ經テ同國足柄上郡岡本村地内
 足柄古往還迄
 一豊嶋村地内里道
 相模國三浦郡豊島村深田地内豊島武山間里道ヨリ分岐シ同村不入斗要塞砲兵第一聯隊營所ニ至ル
 迄



◎地 理

○乙第八十三號

明治十三年五月十日

郡區役所 戶長役場

中小學校設立ノ地所無代價下渡ノ義ニ付明治七年十月庶第四十九號同八年九月第百六十四號ヲ以テ舊區戶長學區取締ニ相達置候處教育令公布相成候ニ付テハ自今公立小學校ハ五百坪以內公立中學校公立專門學校ハ千坪以內ノ地ヲ官有地ノ内ニ於テ差支無之場所有之向ハ該學校設置ノ地所トシテ無代價下渡可相成候條此旨相達候事

○乙第百二十三號

明治十三年七月十二日

郡區役所 戶長役場

公立學校設置之地所下與之義ニ付本年五月乙第八十三號ヲ以テ相達置候處自今官有地下賜ヲ請ヒ校舍ヲ建築セントスレハ先以成功ノ期限ヲ定メ其期限中ハ官有地ノ儘無代價使用可差許候ニ付其旨爲願出許可ヲ經テ起工致シ全ク成功ノ上更ニ無代下渡方可爲願出義ト可相心得此旨相達候事

○乙第六十號

明治十四年四月十九日

郡區役所 戶長役場

中小専門學校設立ノ地所無代下渡方ノ義ニ付明治十三年五月乙第八十三號ヲ以相達置候處自今公立商業學校及ヒ公立職工學校設立ノ地所モ公立専門學校同様下渡可相成候條此旨相達候事

○告第五十一號 明治十九年四月二十七日

自今官地ヲ借用セントスルモノハ左ノ定規ニ據リ出願スヘシ從前ノ慣行ニ依リ堤上堤腹道路及並木敷ヲ使用セントスルモノモ亦之ニ準據スヘシ但明治十二年二月甲第二十五號布達ヲ廢ス
右告示ス

官地貸渡定規

- 第一條 土地ヲ借用セント欲スルモノハ使用法ヲ定メ土地ヲ所有スル保証人二名以上ヲ定メ甲號書式ニ倣ヒ圖面ヲ添へ願出ヘシ
- 但圖面ハ近傍ノ地形ヲ寫シ借用地ハ斜詰ノ間尺ヲ配シ接地ノ地種地目ヲ記スヘシ
- 第二條 借用ノ許可ヲ得タルトキハ乙號書式ニ倣ヒ受書ヲ認メ戶長役場へ呈出シ地所ヲ受取ルヘシ
- 第三條 地所ヲ受取タルトキハ借用地ノ間敷及ヒ借地人ノ姓名ヲ記載シタル標杭ヲ四隅ノ境界ニ建設スヘシ
- 第四條 借用期限中許可ヲ經ルニアラサレハ使用法ヲ變換スルヲ得ス
- 第五條 借地人事故アリテ借用地ノ義務ヲ辨スル能ハサル時ハ保證人之エ代リ總テ理辨スヘシ
- 第六條 貸下料ハ左ノ區別ニ據リ上納スヘシ

十九年告示第
九十號ヲ以テ
正第十一條中改
同告示第百
八號ヲ以テ第
十五條追加
二十四年告示
第十八號ヲ以
テ本文中追加
并第六條中及
第十一條改正

- 第一 年ヲ以テ貸渡シタル料金ハ甲年四月ヨリ乙年三月迄ヲ一期トシ甲年四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ貸渡シタルモノハ初期分ニ限リ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス
- 第二 月又ハ日ヲ以テ貸渡タル料金ハ許可ノ日ヨリ三十日以内土地使用前ニ徵收ス
- 第三 年ヲ以テ貸渡ノ契約四月ニ起リ若クハ三月ニ滿期トナルモノハ全年分ヲ算定シ五月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算定ス
- 第四 月ヲ以テ貸渡ノ契約ハ初月終月ヲ問ハス總テ全月分ヲ算定ス
- 第七條 貸下料ヲ息納シタルトキハ貸下ヲ取消スヘシ
- 第八條 官廳ニ於テ返地ヲ命スルヲ必要ナリト見認ムル時ハ貸渡期限中ト雖モ返地セシムルコトアルヘシ
- 第九條 官廳ヨリ返地ヲ命シタルトキハ左ノ期限内ニ返還スヘシ但別段ノ言渡シアルトキハ此限ニアラス
- 第一 年期ヲ以テ貸渡シタル地ハ六ヶ月以内
- 第二 月數ヲ以テ貸渡シタル地ハ十五日以内
- 第三 日數ヲ以テ貸渡シタル地ハ三日以内
- 第十條 地所ヲ返還シ及ヒ貸下ヲ取消シタル場合於テ如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付セサルヘシ
- 第十一條 有期貸渡ニ屬スル契約ヲ該期限中解除シタルトキハ其料金免除方ハ左ノ各項ニ依ル
- 第一 年ヲ以テ貸渡シタルモノヲ官廳ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其ノ月ヨリ免除シ借用人ノ都

合又ハ契約違犯ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第二 月ヲ以テ貸渡シタルモノヲ官廳ノ都合ニヨリ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ借用人ノ都合又ハ契約違犯ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第三 日ヲ以テ貸渡シタルモノヲ官廳又ハ借用人都合ニ依リ解除シタルトキハ其日ヨリ免除ス

第十二條 借用地満期ニ至リ尙繼續セント欲スルモノハ年期ヲ以テ貸渡アル地ハ満期三ヶ月以前二月數ヲ以テ貸渡シアル地ハ満期十日以前ニ第一條ノ手續ヲ以テ願出ヘシ

第十三條 満期又ハ年期中地所ヲ返還セント欲スルトキハ其旨申出地所ハ戸長ノ點檢ヲ受クヘシ

第十四條 借用地ニ區町村費ヲ賦課セラレタルトキハ之ニ應スヘシ

第十五條 借用地ニ建設シタル家屋ニ他府縣又ハ他郡區ノ者ヲ寄留セシメタルトキハ本年内務省令第十九號第六條ノ届出ヲ爲スヘシ

甲號

官有地借用願

何國何郡何町第何番 地番號ナキ地ハ其旨記載スヘシ

字何々

一何 案地 何程

此借地料 ケ月何程

右ハ何々 使用ノ事故ヲ記載スヘシ

何國何郡何町

願人何

某

但一反又ハ一年ニ付金何程

但一反又ハ一年ニ付金何程 間明治十九年第五十二號御告示ノ趣遵奉拜借仕度依之圖

面相添此段奉願候也

年 月 日

願人何 某

何國何郡何町

保証人何 某

同

同 何 某

戸長 何 某

縣令又ハ郡區長宛

乙號

官地拜借受書

何國何郡何町第何番

字何々

一何 案地 何程

此拜借料 ケ月何程

但一反或ハ一年ニ付金何程 但一反或ハ一年ニ付金何程 右ハ何々 使用ノ事故ヲ記載スヘシ 使用ノ爲何年ヨリ何年迄何ケ年 間拜借御許可相成候ニ付テハ明治十九年第五十二號御告示官地貸渡定規之趣遵奉確守可仕候依之保証人連署御受書差上候也

何國何郡何町

拜借人何 某

年 月 日

拜借人何 某

何國何郡何町

保証人 何

某

同

同 何

某

縣令又ハ郡區長宛

所管町村戸長與書調印スヘシ

○訓令甲第三十四號

明治二十三年十一月二十四日

郡役所 市役所

二十四年訓令
甲第七十五號
改正
以テ本文中

官有土地水面ノ拂下又ハ借用之義願出ル者アルトキハ其地價若クハ貸渡料ノ當否ヲ調査シ意見開申ス
ヘシ期限ニ至リ繼續シテ借用願出ル場合ニ於テモ亦同シ

但近傍類地賣買及ヒ貸借上ノ實例ヲ別表ニ準シ取調意見書ニ添付スヘシ

地所賣買價額(貸地料)取調表

貸借年月日	郡市	町村名	字	番號	地目	反別	賣買價年額	一反ノ歩價

地所貸借上ノ契約ナキ場所ハ普通一ケ年小作入付米金(小作米ハ時價ノ相場ヲ以テ代金ニ換フ)ヲ掲ケ本表ヲ折衷シテ調製スヘシ

○神奈川縣訓令第十三號

明治二十九年三月十八日

郡役所 市役所

三十六年訓令
第廿五號ヲ以
テ第四項追加

- 一 陸地測量諸標及同敷地ハ陸地測量標條例施行細則ニ據リ市町村長ヲシテ之ヲ監守セシム
- 二 測量諸標及同敷地ハ當廳ヨリ明細書ヲ添ヘ通知スヘシ
- 三 測量諸標及同敷地ノ亡失毀損其ノ他異狀アルトキハ監守ノ市町村長ヨリ事由ヲ附シ當廳ヘ届出ルモノトス
- 四 前項ノ届書ハ左ノ例ニ據リ列記スヘシ
 - 一 等級番號及名稱
 - 何等三角點(水準點)第何號名稱何々
 - 二 測量標ノ種類
 - 規標又ハ標石或ハ標杭但シ規標ノミ異狀アリタル時ト雖必ス標石異狀ノ有無ヲ附記スルヲ要ス
 - 三 建設所在
 - 何國何郡何町大字、字、地目、地番
 - 四 異狀ノ事由

何月何日暴風雨又ハ地震或ハ人爲ニ因リ規標全部顛倒或ハ某部分毀損等其ノ實況ヲ詳記シ若シ其ノ標石ニ異狀アルトキハ必ス略圖ノ添付ヲ要ス但シ人爲ニ因リタル場合ニハ其ノ犯人捜査ノ情況ヲ附記スルコト

○神奈川縣訓令第二十八號

明治三十三年四月二十四日

郡役所 市役所

第一條 左ニ掲ケタル事項ニ就テハ其ノ都度當廳ヲ經由シテ内務大臣ニ報告スヘシ

一 土地收用法第十五條第一項ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間

二 土地收用法第十五條第二項ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域

第二條 土地收用法第十三條ニ依リ起業者ノ申請書ヲ進達スルトキハ起業地全部ノ市町村名調書ヲ添付スヘシ

○神奈川縣訓令第四十六號

明治三十三年十二月十一日

郡役所 市役所

官有地ノ拂下又ハ下渡等ヲ出願スル場合ニ於テ新ニ地番ヲ附スルトキハ當該大字(小字毎ニ地番ノ付シアルモノハ其ノ小字)ノ終番ヲ追ヒ其ノ次番ヨリ附記セシムヘシ

明治二十八年^{十二}神奈川縣訓令第七十一號ヲ廢止ス

○神奈川縣令第七十二號

明治三十三年十二月十三日

公有水面埋立規則左ノ通之ヲ定ム

公有水面埋立規則

三十四年縣令
第四十八號ヲ
以テ第六條第
七條中改正ス

第一條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テムトスル者ハ別ニ定ムル所ノ書式ニ據リ保證人二名以上ヲ定メ左ノ事項ヲ記載シタル願書、設計書及圖面ニ通テ縣廳ニ提出スヘシ但シ一町歩以上ノモノハ三通ヲ要ス

一 出願人及保證人ノ住所、氏名、生年月日並職業

二 埋立ノ位置及區域

三 埋立ノ目的

四 著手及成功ノ期限

設計書ニハ施工方法及材料ノ名稱、形狀、價格、數量並使用ノ割合其ノ他總テ施工ニ關スル事項ヲ詳記スルコトヲ要ス

圖面ハ縮尺ヲ定メテ調製シタル實測平面圖、實測縱断面圖、實測橫断面圖及埋立地近傍百間以上ヲ示シタル見取圖ノ四トス但シ埋立地ニ設置スル橋梁、溝渠其ノ他工作物ノ圖面ハ各別ニ調製スルコトヲ要ス

- 第二條 位置、區域、工事ノ設計其ノ他埋立地ニ關スル調査ノ費用ハ總テ出願人又ハ免許人ノ負擔トス
- 第三條 工事ノ設計又ハ施行ニ關シ擔任技術者ノ必要ヲ認ムルトキハ知事ハ出願人又ハ免許人ヲシテ之ヲ撰定セシムルコトヲ得
- 第四條 保證人ハ本縣管内ニ現住シ事業ヲ成功シ得ヘキ資力ヲ有スルコトヲ要ス
保證人ハ出願人又ハ免許人カ其ノ義務ヲ履行セサル場合ニ於テ本人ニ代リ其ノ履行ヲ爲スノ責任トス
- 第五條 左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ埋立出願ノ効力ヲ失フ
 - 一 出願書類ニ對シ訂正ヲ要スル爲下渡シタルトキ指定期間内ニ提出セサルモノ
 - 二 調査上必要アリト認メ特ニ提出ヲ命シタル書類ヲ指定期間内ニ提出セサルモノ
 - 三 第三條ニ依リ命シタル擔任技術者ヲ指定期間内ニ定メサルモノ
 - 四 第二條ノ義務ヲ履行セサルモノ
- 第六條 左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ免許ヲ取消スコトヲ得
 - 一 知事ノ許可ヲ受ケス免許權ヲ擔保或ハ貸付ニ供シ又ハ他人ニ移シタルモノ
 - 二 免許ノ設計ニ異リタル工事ヲ爲シタルモノ
 - 三 設計ノ變更ヲ命シタルトキ之ヲ拒ミタルモノ
 - 四 埋立工事ノ爲他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アルトキ指定期間内ニ其ノ障害ヲ除却セス又

ハ豫防ノ設備ヲ爲ササルモノ

- 五 公益ノ爲必要ナル事業ニ依リ埋立工事ノ除却又ハ變更ヲ命シタルトキ之ヲ爲ササルモノ
 - 六 監督上必要アリト認メ特ニ提出ヲ命シタル書類ヲ指定ノ期間内ニ提出セサルモノ
 - 七 埋立工事ヲ工程順序書ニ據リ施行セサルモノ
 - 第七條左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ免許ノ効力ヲ失フ
 - 一 免許ヲ受ケタル日ヨリ三個月以内ニ著手セサルモノ
 - 二 埋立工事ヲ指定ノ期間内ニ竣功セサルモノ
 - 第八條 天災事變ノ爲ニ期間内ニ著手若ハ成功シ難キ事情アルモノハ其ノ事由ノ止ミタル後二個月以内ニ出願スルトキハ知事ハ相當ノ期間ヲ限り之ヲ猶豫スルコトヲ得
 - 第九條 第六條及第七條ニ依リ免許權ヲ失ヒタルトキ又ハ免許人ニ於テ埋立工事ヲ廢止シタルトキハ既成埋立地ハ無償ニテ官有ニ歸スルモノトス但シ既成工事ニシテ他ニ障害ヲ及ホスモノト認ムルトキハ指定期間内ニ之ヲ修補若ハ除却セシムルコトヲ得
 - 第十條 本則ハ其ノ施行前ニ免許ヲ與ヘタルモノニモ之ヲ適用ス但シ本則施行前命令シタル條項ハ本則ノ爲ニ其ノ効力ヲ妨ケラルルコトナシ
- 本則施行以前ニ於テ埋立ヲ許可シタルモノニ付テハ第七條第一號ノ期間ハ本則發布ノ日ヨリ起算ス

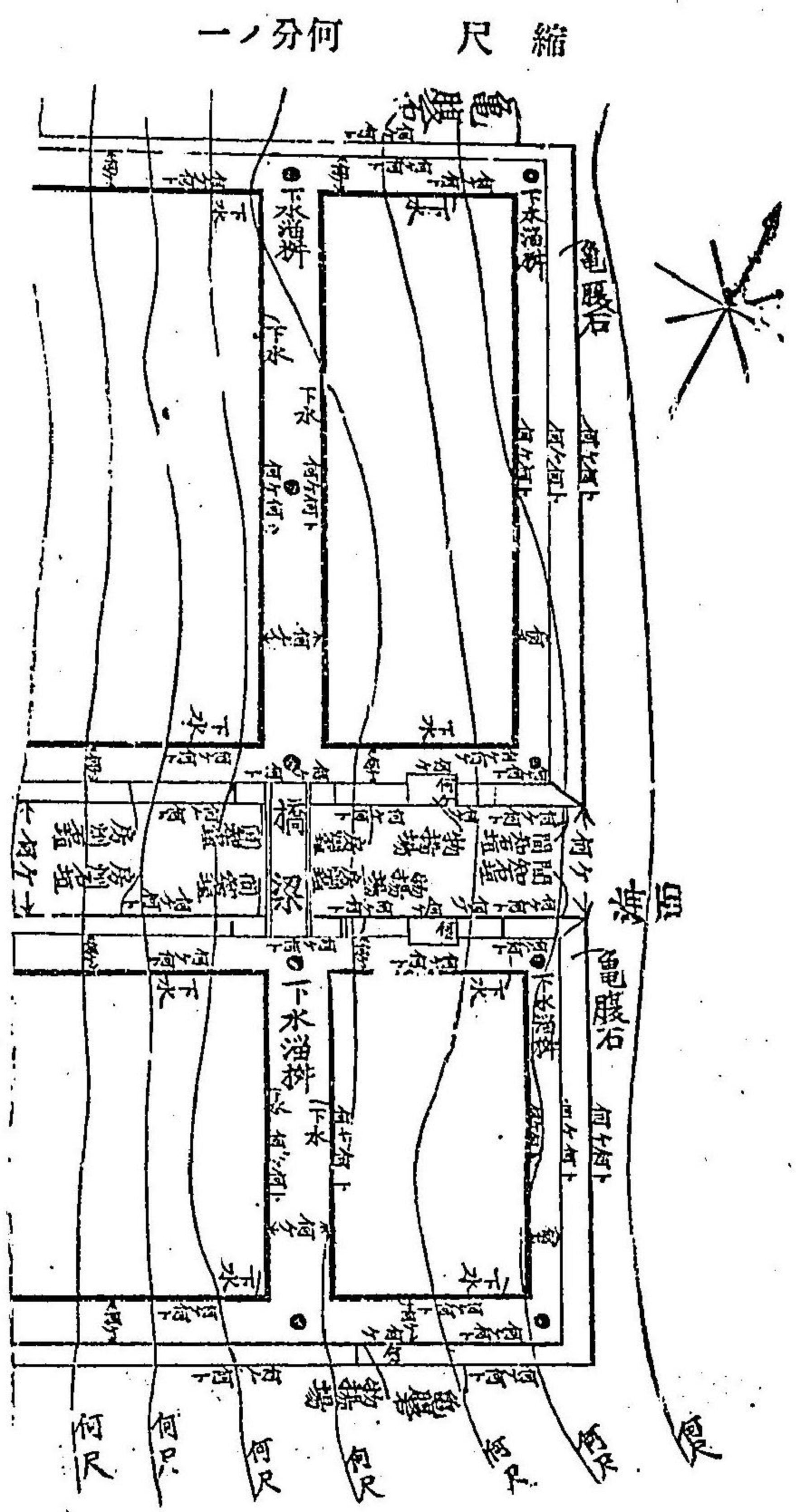
○神奈川縣告示第十三號

明治三十四年一月二十四日

- (一) 何坪何合何夕
- (二) 何坪何合何夕
- (三) 何坪何合何夕
- (四) 何坪何合何夕
- (五) 何坪何合何夕
- 合計 何坪何合何夕

(備考) 本圖ハ縮尺二千分一乃至千二百分一ニ調製シ埋立地ノ位置並其ノ接續地百間以上ノ地形及工作物ノ位置郡市町村大字小字ノ境界等ヲ明示スヘシ
 圖中記入シアル道路、畑、田、山等凡テ著色ヲ以テ區分シ適宜凡例ヲ掲クヘシ

神奈川縣何國郡何市町村地先水面埋立設計圖



圖中記入シアル道路、石垣、下水、物揚場等施工種類ハ凡テ著色ヲ以テ區分シ適宜凡例ヲ掲クヘシ

(備考)

本圖(平面、縱横断面圖等ヲ要ス)ハ縮尺千二百分一以内ニ調製シ埋立地内ニ施スヘキ工事ノ設計、位置、長、巾、高等ヲ明記シ工費内譯書ノ坪數、員數等ニ照合シ得ラルル様明瞭ニ記入ヲ要ス
 道路、河川、堤塘、物揚卸場等ノ敷地ハ各別ニ其ノ坪數ヲ計算シ得ラルル様長、巾、高又ハ斜詰方ヲ以テシタル計算ヲ記載スヘシ但シ縱横断面圖ノ縮尺ハ横断面圖下同シニ調製スヘシ
 海ニ面シタル邊ハ凡テ龜腹石垣ヲ要シ河口ノ如キ風浪ノ衝突ヲ受クヘキ箇所及橋臺ハ間知石垣ノ設計ヲ爲スヘシ